授業科目名(英文名) /Course Title	マクロ経済学/Macroeconomics		
担当教員(所属)/Instructor	茅野 基治郎(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130106
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 1, 月/Mon 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	現実の経済では、家計、企業、政府、中央銀行などの経済主体がさまざまな経済活動に携わっています。こうした経済主体による経済活動が一国の経済に及ぼす影響を分析することがマクロ経済学の課題であり、そこから有効な経済政策を導出することがマクロ経済学の役割です。経済活動と景気循環や経済成長、経済政策との因果関係を理解することがこの講義の目的です。		
授業の達成目標/Course Goals	新聞等で日常的に目にする経済に関する事項、語句等に関する理解を深める。また、経済政策と経済成長との因果関係に対する理解を深める。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	経済・社会問題を理解するために必要な社会科学の基礎を理解するという目標に対して、マクロ経済学の基本的な理論と実際に目に見える経済的な現象の因果関係について講義を行います。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識はありませんが、新聞等の経済記事に目を通すようにしてください。この講義は、「ミクロ経済学」と対になって「農業経済学」の基礎になります。		
関連科目/Related Courses	前提とする知識はありませんが、新聞等の経済記事に目を通すようにしてください。この講義は、「ミクロ経済学」と対になって「農業経済学」の基礎になります。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回講義資料を配布し、それにもとづいて講義します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 経済学とは; マクロ経済学とミクロ経済学 2. 国民所得勘定 3. 国民所得の決定 4. セイの法則と有効需要原理 5. 消費関数、乗数理論 6. 投資関数 7. 理解度を確認するためのチェックシート1 8. 財政政策の機能と役割 9. 財政の課題と解決策 10. 金融政策の機能と役割 11. 金融政策の課題と解決策 12. 理解度を確認するためのチェックシート2 13. IS曲線の導出と応用 14. LM曲線の導出と応用 15. IS-LM分析		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は特に指定しません。 参考書の紹介と使い方等については、初めの授業で行います。		
成績評価の方法/Evaluation	成績は試験によって評価します。評価項目は、a)経済学の基本的なキーワードと理論に関する理解度、b)経済学の理論的な因果関係に対する理解度と応用力、です。		
学習上の助言/Learning Advice	身近な社会で起こっている経済現象への理解を深めるには、社会時事問題への関心を高める同時に因果関係に対する理論的な知識を深めることが不可欠です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際学英書講読/English Reading of International Studies		
担当教員(所属)/Instructor	中村 祐司(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160361
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 1, 月/Mon 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 祐司(yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5181)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 祐司(月) 12:00-12:50)		
授業の内容/Course Description	社会科学領域における英語文献は、個々の文章に真正面から向き合えば必ず読みこなせる類のものである。この授業では、量よりも質を重視し、ひとまとまりの英文(社説や評論)を丁寧に読むことに徹する。		
授業の達成目標/Course Goals	散文とは異なり、社会科学領域の英文はA+B=Cといった単純な足し算に近いものがある。まずは一つ一つの文章の意味を正確に把握し、文章と文章の間の「つながり」を意識しつつ、段落(パラグラフ)におけるポイントを押さえる。そしてさらに、段落と段落の間がどのような論理展開でつながっているのか理解できるようにする。母国語でなくても英語も人間が思考した表現形態の一つと考えれば、その内容は必ず理解できる。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	思考・判断:異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。		
前提とする知識/Prerequisites	国内外の政治的社会的事象、すなわち、この世界の出来事に関心を有し、社会科学領域における英語の社説(論説)を確実に読みこなしていきたいという希望を持っていること。		
関連科目/Related Courses	行政学、地方自治論、現代政治の理論と実際など		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	"The Japan Times on Sunday"の中から、教員が特に国内外の現代政治に関わる興味深い記事(社説や評論を含む)を教材として毎回一つ取り上げる。授業の際に次の授業で用いる記事のコピーを配布するので、1週間の間に一つ一つのセンテンスの意味を自分なりに把握してくる。量としてはタブロイド判(A4判ないしB4判)の半分程度である。訳す際は、白紙の状態から、文章に向き合ってほしい。グループごとの読み進めが中心になる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	(以下は取り扱う記事タイトルの例示) 第1週Asia's health authorities said ready for SARS return 第2週Bush talk of death penalty for Saddam stirs unease 第3週Saddam footage offers rare image of broken dictator 第4週Bin Laden, Omar won't be taken alive: cleric 第5週In New York, an empty ashtray is a smoking gun 第6週Waiting for Gandhi: India's Congress looks to heir apparent 第7週Missile defense gets green light 第8週DPJ's Kan warns of casualties in Iraq 第9週Magazine sold by homeless people 第10週Invisible minority 第11週Unlike South Korea, India's credit boom won't fade 第12週Boeing to begin taking orders for new dream passenger jet 第13週Gene-altered crops around the world 第14週Sexual revolution in China 第15週Different views on history		
教科書・参考書等/Textbooks	毎回、教材(英文社説4本)を配布。		
成績評価の方法/Evaluation	予習の度合(50%)。日本語訳の正確さ(50%)。秀は毎回の授業で英文解釈に積極的に取り組み、また、英文内容の卓越した把握を継続した受講生に与える。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業の質は、受講生が1週間の間に最低でも5~6時間程度、どれだけ集中して予習をしてくるかにかかっている。一つ一つのセンテンスと「格闘する」ぐらいの気持ちが求められる。		
キーワード/Keywords	英文社説の読解力向上		
備考/Notes	毎回の予習が大切である。		

授業科目名(英文名) /Course Title	行政学/Public Administration		
担当教員(所属)/Instructor	中村 祐司(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130343
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 祐司(yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5181)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 祐司(月) 12:00-12:50)		
授業の内容/Course Description	現代行政学の基礎的な考え方と体系的な知識について、日本における事例を紹介しつつ、制度論、管理論、政策論を分かりやすく説明する。現在進行形で生じている行政課題・公共政策・政治的課題についても取り上げて毎回の授業で紹介する。とくに公共サービスの提供主体の変容に注目する。		
授業の達成目標/Course Goals	行政の概念から始めて、現代行政学が成立するに至った現代国家の特質、政治と行政との関係、行政サービスの範囲、政府間関係論、行政官僚制、行政管理、行政計画、行政能率、行政裁量といった行政学の基礎概念を理解し、具体的事例と紹介することで、現代政府の諸活動についての興味関心を持たせる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。		
前提とする知識/Prerequisites	国際組織にしる、国家や地方の組織にしる、政府活動に関心を持つ者であること。政府が提供する特定のサービス領域において、NGOやNPOの活動や公共サービスに何らかの関心があること。		
関連科目/Related Courses	地方自治論や余暇政策論など。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	行政学の基礎知識と受講生なりの考え方を問う論述式の中問試験と期末試験を実施し、学習の達成度を見極める。受講生の理解の手助けとなる事例を挙げながら、また、板書や質問を通じて現代行政活動のダイナミズムについての受講生の興味・関心を維持しつつ進めていく。また、グループ討議も数回程度実施する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 授業計画の説明、行政サービスの範囲 第2週 官僚制と民主制 第3週 アメリカ行政学の展開、行政学の構成 第4週 現代国家の政府体系、戦後日本の中央地方関係 第5週 議院内閣制と省庁制、現代公務員制の構成原理 第6週 官僚制分析の視座、官僚制組織の作動様式 第7週 中間試験 第8週 官僚制組織職員の行動様式、第一線職員と対象集団の相互作用 第9週 官僚制批判の系譜、政策形成と政策立案 第10週 環境変動と政策立案、日本の中央省庁の意思決定方式 第11週 予算編成過程と会計検査 第12週 行政活動の能率 第13週 行政管理と行政改革、行政統制と行政責任 第14週 これらの行政活動 第15週 総括講義		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：中村祐司『政策を見抜く10のポイント』（成文堂） 教材等：レジメをほぼ毎回の授業でパワーポイント等を用いて提示する。Moodleを活用する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業の中間と期末に行う2回の試験(65%)。授業時間中における質疑・応答(35%)。秀は上記各評価において極めて優秀な結果(例えば授業における的を射た質問や意見の提示、試験において満点近くの解答など)を出した受講生に与える。		
学習上の助言/Learning Advice	行政活動の範囲は森羅万象に及んでいる。その意味で受講生に求められるのは社会事象に対する知的好奇心である。意欲的・積極的な問題意識を持つ学生の受講を望む。行政学は決して堅苦しい学問ではない。		
キーワード/Keywords	分権型社会、行財政改革、住民参加、議会		
備考/Notes	毎回、対象となるテキストの各章を事前に読み込んでおくことが大切である。		

授業科目名(英文名) /Course Title	アジア比較地誌論演習/Seminar in Asian Comparative Geography		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 史郎(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160040
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐々木 史郎(sasakis@cc.utsunomiya-u.ac.jp 内線5222)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐々木 史郎(月曜日 12:10~13:10 峰町5号館A棟(国際学部A棟)2階 佐々木(史)資料室)		
授業の内容/Course Description	アジア地誌に関する文献を検索・整理するとともに、各自の関心に沿った専門文献の紹介や文献調査による課題研究を通して、国際学部専門教育科目「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」の講義内容に関する理解の深化と敷衍を図る。		
授業の達成目標/Course Goals	1. 「アジア比較地誌論」ないし「東北アジア論」での学習内容を自分なりに敷衍させ、アジア諸地域の社会文化的多様性とその背景についてより深い理解を得る。 2. アジアにおける地域事象について、その意味や位置づけを相対的に把握できるよう、常に比較という観点からの考察・判断を重視させる。 3. 関連分野の基礎的文献を検索・入手して読み込み、内容を整理して研究発表の資料を作成するとともに、効果的でわかりやすいプレゼンテーションを行う能力を養う。 4. 自らの関心や問題意識に基づいて設定した課題に向けて、積極的に取り組むとともに、他の学生の研究発表に対しても、積極的かつ建設的に意見を述べる態度を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部専門教育科目の目標のうち、特に以下の事柄との関連を重視する。 (C) 技能・表現: 講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。		
前提とする知識/Prerequisites	原則として講義科目「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」を履修済みであることを前提とする。		
関連科目/Related Courses	原則として講義科目「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」を履修済みであることを前提とする。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	研究テーマの設定、文献の検索や目録の整理の方法、文献の読み方と内容のまとめ方、発表のしかたなどを演習形式で指導する。受講者が多い場合はグループ研究とする。各自のテーマに沿って文献検索と目録作成の作業をしたあと、必要な文献を選んで入手・精読し、その内容紹介や論評、文献調査による研究のまとめなどを口頭発表する。発表内容に関連して、教員の側から「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」の講義内容の補足説明も適宜行うが、演習科目の性格上、学生同士の討議を重視する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. オリエンテーション(授業計画、テーマ設定、班分け、研究発表の方法など) 2. 文献の検索と目録の作成、研究発表準備 3. 研究発表と討議(1)(A班、課題説明と導入) 4. 研究発表と討議(2)(B班、課題説明と導入) 5. 研究発表と討議(3)(C班、課題説明と導入) 6. 研究発表と討議(4)(D班、課題説明と導入) 7. 研究発表と討議(5)(A班、前回発表の補足と続報) 8. 研究発表と討議(6)(B班、前回発表の補足と続報) 9. 研究発表と討議(7)(C班、前回発表の補足と続報) 10. 研究発表と討議(8)(D班、前回発表の補足と続報) 11. 研究発表と討議(9)(A班、追補とまとめ) 12. 研究発表と討議(10)(B班、追補とまとめ) 13. 研究発表と討議(11)(C班、追補とまとめ) 14. 研究発表と討議(12)(D班、追補とまとめ) 15. 全体講評とまとめ * 受講者の数と研究テーマにより、発表の班分け及び回数には変更がありうる。		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しない。選択したテーマに沿って、各自が関連文献を検索・入手する。		
成績評価の方法/Evaluation	討議への参加態度(25%)、発表内容(50%)、最終レポート(25%)の成績を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	自分で選んだテーマに沿って専門の文献を検索したり、それを丁寧に読み込んで内容を整理したりする作業は、大学での勉学にとって欠かせない訓練のひとつです。専門性の涵養という意味からも、読みやすい一般啓蒙書や概説書だけにとどまらず、骨のある研究書や研究論文に挑戦してほしいと思います。また、繰り返し発表や討議を行うことで、研究の組み立て方や進め方も確実に鍛えられていきます。ぜひ積極的に取り組んでみてください。		
キーワード/Keywords			

備考／Notes

この科目の担当者は今年度後期の卒業研究準備演習を担当しませんので、注意して下さい。
この科目を履修される場合は、他の演習を2科目以上履修されることをおすすめします。

授業科目名(英文名) /Course Title	国際関係論演習/Seminar in International Relations		
担当教員(所属)/Instructor	清水 奈名子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160064
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	清水 奈名子(nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	清水 奈名子(水曜日 12:30-14:20(研究室にて) (上記以外の時間に面談を希望する場合には、必ず事前にメールで予約をとってください))		
授業の内容/Course Description	国際関係に関連する分野の学術論文を読む作業を通して、専門的知識を深めると同時に、卒業研究の方法論を学習する。今学期は安保法制や集団的自衛権の議論に関係する論文、に加えて、戦争犯罪やジェンダーと紛争の関係性にも注目する予定である。		
授業の達成目標/Course Goals	・先行研究と自らの考察を区別し、比較しながら、法学的・政治学的な枠組みを使って思考、判断する。 ・国際関係論の専門書を読み、その内容をまとめて口頭発表し、議論する。 ・法的、政治的な国際問題についての情報を意欲的に収集し、自発的な学習態度を身に付ける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際関係に関する先行研究を正確に読み解き、その内容について論理的にまとめて文章化し、さらにみずから考えた論点について生産的な議論を自発的に行う能力を養成する。		
前提とする知識/Prerequisites	「国際関係論」「国際機構論」「Japan-U.S. Relations」「Japan's International Relations」およびその関連科目を履修していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「国際関係論」「国際機構論」「Japan-U.S. Relations」「Japan's International Relations」およびその関連科目を履修していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	初めに導入講義を行った後、文献講読と発表、討論を中心とした演習形式で行う。担当学生による文献についての発表を受けて読解の正確さを確認したのち、用意してきた論点に基づいた討論を行う。発表担当学生以外の履修者も、取り上げる文献に関する論点を毎回事前に提出することで、討論に積極的に参加することが求められる。また授業で扱う文献を事前に予習してから参加すること。以下に掲げる授業計画はあくまで予定であり、参加の興味関心に従って購読文献を決定する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	(以下は予定であり、変更する可能性もあります。) 第1回導入講義と購読文献の紹介 第2回基本的論点についての講義と発表担当文献の決定・割り当て 第3回文献についての発表と討論①:安全保障の定義 第4回文献についての発表と討論②:安全保障に関する理論 第5回文献についての発表と討論③:集団的自衛権と立憲主義 第6回文献についての発表と討論④:事例研究(日本軍による民間人殺害) 第7回文献についての発表と討論⑤:事例研究(慰安婦問題) 第8回文献についての発表と討論⑥:事例研究(安保法制) 第9回文献についての発表と討論⑦:事例研究(集団的自衛権) 第10回文献についての発表と討論⑧:事例研究(沖縄と日米同盟) 第11回文献についての発表と討論⑨:事例研究(自衛隊とPKO) 第12回文献についての発表と討論⑩:戦時暴力とジェンダー 第13回文献についての発表と討論⑪:戦争の記憶の仕方 第14回文献についての発表と討論⑫:人間の安全保障と原発災害 第15回全体討論:レポートと学術論文の書き方		
教科書・参考書等/Textbooks	水島朝穂編『シリーズ日本の安全保障③ 立憲的ダイナミズム』岩波書店2014年 島袋 純, 阿部 浩己編『シリーズ日本の安全保障④ 沖縄が問う日本の安全保障』岩波書店2015年 鈴木一人編『シリーズ日本の安全保障⑦ 技術・環境・エネルギーの連動リスク』岩波書店2015年 遠藤乾編『シリーズ日本の安全保障⑧ グローバル・コモنز』岩波書店 2015年		
成績評価の方法/Evaluation	授業への出席と積極的な参加(50%)と学期末レポート(50%)を総合して評価する。出席不足および期末レポートの未提出の場合は「不可」となるので注意すること。		
学習上の助言/Learning Advice	皆さんが国際関係への強い興味や関心を抱いているとしたら、次に必要なことは、それらを客観的かつ正確に考察し、分析する力であり、さらには論理的かつ的確な言葉や表現で、考察した内容を伝える技術を身につけることです。これらの基礎力を伸ばす目的意識をもって、主体的に参加する姿勢を期待しています。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	言語学演習/Seminar in Linguistics		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 一隆(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560063
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	言語学の文献を読んで知識を深めながら、方法論を身につけます。ハンドアウトを作成して口頭発表する能力も訓練します。		
授業の達成目標/Course Goals	この演習では、コミュニケーションの基礎となる言語知識(特に文構造の知識)を理論的に解明する方法について学びます。英語を主に対象とし、生成文法理論の枠組みで分析していきます。また、語用論/社会言語学と認知言語学の文献も取り上げます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「言語学」の履修をふまえ、言語に関する文化領域の知識を深め、英語で書かれた入門的専門書の講読において、要点の正確な理解と全体的なまとめを行った上でその内容を口頭発表して生産的な議論も行う能力を養います。また、自分で研究課題を設定して資料を収集し、適切な方法論で批判・分析した上で小論文を作成する能力も養います。		
前提とする知識/Prerequisites	原則として「言語学」の履修が前提となります。これに該当しない場合でも相談に応じます。		
関連科目/Related Courses	原則として「言語学」の履修が前提となります。これに該当しない場合でも相談に応じます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業計画の2と3については、教員が講義を行います。授業計画の4~14については、英語で書かれた三種類の文献を用いて学生が中心になって演習していきます。最後に総まとめとして小論文の提出を求めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	基本的に次の順序で授業を進めていきます。 1. オリエンテーション 2. 言語学の主目標: 言語知識の解明、言語獲得の説明、言語使用の解明 3. 言語学の研究方法 a. 科学的方法: 仮説と検証、科学的説明 b. 抽象度の区別: 言語理論、文法、言語、資料 c. 事実観察: 自然な発話、内省、実験 4. 英語で書かれた言語学の文献を読む。 学生はハンドアウトを作成して口頭説明する。随時教員が補足説明もする。生成文法、語用論または社会言語学、認知言語学の3つのアプローチを概観する。 5. 生成文法などの統語論: 5~10 6. 語・句・文 7. 補部の選択 8. 変形規則 9. 普遍文法とパラミター 10. 等位構造、修飾部、関係節 11. 語用論/社会言語学(1) 12. 語用論/社会言語学(2) 13. 認知言語学(1) 14. 認知言語学(2) 15. 授業のまとめ小論文提出		
教科書・参考書等/Textbooks	特定の教科書は使用しませんが、主に以下の三種類の文献について英語で書かれたものを選び、プリントして配布します。 (1) 生成文法の文献 (2) 語用論/社会言語学の文献 (3) 認知言語学の文献		
成績評価の方法/Evaluation	日常の演習活動(20%)、ハンドアウトによる口頭発表(20%)、演習課題(20%)、小論文の成績(40%)を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	自明の存在でありながら未知の部分が多く残されている「言語」を、科学的に解明する楽しさを味わいましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	余暇政策論/Leisure Administration		
担当教員(所属)/Instructor	中村 祐司(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130360
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 祐司(yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5181)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 祐司(月) 12:00-12:50)		
授業の内容/Course Description	レジャーや趣味、くつろぎ空間といった余暇領域を対象に、政策を公共サービスの多様な担い手が生み出す活動や方針と広く捉え、興味深い素材を新聞報道から紹介しつつ、受講生自らが関心のあるテーマを設定し考察を行う上での助言・指導を行う。グループ討議を積極的に行う。		
授業の達成目標/Course Goals	日本における不況の長期化や企業業績の悪化に伴うリストラの激化、地方税収入の減少や負債の増大に伴う公共サービスの低下といった国民負担の増大は、人々の生活基盤そのものを直撃しつつある。一方で、人々は特定のレジャー領域においては支出を惜しまない傾向も続いている。こうした余暇環境をどう捉えるかを考察していく。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。		
前提とする知識/Prerequisites	余暇政策領域に関する何らかの関心を持っていること。余暇活動を人々の生きがいの側面から考察することに対する関心があること。		
関連科目/Related Courses	行政学や地方自治論など。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	余暇をめぐる政府政策、市場メカニズム、消費者嗜好と、それら相互の作用・依存関係について論じ合う。レポート作成作業を通じて、余暇政策領域の深みとメカニズムを把握できるようにする。グループ討議の実施も視野に入れつつ、様々な余暇領域において、国や地方がどのような政策を立案し、実施に移しているかを具体的なデータを提供しつつ論じる。各自が関心のあるテーマあるいはグループ毎のテーマを設定・討議し、レポートを作成する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 余暇とは何か 第2回 余暇活動の諸領域 第3回 余暇政策の歴史 第4回 政府と余暇行政 第5回 余暇政策の構成領域 第6回 余暇産業と余暇市場 第7回 スポーツ・文化産業のメカニズム 第8回 国際交流と余暇活動 第9回 国際交流とスポーツ・文化政策*レポート提出・作成要領の提示 第10回 余暇をめぐる行政と産業のパートナーシップのあり方 第11回 リゾート開発と環境行政*レポート中間報告 第12回 地方におけるテーマパーク運営の課題*レポート中間報告 第13回 レジャー行動の変容と今後の方向性 第14回 提出レポートをめぐる議論(受講生の半数) 第15回 提出レポートをめぐる議論(受講生の半数)		
教科書・参考書等/Textbooks	教材等：適宜資料を配付する(主に新聞報道を紹介したもの) 参考書：中村祐司『政策を見抜く10のポイント』(成文堂) 同『スポーツと震災復興』(成文堂)		
成績評価の方法/Evaluation	提出するレポート内容(65%)、講義やレポートをめぐるディスカッションの際の積極的発言とその内容(35%)。秀は上記各評価において極めて優秀な結果(的を射た質問や意見の提示、卓越したレポート内容など)を出した受講生に与える。「書くという行為」を最重要視する。		
学習上の助言/Learning Advice	余暇活動の世界は人間社会の縮図を体現している。「たかが余暇。されど余暇」の「されど...」に共感する学生の受講を望む。この講義の成果であるレポートをインターネット上に公開する。なお、履修を検討するにあたって事前に「宇都宮大学国際学部行政学(中村祐司)研究室」のホームページ http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/ を参照してほしい(検索用語は「中村祐司」)。		
キーワード/Keywords	生きがい、仕事、余暇空間、余暇産業、スポーツ・文化		
備考/Notes	余暇領域に真剣に向き合うことで、いろいろなことが学べる。		

授業科目名(英文名) /Course Title	途上国経済発展論演習/Seminar in Economic Development of Developing Countries		
担当教員(所属)/Instructor	阪本 公美子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160355
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	貧困と豊かさ・経済発展・格差に関して、現状及び既存の理論的説明を理解した上で、各自が興味を持つテーマについて考察します。それぞれの問題意識に基づき、各自の興味のあるテーマについて掘り下げ研究を始めるとともに、論文や資料などの収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術などについて学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	テーマ設定、論文・資料収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術を身につけます。 1. 途上国の発展等に関連して、自ら設定したテーマに関する基本的知識・理解を深める。 2. 途上国の発展等に関連して、自らテーマを設定し、論理的に思考できる力を養う。 3. 文献・資料収集や引用の基本的な技術を習得するとともに、文章・口頭における表現能力を養う。 4. 自ら設定したテーマについて理解を深めることによって、自発的な学習態度を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	①知識・理解: 発展途上国の発展等に関連して、自ら設定したテーマに関する基本的知識・理解を深める。 ②思考・判断: 途上国の発展等に関連して、自らテーマを設定し、論理的に思考できる力を養う。 ③技能・表現: 文献・資料収集や引用の基本的な技術を習得するとともに、文章・口頭における表現能力を養う。 ④関心・意欲・態度: 自ら設定したテーマについて理解を深めることによって、自発的な学習態度を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	「途上国経済発展論」の授業の受講を前提とします。 アフリカに関して深く掘り下げて研究したいと考えている受講生については、「アフリカ論」の授業の受講を必修とします。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各自の問題意識やテーマに関連して、基本文献を読み、各自(場合によってグループ)で問題設定をし、研究をすすめます。その成果について、課題レポートを発表し、推敲を重ね、最終的に提出してもらいます。レポート及び論文作成の作法についても、随時指導します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 自己紹介(各受講生の問題意識・関心のあるテーマの口頭での紹介含む) 第2週 各受講生による問題意識・関心のあるテーマの提示(書面) 基本文献リストの作成 第3週 文献リストの精査・充実 基本文献・論文の輪読・議論: 論文1 第4週 基本文献・論文の輪読・議論: 論文2 第5週 先行研究の理解・整理 第6週 先行研究に照らし合わせた問題意識との関係 第7週 問題意識と研究方法について 第8週 問題意識と研究方法について 第9週 問題設定と構成発表 その1 第10週 問題設定と構成発表 その2 第11週 各受講生による課題レポートに関する先行研究の整理、問題設定、構成、参考文献リスト発表 第12週 各受講生による課題レポートに関する先行研究の整理、問題設定、構成、参考文献リスト改訂版発表 第13週 課題レポート素案の発表 第14週 課題レポート案の発表 第15週 最終個人レポート発表 上記は、受講人数などによって授業計画を調整する。 また、主体的な研究に対する姿勢の醸成を目的とする演習のため、興味・進捗状況に応じて調整し、学習効果の最大化をはかる。		
教科書・参考書等/Textbooks	各自、テーマに関して積極的に資料収集することを奨励します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業(30%)、発表(30%)、課題レポート(40%)をもとに、総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	世界の発展途上国の現状にはさまざまな理解がありますが、既存の研究を踏まえつつ、オリジナリティのある視点を楽しみにしています。 なお、教員の健康上の理由のため、当日の喫煙・人工香料(香水など)をお控えください。また、授業中の換気を行いますこと、ご了解ください。 夏季には暑くなる可能性がありますので、軽装にて受講ください。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	多文化共生教育演習/Seminar on Education for a Multicultural Society		
担当教員(所属)/Instructor	立花 有希(その他)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160362
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	立花 有希(tachibana@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	立花 有希(月曜7-8時限、研究室)		
授業の内容/Course Description	日本における外国人児童生徒教育の現状と課題について理解し、多文化社会において求められる教育について、日本のみならず諸外国の理論・実践も参照しながら考察する。		
授業の達成目標/Course Goals	・多文化共生教育に関する基本的知識を得る。 ・学術論文を読み、その意図するところを理解した上で、それに対する意見を述べるができる。 ・発表のために必要な文献や資料を検索、入手し、分析することができる。 ・根拠を示しながら論理立てて意見を主張することができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	多文化共生教育に関する先行研究の分析を通じて、論理的思考力と課題解決能力を涵養する。		
前提とする知識/Prerequisites	外国人児童生徒教育、多文化教育、言語教育等に関する一定の知識をもっていることが望ましいが、多文化共生教育に対する関心や問題意識があればよい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	受講者はすべて指定図書を読んだ上で授業に参加し、各回に割り当てた担当者の用意したレジュメを基に解釈、議論する。受講生の関心によっては、授業計画とは異なる文献に変更する場合もある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. オリエンテーション 2. 『国際移動と教育』はじめに(宮島喬「グローバル化の中の人の移動と民族」) 3. 第1部第1章(江原裕美「日本における外国人受け入れと子どもの教育」) 4. 第3章(小島祥美「ブラジル学校の現状と課題を考える」) 5. 第4章(佐野道夫「日本にいる外国の子ども」) 6. 第5章(浅沼茂「カリキュラム・エンパワーメントと教授言語の問題」) 7. 第6章(西井麻美ほか「多文化共生にむけた教員養成への視座」) 8. 第II部第1章(王宏仁「台湾における移民受け入れ政策と統治技術」) 9. 第4章(櫻井恵子「韓国における多文化家庭の子供の教育」) 10. 第III部第1章(木戸裕「多元社会とインクルージョン」) 11. 第2章(中島久朱「現代イギリスの多文化主義と社会統合」) 12. 第3章(坂本光代「カナダにおける外国籍児童生徒の就学への対応」) 13. コラム(カルダー淑子「アメリカの補習校における新世代の母語教育」) 14. 第4章(児玉奈々「カナダにおけるマイノリティの言語・教育文化と共同体主義的な多文化主義」) 15. まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：江原裕美編著『国際移動と教育—東アジアと欧米諸国の国際移民をめぐる現状と課題』明石書店、2011年		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み50%、個人研究(口頭発表、レポート提出)50%		
学習上の助言/Learning Advice	質を高めるためには量も必要です。多くの文献に接してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	西洋現代思想/Contemporary Thought of Europe		
担当教員(所属)/Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K520044
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容/Course Description	人間はこの世界とどのような関係を持っているのか。そして自らをどのようにとらえればよいのか。近年ますます重要性を帯びるこの古くからの問いについて、西洋現代思想の源流にまでさかのぼりながら考えていきます。実際に思想家たちの残した言葉に触れ、それらをじっくり味わうことによって、すでに「古典」と呼ばれ始めている書物のうちに、今を生き抜いていくための数多くのヒントが隠されていることを学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	現代思想の歴史的背景に関する基礎知識を身に付け、常識や通念を疑う思考法を学びながら、自文化に関する考察・反省に応用することを目指します。毎回の提出物を通して、論点を把握し、適切に表現する力を習得するとともに、哲学の思考法を、自文化への応用を通して理解する態度を養います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部の教育目標(A)「世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し(…)」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	違和感を忘れない「記憶」。当たり前を疑う「疑問」。現実にはありえないケースを考える「反実仮想」。当たり前が成立するための土台を見つけだす「直観」。わずかなズレに全体のメカニズムを嗅ぎとる「嗅覚」。重い現実を直視しながら希望を語る「楽観」。		
関連科目/Related Courses	キリスト教文化論、ヨーロッパ思想構造論、フランス文化論		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、東西の思想家たちや作品群からテキストを選び、丁寧に引用文を読みながら、各テーマに関する問題提起をします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション:「考える」とはどういうことか? 第2週 批判哲学以前の康德:矛盾する二つの思考のはざままで 第3週 康德的批判哲学:他者への畏怖、限界の認識 第4週 ニーチェのニヒリズム:あえて人生の「価値」や「意味」をはぎとる 第5週 ニーチェとともに考える:強者とは、どういう人のことか? 第6週 フロイトの仮説:「私」という最大の他者 第7週 フロイトの精神分析:生の本能、死の本能 第8週 現代社会の貧困問題を考える:湯浅誠『反貧困』(岩波新書)を手がかりに 第9週 DVD鑑賞:「お金」を根源から問う 第10週 マルクスの資本主義分析:貨幣・資本はどのように人間を支配するか? 第11週 スターリンと大粛清:権力が思想・理想の名のもとに暴走する時、何が起るか? 第12週 フーコーの考古学:<逸脱するもの>の哲学的な擁護のために 第13週 エマニュエル・トッドのヨーロッパ批評 第14週 ドゥルーズ/ガタリ:人間および世界は千変万化しつづける 第15週 全体の総括		
教科書・参考書等/Textbooks	特に使用しません。プリントを配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	レポート(80%)、出席と授業コメント(20%)		
学習上の助言/Learning Advice	いつも「違和感」に注意を払うこと。さっき食べた豆腐の味に、この世界と自分とのつながりかたを考えるヒントが隠されています。		
キーワード/Keywords	ヨーロッパ、思想史、文化史、キリスト教、ギリシア・ローマ古典、聖書、康德、ニーチェ、フロイト、マルクス、フーコー		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	アジア近現代思想論／Contemporary Asian Thought		
担当教員(所属)／Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K530067
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	松金 公正(木曜日1～2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容／Course Description	近代の日本は「アジア」をいかに認識し、いかに交わり、いかに構築しようとしたのか。アジアという空間をめぐる思想史を「中国」を中心にすえて考えることをその目的とする。		
授業の達成目標／Course Goals	近代日本において、中国やアジアがどのように語られてきたのかを理解する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中国文化論を履修した学生を対象に、近代日本の対中認識がどのように変容していったのかという点を理解させる。また、近代日本における対中認識の変容を明治から戦前までに知識人によって記された文献を直接読むことによって、原典を通じた実証的手法を身につけさせる。		
前提とする知識／Prerequisites	中国文化論を履修していること。中国語の文献を各人に読んでもらうこともあるので、中国語講読能力を必要とする。		
関連科目／Related Courses	中国文化論を履修していること。中国語の文献を各人に読んでもらうこともあるので、中国語講読能力を必要とする。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	テキストを輪読しながら討論を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 ガイダンス、輪読順番決め 第2回 宇大の中のアジア、福沢とケロロ 第3回 東アジアにおける近代 第4回 福沢諭吉と文明 第5回 世界史とは何か 第6回 ヘーゲルと東洋 第7回 東アジアと東亜 第8回 まとめ 第9回 帝国の膨張とアジア 第10回 東洋とは何か 第11回 帝国の縮小とアジア 第12回 儒教文化圏 第13回 中国と儒教 第14回 日本にとっての中国 第15回 まとめ 第16回 期末考査		
教科書・参考書等／Textbooks	子安宣邦『「アジア」はどう語られてきたか』(藤原書店、2003年)。ほかに必要な教材は授業時間に配布・指示する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度(10%)、授業中の報告(20%)に加えて、試験または授業を踏まえたレポート(70%)によって判断します。		
学習上の助言／Learning Advice	専門書の輪読をしてもらいますので、積極的な参加を望みます。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	民族誌学演習/Seminer in Ethnology		
担当教員(所属)/Instructor	柄木田 康之(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560011
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	柄木田 康之(tel: 028-649-5207 e-mail: karakita@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	柄木田 康之(月曜日12:05~12:45 あるいは電話・メールでアポイントメントをとってください。 於: 峰5号館A棟3階柄木田研究室)		
授業の内容/Course Description	人類学が対象としてきた小規模な地域社会はグローバル化された国際社会に巻き込まれる一方、国際移民等を通して第一世界を侵食し、先住民運動、伝統文化の復興などの地域主義的動きを示しています。文化人類学の立場から第三世界の社会変動に関連する諸問題を検討します。		
授業の達成目標/Course Goals	この授業では植民地主義、ジェンダー、エスニシティ、地域共同体と世界システムの接合等の今日的テーマを選択し、各自文献・フィールド調査を行い、問題意識を発展させることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は以下の学習・教育目標と関連します。 (B) 思考・判断:異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。 (C) 技能・表現:講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。 (D) 関心・意欲・態度:人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。		
前提とする知識/Prerequisites	「民族誌学」の履修		
関連科目/Related Courses	「民族誌学」の履修		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	このセミナーでは、上の授業の目標にそったテーマを参加者が各自研究し発表します。参加者は自ら自由なテーマを選択し、口頭発表を行い、最終的にレポートを執筆します。またフィールドワークにもとづく研究も歓迎します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1)授業計画と評価方法の説明, 2)担当教員のフィールドワークの経験について 3)参与観察 4)参与観察の事例 5)民族誌的インタビュー 6)民族誌的インタビューの事例 7)ライフヒストリーの収集 8)ライフヒストリーの事例 9)アンケートとサーベイ 10)アンケートとサーベイの事例 11)フィールド・ノート、カメラ、ビデオ、テープ・レコーダ、PC 12)調査項目の発表(1)グループI 13)調査項目の発表(2)グループII 14)調査報告(1)グループI 15) 調査報告(1)グループII		
教科書・参考書等/Textbooks	授業時に随時指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	質問など授業への積極的参加(30%)、発表(30%)と期末レポート(40%)で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	教員に何か教わるのではなく、自律的な研究をめざす学生を求めています。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語論演習/Seminar in Japanese Linguistics		
担当教員(所属)/Instructor	高山 道代(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560079
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	私たちは、ことばを自由に用いてさまざまな言語活動をおこなっているが、なぜその語を用いるのか、どうしてその順序で表現するのか、といったような観察をしてみると、ことばは、ある一定のきまりに基づいて用いられていることがわかる。この授業では内省にもとづいて現代日本語を観察することを出発点として、関連する日本語学の文献をよみ、日本語を分析的に捉える手法を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	・読んだ文献の内容を的確に要約できること ・読んだ文献の論点について論理的に自分の意見を述べるができること ・身近な日本語を観察し、分析的に考察する手法を身につけること		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際文化学科の達成目標のうち、とくに「技能・表現」の項目に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	「日本語論」(国際学部専門教育科目)の履修を前提とする。		
関連科目/Related Courses	「日本語論」(国際学部専門教育科目)の履修を前提とする。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	この授業では受講者の希望に沿って複数のテーマをとりあげ、担当をきめて順次テーマにそって関連文献の講読をおこなう。はじめに教員がテーマおよび発表資料等について講義をおこない、その後、文献の講読をおこなうという手順で進めていく。文献の講読は担当者による発表と受講者による議論という形式でおこなう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1初回 ガイダンス、演習計画 2授業①(テーマについて) 3授業②(発表資料について) 4演習① 5演習② 6演習③ 7演習④ 8演習⑤ 9授業③(テーマの選定およびレポート作成について) 10演習⑥ 11演習⑦ 12演習⑧ 13演習⑨ 14演習⑩ 15総括		
教科書・参考書等/Textbooks	テキスト：授業時に紹介および指示をおこなう 参考書：伊坂淳一著『ここからはじまる日本語学』(ひつじ書房)、『日本語の文法』高橋太郎ほか著(ひつじ書房)など		
成績評価の方法/Evaluation	発表・課題等(60%)、学期末レポート(40%)を総合して評価をおこなう。		
学習上の助言/Learning Advice	発表担当者だけでなく、受講者全員が指定された範囲まで文献を読み、与えられた課題に取り組んでから、授業に臨むこと。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	文化人類学/Cultural Anthropology		
担当教員(所属)/Instructor	柄木田 康之(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K100045
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	柄木田 康之(tel: 028-649-5207 e-mail: karakita@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	柄木田 康之(月曜日12:05~12:45 あるいは電話・メールでアポイントメントをとってください。 於: 峰5号館A棟3階柄木田研究室)		
授業の内容/Course Description	文化人類学は、自分が属する文化以外の文化を学ぶことによって、人間と文化の多様性を研究する学問です。この授業では、文化人類学の基礎を学ぶことで、異文化との接触が日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、基本的態度を身につけます。		
授業の達成目標/Course Goals	異文化を、自文化の基準ではなく、その文化の立場から理解しようと努め、異文化の知識にもとづいて自文化の常識を批判し、文化の多様性を尊重する態度を身につけます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は次の学習・教育目標との関連します。 (A) 知識・理解: 世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。 (B) 思考・判断: 異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	人の話を聞きながらメモを取ることは、大学で身につけるべき重要な技術です。ですから授業は講義を中心とします。ただしAV機器等を利用して、具体的なケースの紹介に努めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	【授業計画】 1. 授業計画と評価方法の説明 2. 人類学の文化概念 3. 言語, シンボル(象徴), 文化 4. 異文化理解 5. ロマ人の穢れ概念 6. タブーと分類リーチとダグラスの理論 7. スーヤの通過儀礼I 8. スーヤの通過儀礼II 9. レレの聖なる動物センザンコウ 10. カラムのヒクイドリ 11. メタファー・メトニミー・プリコラージュ 12. 教員のフィールド・ワークから 13. 教員のフィールド・ワークから 14. 全体の復習 15. 期末試験へ準備		
教科書・参考書等/Textbooks	授業でプリントを配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	随時レポートと質問など授業への積極的参加(60%)と期末試験(40%)で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業以前に指定された文献を必ず読んでください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語講読A / Chinese Reading A		
担当教員(所属) / Instructor	松村 史紀(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K113104
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 月 /Mon 7, 月 / Mon 8	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	松村 史紀(f-matsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp 電話: 028-649-5190)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	松村 史紀(月曜日12:30~13:30)		
授業の内容 / Course Description	中国語の文法を総合的に学習しながら、中国語の文章を読解する訓練をする。最初は、ピンイン・四声付きの文章から学習を始め、慣れてきたところで少し長めの文章読解に挑戦する。最後には、ピンイン・四声の付いていない、やや長い文章にも取りくんでもらう。専門的な文章を読むための、準備・訓練をする授業である。読解の授業ではあるが、文章の正しい発音ができていくかどうかについても、気を配りたい。		
授業の達成目標 / Course Goals	正確に文法を理解しながら、中国語の文章の構造・意味を的確につかまえられるようになることが到達目標である。また、日本語への翻訳能力も同時に養いたい。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	学術的かつ実用的な中国語の学習をする機会を提供し、中国とその文化を現地の言語でより深く理解するための基礎学力を養成する。		
前提とする知識 / Prerequisites	「中国語基礎I・II・III・IV」などを受講していることが望ましい。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	配布したプリント(文章)を各自読解し、訳してきた上で、それを授業中に発表してもらう。事前に発表の担当は決めず、その場で発表者をランダムに当てるため、学生全員が準備をしてこなければならない。また毎回授業の最初に、前回の内容を復習するための小テストをする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 文法と発音のおさらい 2. 短文を読む(1) 3. 短文を読む(2) 4. 短文を読む(3) 5. 短文を読む(4) 6. 短文を読む(5) 7. やや長い文章を読む(1) 8. やや長い文章を読む(2) 9. やや長い文章を読む(3) 10. やや長い文章を読む(4) 11. やや長い文章を読む(5) 12. 長文への挑戦(1) 13. 長文への挑戦(2) 14. 長文への挑戦(3) 15. まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	学生の関心・能力に応じて、様々な教材を併用する予定である。基本的には教員がプリントを配布する		
成績評価の方法 / Evaluation	発表の内容(積極性、準備具合) 20% 毎回の小テスト(主に中国語文の暗記・暗唱) 40% 最終課題 40%		
学習上の助言 / Learning Advice	辞典は指定しませんが、毎回必携です。 辞典の使い方は、早い段階で会得してください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	人口地理学/Population Geography		
担当教員(所属)/Instructor	丹羽 孝仁(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130572
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	丹羽 孝仁(geo1geo2@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	丹羽 孝仁(授業の前後に教室で対応します。)		
授業の内容/Course Description	おもに日本を対象としながら、さまざまな人口現象(分布、移動、増減、構造、出生、死亡、結婚など)の地域的差異とそのメカニズムの探求を目的とした人口統計の読み方とその分析の技術・理論を解説します。		
授業の達成目標/Course Goals	人口統計の読み方・扱い方を習得し、人口地理学の考え方と理論を理解します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	1. 国際学部専門科目の選択科目群の一つとして、特に以下の目標への対応を重視します。 ・国境を越えた社会の諸問題を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する地域的または分野的に特化した知識・認識を有する。 ・異なる時代・地域の社会的諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 2. 高等学校「地理歴史」の教員免許関連科目の一つとして開講します。		
前提とする知識/Prerequisites	高校時に「地理」を履修している必要はありませんが、少なくとも「地理」に興味を持ち、また、日本の都道府県や主要都市の位置関係を理解していることを前提とします。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	以下に示す教科書の各章を1回につき1章ずつ読み進み、全15章を15回の授業で読解します。また、基本的に授業はパワーポイントと配付資料に基づいて進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. ガイダンス、全国的な人口分布 2. 出生 3. 死亡・疾病 4. 国内人口移動 5. 国際人口移動 6. 在留外国人 7. 家族・世帯 8. 性比と結婚 9. 高齢人口の分布と移動 10. 高齢者の生活 11. 都市内の人口分布 12. 大都市圏の人口地理 13. 地方圏の人口地理 14. ライフコース、ライフヒストリーと移動歴 15. 人口統計とGIS		
教科書・参考書等/Textbooks	(教科書)『地域と人口からみる日本の姿』 石川義孝・井上 孝・田原裕子編著 古今書院 その他、参考書を適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	最終日に実施する試験の結果(70%)に小テスト・小レポートなどの平常点(30%)を加えて評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	日本の人口構造や地域間差異に関心を持って受講していただきたい。授業では積極的に対話を試みます。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	行政学演習/Seminar in Public Administration		
担当教員(所属)/Instructor	中村 祐司(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160100
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 祐司(yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5181)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 祐司(月) 12:00-12:50)		
授業の内容/Course Description	ゼミ生各自の興味・関心あるいは教員からの提供課題にもとづき、実際の行政・政策領域を対象とした実証的な調査活動を行う。たとえば、各省庁や自治体が抱えている政策課題について、政府刊行物や面接取材によって一次資料や最新の情報の収集に努め、変動する社会状況への政策のあり方について考察する。大きなテーマとして「地域の中の外国」を設定する。		
授業の達成目標/Course Goals	現地調査の実践を通じて、取材先へのアポイントメントの取り方やインタビュー内容の事前整理、一次資料の把握や分析の方法、終了後の謝辞の提供など、公共サービスが展開される実際の現場に身を置くことで、後期以降、本格的な研究に取り組む素地を身につける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。		
前提とする知識/Prerequisites	政策について現地取材を行いつつ真剣に学ぼうとする意欲。		
関連科目/Related Courses	行政学、地方自治論、余暇政策論など。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	書籍文献やインターネット情報を利用すると同時に、実際の行政サービスの現場に足を運び、いわゆる「足でかせいだ」資料収集活動に従事する。論文作成にあたっては章立てから執筆担当までゼミ生同士で話し合い、共通理解を維持しつつ、論文の完成を目指していく。毎回の演習ではレジメを作成し、これをもとに調べた事項の報告と質疑応答を行う。これらの成果は研究室HPに掲載する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週行政活動の範囲と性格 第2週法律による行政の限界 第3週各種行政活動についてーその1 第4週各種行政活動についてーその2。論文テーマの決定 第5週中央省庁における政策課題 第6週地方自治体における政策課題。レジメ報告の開始(以後第13週まで毎回) 第7週分権改革の行方 第8週市民意識調査の手法 第9週政府刊行物の読み方 第10週政府関係資料の収集方法 第11週行政活動をめぐる分析の視点 第12週政策の立案過程 第13週政策の実施過程 第14週行政施策立案の試み。論文の提出、研究室HP掲載作業 第15週行政活動の評価。論文をめぐる意見交換		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：中村祐司『政策を見抜く10のポイント』(成文堂) 教材を適宜提示するが、演習生によるインタビューや一次資料の収集が中心。 参考書：中村祐司『スポーツと震災復興』(成文堂)		
成績評価の方法/Evaluation	ゼミ運営やHP作成、新規アイデアなどをめぐる意欲的な意見提示と研究室運営上の実務面での貢献(40%)、論文作成(40%)、行政学研究室の卒論生や院生との積極的なコミュニケーションの達成(20%)。秀は上記各評価において卓越した結果(的を射た積極的な質問や意見の提示、卓越した論文や発表)を出した受講生に与える。「書くという行為」を最重要視する。		
学習上の助言/Learning Advice	本演習を通じて文献の講読力、資料の収集や面接取材といった調査活動における積極性や分析の力量、施策立案をめぐる構想力などをぜひ身に付けてほしい。同時に大学生活における貴重な人間関係の構築や交流を達成してほしい。		
キーワード/Keywords	現地調査、インタビュー、一次資料の収集		
備考/Notes	「地域の中の外国」という枠組み内であれば、テーマの設定は自由である。		

授業科目名(英文名) /Course Title	移民と多文化教育/Multicultural Education and Immigration		
担当教員(所属)/Instructor	戚 傑(教育学研究科 修士課程)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560294
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	戚 傑(電子メール: jqi@cc.utsunomiya-u.ac.jp 電話番号: 028-649-5237)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	戚 傑(火 12:00-13:00, または、アポにより 研究室)		
授業の内容/Course Description	本講義では、異なる民族や文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と、その実現を確固たるものにするための教育の有り方について探求する。まず、「人の移動」に焦点をあて、世界の移民の歴史を振り返る。次に、人の移動がもたらすグローバル化現象について考える。具体的には、グローバル化が、世界中の人々の相互依存関係がより強まることを意味するとして、各国政府の政策決定に与える影響について分析するとともに、各国の政治的・経済的・文化的相違がその国のグローバル化にどう反映されているかについて探求する。最後に、教育がこのグローバル化現象にどのような役割を果たすかについて考察する。		
授業の達成目標/Course Goals	国家、民族、社会、文化、教育などについて複眼的なものの見方や論理的思考能力を養成することを旨とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「国際化社会に柔軟に対処し問題解決に積極的に当たれる人材の養成」という国際学部の教育理念に沿って、国際社会に対する理解を深めるための科目として開講する。		
前提とする知識/Prerequisites	読書好きであること固定観念を持たないこと。		
関連科目/Related Courses	Japanese Communication Arts		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	原則講義形式。適宜、視聴覚教材を活用する予定。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	[第1回] ガイダンス：民族と近代国家 [第2回] 植民地への人口移動：帝国主義の拡大 [第3回] 農村から大都市へ、植民地からの人口集中：資本主義の発達 [第4回] 戦争と難民 [第5回] 戦後のグローバル化現象(1)：単純労働者受け入れードイツ・フランスの事例 [第6回] 戦後のグローバル化現象(2)：南米からアメリカへの移住 [第7回] 戦後のグローバル化現象(3)：外国人の日本への定住 [第8回] ポスト植民地主義 [第9回] 民族論とアイデンティティ [第10回] 欧米における多文化主義の展開 [第11回] 多文化教育に対する要請 [第12回] 多文化教育の理論：多文化化の展開 [第13回] 多文化教育の実践：そのアプローチと課題 [第14回] 自文化の堅持と多文化共生社会へ迫る [第15回] 受講生によるプレゼンテーション		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中に指定する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(40%)、学期末プレゼンテーション(30%)および学期末レポートの結果(30%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	授業に臨む際、固定観念を持たずに、常に問題提起に心懸け、提起した問題についての徹底的な探求や理論的思考を繰り返す訓練を続けることが重要である。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	International Communication Seminar/International Communication Seminar		
担当教員(所属)/Instructor	アントニー・ニール・ライマン(国際学部国際文化学科), アントニー・ニール・ライマン(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K110105
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	事前指導と合宿により、基礎的な学術英語能力を習得する。合宿中の使用言語は英語のみ。テキストによる学習とプレゼンテーションを実施する。		
授業の達成目標/Course Goals	基礎的な学術英語能力の習得。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	このセミナー終了後に、International Career Seminarに参加し、学術英語能力を向上させ、学術的内容を自由に発表・討論ができるようになることが重要である。		
前提とする知識/Prerequisites	中級程度の英語力。		
関連科目/Related Courses	中級程度の英語力。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	オリエンテーションで全体計画を説明する。次に事前指導を3回実施し、合宿前の準備に備える。合宿を実施した後に、期末試験を実施する。合宿前にプレゼンテーション用のファイルは完成させ担当教員に配布すること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション 第2回 事前指導 1 第3回 事前指導 2 第4回 事前指導 3 第5回～第15回 合宿 第16回 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は事前指導中に配布。		
成績評価の方法/Evaluation	オリエンテーションと事前指導10%、合宿60%、期末試験30%により評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	日頃から英語で論理的に自己表現できるように練習をしておくこと。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語教育特別演習/Special Seminar in Teaching Japanese as a Second/Foreign Language		
担当教員(所属)/Instructor	鎌田 美千子(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160166
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鎌田 美千子(kamada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鎌田 美千子(前期:水曜11:30-12:30, 後期:木曜11:30-12:30(研究室))		
授業の内容/Course Description	第二言語・外国語としての日本語を教える際に必要な事柄を重点的に取り上げて考えます。「日本語教育Ⅰ」「日本語教育Ⅱ」「日本語教育方法論」で学んだ知識・技能をさらに深め、専門的な知識と技能を身につけます。		
授業の達成目標/Course Goals	日本語教育を展開していく上での専門的な知識と技能を深めるとともに、実践的な問題解決力を身につけます。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	「日本語教育Ⅰ」「日本語教育Ⅱ」「日本語教育方法論」で学んだ知識・技能をさらに深め、より専門的・実践的な能力を養います。「日本語教育プログラム」の必修科目です。		
前提とする知識/Prerequisites	「日本語教育プログラム」履修学生を対象にした科目です。「日本語教育Ⅰ」「日本語教育Ⅱ」「日本語教育方法論」のいずれかの単位を取得してから受講してください。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	下記の授業計画に基づき、ペア・ワークやグループ・ワーク等も取り入れながら進めていきます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回 授業ガイダンス 第2回 教案の作成 第3回 教案の検討 第4回 模擬授業1(ゼロ初級の授業の検討) 第5回 模擬授業2(ゼロ初級の授業の実践) 第6回 模擬授業3(て形の授業の検討) 第7回 模擬授業4(て形の授業の実践) 第8回 模擬授業5(授受表現の授業の検討) 第9回 模擬授業6(授受表現の授業の実践) 第10回 日本語教育と評価、テストの種類と形式 第11回 会話能力と評価 第12回 会話テストの実際 第13回 作文能力と評価 第14回 作文の評価 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書:石田敏子(1992)『入門日本語テスト法』大修館書店、伊東祐郎(2008)『日本語教師のためのテスト作成マニュアル』アルク		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(50%)と課題(50%)に基づき評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	主体的な取り組みを期待します。		
キーワード/Keywords	国際学部		
備考/Notes	本演習は、「日本語教育プログラム」履修申請者を対象にした必修科目です。それ以外の学生は原則として受講できませんので、留意してください。		

授業科目名(英文名) /Course Title	日本史概説B / Introduction to Japanese History B		
担当教員(所属) / Instructor	高山 慶子(教育学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K530310
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 月 /Mon 9, 月 / Mon 10	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	高山 慶子(k_takayama@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	高山 慶子(月曜14:30~16:00)		
授業の内容 / Course Description	日本史に関する基礎的な知識の充実をはかり、日本文化についての理解をふかめることを目的とします。		
授業の達成目標 / Course Goals	日本の歴史のあゆみや、日本固有の文化の形成・変遷・特色などをあらためて認識することによって、海外の社会や文化を相対化して比較検討してゆくための礎をきづくことを目標とします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	国際社会や国際文化を比較考察的にまなぶ前提として、いまいちど日本社会や日本文化の歴史的特質を自覚的にみなおす基礎科目に位置づけられます。なお、教育職員免許状を取得希望の場合、必修科目に指定されることがあります。		
前提とする知識 / Prerequisites	日本史概説Bでは社会の実態に着目しますが、日本史概説Aでは制度的な側面を取り上げます。日本史の理解を深めたい人は、AとBの両方を履修して下さい。		
関連科目 / Related Courses	日本史概説Bでは社会の実態に着目しますが、日本史概説Aでは制度的な側面を取り上げます。日本史の理解を深めたい人は、AとBの両方を履修して下さい。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	プリント配付。講義形式。教科書は使用せずプリントを配付しますが、高校の教科書や年表などを手許において適宜参照して下さい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	【社会のなかの女性】 1. 縄文・弥生時代—土偶— 2. 卑弥呼と古墳 3. 女性天皇 4. 奈良時代—律令・仏教と女性— 5. 平安時代—女房文学— 6. 摂関政治から院政へ 7. 鎌倉時代—北条政子— 8. 商い・養蚕と女性 9. 南北朝・室町時代—日野富子— 10. 戦国時代 11. 江戸時代—表と奥— 12. 女大学 13. 明治民法と家制度 14. 働く女性と良妻賢母 15. 男女共同参画社会へ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用せずプリントを配布しますが、高校の教科書や年表などを手許において適宜参照して下さい。		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験(70%)、授業への取り組み(30%)		
学習上の助言 / Learning Advice	日本史の理解をより深めたい人は、日本史概説A・Bの両方を履修することを考えてみて下さい。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	都市計画/Urban Planning		
担当教員(所属)/Instructor	大森 宣暁(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130491
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	都市計画は、土木、建築、造園等の技術を都市のスケールで展開する分野であり、我々の生活を支えるルールの一つともいえます。身近な日常生活の問題がどのように扱われているか考えましょう。一方で、時代の大きな変化のなかで、新しい都市計画のシステムが模索されています。次の世代を担う君たちのライフスタイルにあった都市環境はどうあるべきか学びましょう。		
授業の達成目標/Course Goals	都市計画の特徴は、基本的な用語の概念を正確に理解することから始まります。教科書の構成とキーワードを丁寧に学習してください。それを用いて、都市を語るようになることが目標です。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	建設工学コースの学習・教育目標E， 建築学コースの学習・教育目標；(6)		
前提とする知識/Prerequisites	都市に興味があることが前提です。高校で学ぶ世界史、地理の知識が望まれる。特に専門的な知識あるいは経験は必要ありません。		
関連科目/Related Courses	都市に興味があることが前提です。高校で学ぶ世界史、地理の知識が望まれる。特に専門的な知識あるいは経験は必要ありません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記の教科書に沿って授業範囲を習得するため、必要に応じ、プリントやパワーポイントで解説をおこなう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1：都市概論 2：古代、中世から現代までの都市計画の歴史 3：都市基本計画 4：土地利用計画 5：都市交通計画 6：公園、緑地、オープンスペースの計画と住環境計画 7：都市基盤施設の計画 8：都市環境の計画 9：中間試験 10：都市の防災計画 11：被災地の住宅再建計画 12：都市の景観設計 13：福祉と都市計画 14：新しい交通システム 15：持続可能な都市構造 16：期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書；都市計画(第2版)川上光彦著森北出版 プリント；担当教員の指示で入手してください。		
成績評価の方法/Evaluation	筆記試験(中間試験50%と期末試験50%)とレポートを勘案して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	教科書は近年数度にわたり改訂されてます。上記の最新版を入手してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	環境と国際協力/Environment and International Cooperation		
担当教員(所属)/Instructor	高橋 若菜(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160310
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	今日、環境保護・保全の重要性は社会で広く共有されているが、いかにして「環境」や「自然」の問題を解釈し価値をおき守るか、他に守るべき価値(資源や経済、安全保障、文化、他の環境問題等)と競合する場合に何をどこまで守るかについては、往々にして意見や利害対立がある。地球環境をめぐる政治は、エコシステムと人間の社会システムの相互作用の中で複雑に営まれている。現在私たちが目にする、環境問題をめぐる国際協力の諸々の現象は、そのような地球環境をめぐる政治の帰結としてとらえることができる。 授業では環境言説を軸として地球環境政治の全体像をとらえたうえで、環境問題をめぐる国際協力の現象を構造的に考察していく。国際協力の諸制度(レジーム、国際規範、途上国支援制度)、および、関連する多様な行為主体(アクター)との相互作用に関心を寄せ、事例検証をまじえながら理解を深める。		
授業の達成目標/Course Goals	地球環境政治や環境をめぐる国際協力について、基礎知識を取得する。 アクティブ・ラーニング(グループディスカッションやロールプレイ)を通じて、表現能力やコミュニケーションの向上をはかるとともに、問題を表面的ではなく多面的構造的に捉えていく思考方法を身につけることを目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部の専門科目として、特に以下の学習・教育目標との関連を重視する。 (A)世界における多様な社会・文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。 (B)異なる時代・地域の社会・文化の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。		
前提とする知識/Prerequisites	基盤教育科目「環境と国際社会」を受講済みあるいは受講していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	基盤教育科目「環境と国際社会」を受講済みあるいは受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義に加え、参加型授業の手法も取り入れ、グループディスカッション、ロールプレイを行う。グループワークを伴う事前学習は必須となる。ビデオやDVD鑑賞も適宜行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週オリエンテーション 第2週地球環境政治と言説1 第3週地球環境政治と言説2 第4週地球環境 レジーム・ガバナンス1 第5週地球環境 レジーム・ガバナンス2 第6週地球環境 レジーム・ガバナンス3 第7週国際規範1 第8週国際規範2 第9週国際規範3 第10週中間試験 第11週中間試験の返却とふりかえり 第12週途上国支援制度1 第13週途上国支援制度2 第14週途上国支援制度3 第15週まとめ (授業計画は一部変更する可能性があります。)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しない。参考書その他の教材は授業の中で提示する。		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験(60%)、グループディスカッションとレポート(40%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	環境をめぐる国際協力は、国際会議場での政府間交渉や、途上国での支援現場のみで進行しているわけではない。グローバル化が進む現在、私たちの身近な日常生活も途上国や地球大の環境問題と密接につながっており、日本国内や地域での環境取組みも、国際協力と関連している。身近な事例を地球規模の視野で捉え、関心を深めることを期待したい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	言語と音声／Linguistics and Speech Sounds		
担当教員(所属)／Instructor	湯澤 伸夫(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K530465
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	英語の音声の構造を分節音とプロソディの両面から学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	英語の音声に関して学問的に理解し、正確な発音ができるようになることと、記号を用いて音声を表記できるようになること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	自主的なテキストの読解も含め、講義の要点を正確に理解し、英語の標準音声に関する知識と理解を深め、英語の音声を分析するための客観的な思考を養い、英語の音声の研究に対する意欲的な態度を育てる。		
前提とする知識／Prerequisites	英語の音声に関する基礎的な知識と、本学1年次終了時まで必要とされている英語力。		
関連科目／Related Courses	英語の音声に関する基礎的な知識と、本学1年次終了時まで必要とされている英語力。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業計画に基づき、学習を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 基本母音, 短母音 第3週 長母音 第4週 二重母音 第5週 閉鎖音 第6週 摩擦音, 破擦音 第7週 鼻音, 接近音 第8週 音節構造 第9週 強音節と弱音節 第10週 強勢 第11週 同化と脱落 第12週 音調の種類 第13週 音調単位の構造 第14週 イントネーションの機能 第15週 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	Roach, P. 2009. English Phonetics and Phonology: A Practical Course. Fourth Edition. Cambridge University Press. 各自生協で購入すること。		
成績評価の方法／Evaluation	小テスト(40%), 期末テスト(60%)		
学習上の助言／Learning Advice	予習復習は毎回しっかり行うこと。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	自然地理学/Physical Geography		
担当教員(所属)/Instructor	島野 安雄(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130661
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	島野 安雄(shimano@art.bunsei.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	島野 安雄(非常勤ですので、メール等で連絡をとってください。)		
授業の内容/Course Description	自然地理学で扱う地形・気候・陸水・土壌・植生などの諸領域のうち、「水」を中心テーマとして取り上げる。気体・液体・固体と姿を変え、たえず地表面や地下あるいは対流圏を巡っている水に着目し、その循環過程の中で繰り広げられている自然現象を取り扱うとともに、人間生活と水との関わり合いや関連性にも言及する。		
授業の達成目標/Course Goals	これまでほとんど学習してこなかった「水」という物質に関する基本的な事項を把握・理解すること。また、国内や世界各地で展開されている水を取り巻く自然環境や社会・経済的環境における諸問題を通して、水の現状を把握・理解し、今後われわれが水環境や水問題にどう対処して行くかを考える契機とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	- 国際学部専門科目の選択科目群の一つとして、特に以下の目標への対応を重視する。 - 国境を越えた社会の諸問題を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する地域的または分野的に特化した知識・認識を有する。 - 異なる時代・地域の社会的諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 - 中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の教員免許関連科目の一つとして開講する。		
前提とする知識/Prerequisites	特に必要ありません。日頃のニュース等の情報に気をつけてください。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書は使用しませんが、必要に応じて適宜、資料のプリントを配布します。また、言葉だけでは理解しにくいこともありますので、映像資料も用いて視覚的に授業を進める予定です。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	- ガイダンス、水の世紀としての地球 - 水の惑星、水の成因と歴史 - 水の特異な性質 - 水の総量と分布 - 水循環と水収支 - 水蒸気と降水 - 氷河と永久凍土 - 地表水(湖沼水と河川水) - 地下水 - 水の質的な問題 - 水利用(1):農業用水 - 水利用(2):工業用水 - 水利用(3):生活用水(上水道) - 文明や宗教と水との関わり - 今後の水資源と水紛争		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しませんが、近年、水に関する本や雑誌類は数多く発行されていますので、参考書として授業の中で適宜紹介します。(例)日本地下水学会・井戸徹治(2009):『地下水を科学する』、講談社ブルーバックス。		
成績評価の方法/Evaluation	出席要件を満たした者に対して、授業時に随時行う小レポート(30%)と期末の筆記試験(70%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	水環境を含めた地球の環境問題については、常日頃から関心を持って情報の収集等を行うよう心がけてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	移民と多文化教育演習/Seminar in Multicultural Education and Immigration		
担当教員(所属)/Instructor	戚 傑(教育学研究科 修士課程)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160167
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	戚 傑(電子メール: jqi@cc.utsunomiya-u.ac.jp 電話番号: 028-649-5237)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	戚 傑(火 12:00-13:00, または、アポにより 研究室)		
授業の内容/Course Description	専門科目「移民と多文化教育」の授業で学んだ理論的内容について実践的探求を通してさらに理解を深める。		
授業の達成目標/Course Goals	1. 国家、民族、社会、文化、教育等についての複眼的なものの見方や論理的思考能力を養成することを目指す。 2. 創造的かつ緻密な実践的研究能力をを身につけさせる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「国際化社会に柔軟に対処し問題解決に積極的に当たれる人材の養成」という国際学部の教育理念に沿って、国際社会に対する理解を深めるための科目として開講する。		
前提とする知識/Prerequisites	専門科目「移民と多文化教育」の講義を受講済みであること。		
関連科目/Related Courses	専門科目「移民と多文化教育」の講義を受講済みであること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1. 基本文献を読み、グループディスカッションを通して研究テーマとそれにふさわしい研究方法について理解を深める。 2. 受講生が各自の研究テーマを設定し、研究をすすめるが、途中経過と課題を発表し、グループメンバーから批評と助言をもらい研究を深めていく。 3. 研究をレポートに取りまとめ、研究成果を発表する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週オリエンテーション 第2週文献読み/ディスカッション 第3週文献読み/ディスカッション 第4週文献読み/ディスカッション 第5週文献読み/ディスカッション 第6週文献読み/ディスカッション 第7週文献読み/ディスカッション 第8週研究テーマの選定と研究計画 第9週研究中間報告/ディスカッション 第10週研究中間報告/ディスカッション 第11週研究中間報告/ディスカッション 第12週 研究中間報告/ディスカッション 第13週受講生による研究発表 第14週受講生による研究発表 第15週受講生による研究発表		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中に指定する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(40%)、学期末プレゼンテーション(30%)および学期末レポート(30%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	授業に臨む際、固定観念を持たず、常に問題提起に心懸け、提起した問題について徹底した理論的思考と実践的探求を繰り返すことで思考・研究能力を養う訓練を続けることが重要である。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	グローバル教育論演習/Seminar on Global Governance		
担当教員(所属)/Instructor	湯本 浩之(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160363
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	湯本 浩之(研究室: 峰キャンパス5号館C棟1階 TEL&FAX: 028-649-5236 (直通) E-mail: yumoto@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	湯本 浩之(毎週火曜: 12:10~13:00 ※来室するには事前に連絡してください。オフィスアワー以外でも可能な範囲で対応します。)		
授業の内容/Course Description	今日の地球社会は、開発や環境、平和や人権、文化や福祉、資源やエネルギーなどに関わる地球規模の諸問題に直面しており、こうした諸問題を早急に解決していくことが人類共通の地球課題(global issues)とされています。この演習では、こうした地球課題の理解や解決に向けた教育実践として、先進的な取り組みが見られる英国におけるグローバル教育(開発教育や市民教育などを含む)を取り上げます。そして、その理念や実践に着目しながら、オルタナティブな教育としての今後の役割や可能性について検討していきます。		
授業の達成目標/Course Goals	この演習では、以下の3点を授業の到達目標とします。 ①大陸欧州や英国で新教育運動やグローバル教育が成立してきた歴史的経緯やその理論的背景を理解すること。 ②グローバル教育に特徴的な教育理念や教育目標をはじめ、その方法論や運動論を理解すること。 ③現代社会が直面する地球規模の諸問題の解決に向けて、これからの「教育」が果たすべき役割や可能性を検討すること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、国際学部社会科学が掲げる4つのディプロマ・ポリシーのうち、特に以下の項目と関連します。 (B)思考・判断: 異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 (C)技能・表現: 講義、講演の聴講、また専門的な文献研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表しかつ生産的な議論を行うことができる。		
前提とする知識/Prerequisites	原則として、基盤教育科目の「ワークショップで学ぶ変わりゆく現代社会の中の私たち」および「ワークショップで学ぶボランティアと市民活動」のうち少なくとも1科目、さらに専門教育科目「グローバル教育論」を履修済みであることを前提とします。		
関連科目/Related Courses	基盤教育科目: 「ワークショップで学ぶ変わりゆく現代社会の中の私たち」 「ワークショップで学ぶボランティアと市民活動」 専門教育科目 「グローバル教育論」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教員から基本文献や基本資料に基づいた講義を行うほか、各回の授業の冒頭で、教育に関する報道記事の紹介や、各回のテーマに関する発表・報告を受講生に分担してもらいます。また、「学生報告」では、受講生からの報告や提示された論点に関する議論を行います。なお、履修者の人数や問題関心等によっては、授業計画の内容や順序を一部変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. オリエンテーション「地球課題とは何か?」 2. 「欧州における新教育運動(New Education)の成立と展開」 3. 「ジョン・デューイの教育思想と教育実践」 4. 「英国におけるグローバル教育の成立と展開」 5. 学生報告1(関連テーマに関する調査報告・研究報告・図書紹介など) 6. 「パウロ・フレイレの教育思想と教育実践」 7. 「ロジャー・ハートの『参加のはしご』論」 8. 「開発教育・環境教育・人権教育・平和教育・市民教育」 9. 「欧州のグローバル教育政策の展開と現状」 10. 「日本における“教育の国際化”と国際理解教育」 11. 「日本におけるグローバル教育の成立と展開」 12. 学生報告2(関連テーマに関する調査報告・研究報告・文献紹介など) 13. 「参加型学習と参加型開発」 14. 「オルタナティブな教育としてのグローバル教育」 15. 「グローバル教育の課題と可能性」と「ふりかえり」		

教科書・参考書等／Textbooks	この演習での講義や議論を補足する参考書の一例として、以下の文献を紹介します。 ミリアム・スタイナー編『グローバル・ティーチャーの理論と実践』岩崎裕保・湯本浩之監訳、明石書店、2011年。 木村一子『イギリスのグローバル教育』勁草書房、2000年。 バイク&セルビー『地球市民を育む学習』中川喜代子監修、明石書店、1997年。 フィッシャー&ヒックス『ワールド・スタディーズ：学びかた・教えかたハンドブック』国際理解教育・資料情報センター編訳、めこん、1991年。 その他の文献や教材等については、授業内で適宜紹介します。
成績評価の方法／Evaluation	平常点（出席30%、発表内容や議論への参加度30%）、中間レポート（20%）、期末レポート（20%）。
学習上の助言／Learning Advice	一口に「グローバル教育」と言ってもその内容は様々であり、この授業ですべてを紹介することはできません。ただ、グローバル時代の中で果たすべき役割が「教育」にあるとすれば、既存の教育理論や教育実践への問題提起や異議申し立てを含む「グローバル教育」の試行錯誤の経験から学ぶべきことは少なくないと思います。それは「地球社会」や「地球文化」を形成していく上で、また、これからの「国際交流」や「国際貢献」を推進していく上での示唆や刺激になるのではないかとと思います。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語講読A / Korean Reading A		
担当教員(所属) / Instructor	金 多希(その他)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K116150
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	金 多希(開講時に教えます。)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	金 多希(火曜日: 12:00~12:50 (非常勤講師室))		
授業の内容 / Course Description	短くて易しい文章からはじめ、長くて少し複雑な文章まで、徐々に分量を増やしなが、朝鮮語の読解力を養っていきます。言葉を支えている韓国の社会や文化、さらに最新の様々なコードまで、トピックに合わせ、朝鮮語や韓国について理解を深めていきます。		
授業の達成目標 / Course Goals	「中級」の朝鮮語読解力をマスター。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	学部基礎科目関係の専門外国語科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「朝鮮語基礎ⅠⅡ」「朝鮮語基礎ⅢⅣ」を履修した人が対象です。ただし、朝鮮語の初級をマスターしている人も、履修できます。		
関連科目 / Related Courses	「朝鮮語基礎ⅠⅡ」「朝鮮語基礎ⅢⅣ」を履修した人が対象です。ただし、朝鮮語の初級をマスターしている人も、履修できます。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	授業では、短くて易しい文章から、長くて少し複雑な文章まで、徐々に分量を増やしなが、朝鮮語の読解力を養っていきます。まずは、基礎文法を踏まえ、さらに中級レベルの文法や文型を学習しながら、まとまった文章を読解します。とりわけ講読Cでは、朝鮮語と日本語の差異について綿密に検討します。そして、読解を終えた文章を繰り返し声を出して通読することで、朝鮮語のイントネーションが自然と身につくように学習します。最後に文章の内容に応じて、韓国の伝統や文化、歴史、或いは現在の韓国事情など、多方面から朝鮮語の全体像を概観します。 授業の進行は日本語と朝鮮語を交互に使いますが、朝鮮語の向上のために、段階を踏んで徐々に朝鮮語の使用を増やしていきます。(参加者の能力に応じてテキストの難度を調節する場合がありますので、予めご了承ください。)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 初回ガイダンス 第2週 エッセイ — 初級発音のまとめ 第3週 エッセイ — 初級文法のまとめ 第4週 エッセイ — 「～体」の文章を読む① 第5週 エッセイ — 「～体」の文章を読む② 第6週 エッセイ — 「～体」の文章を読む① 第7週 国語教科書 — 「～体」の文章を読む② 第8週 国語教科書 — 「～体」の文章を読む① 第9週 国語教科書 — 「～体」の文章を読む② 第10週 練習タイム — 文法・文型の復習 第11週 新聞社説 — 長文を読む① 第12週 新聞社説 — 長文を読む② 第13週 新聞コラム — 長文を読む③ 第14週 新聞コラム — 長文を読む④ 第15週 総まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	毎回プリントを配布する。		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加態度及び、演習課題(50%)、期末試験(50%)		
学習上の助言 / Learning Advice	「朝鮮語応用Ⅰ」または「朝鮮語文章表現」を並行して履修すると、さらに効果的な朝鮮語の習得が期待できます。翻訳の楽しさはもちろん、日本語に対する新たな視野が広がります。 毎回の課題や授業をコツコツこなすことが何より重要です。初回のガイダンスは、なるべく出席してください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語講読A / French Reading A		
担当教員(所属) / Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K112108
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 水 / Wed 3, 水 / Wed 4	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容 / Course Description	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。簡単で含蓄のある古典を味わうことで、フランス語の読解力を高め、フランス文化とその背景を理解し、哲学的な思索にもつなげる授業です。難易度は、フランス語講読B、C、Dと変わりません。		
授業の達成目標 / Course Goals	自力でフランス語のテキストを読解し、内容とその背景について考察・判断するとともに、発表と自由課題を通して、長文読解技術・発表技術の基礎を身に付け、フランス語文化圏について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養います。また、1年を通して、フランス語検定試験3級に合格できるだけのフランス語の知識を身につけます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	特に国際学部の教育目標(D)「人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることが出来る」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	フランス語基礎I・II・III・IVの修了者。できるだけ、フランス語応用Iと同時履修すること。		
関連科目 / Related Courses	フランス語基礎I・II・III・IV、フランス語応用I、II。フランス文化論。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①記事を読むフランス人の発音を聴きます。②出席者全員で発音をくりかえします。③担当者が、要約、発音、翻訳を行います。④翻訳や発音の不備を正しながら、文章全体を理解しなおします。⑤各課ごとに自由課題(授業で指示)を提出してもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. オリエンテーション: 勉強の仕方 2. 教科書1課 フランス語とヨーロッパのフランス語圏 3. 教科書2課 フランスの植民地と海外県 4. 教科書3課 ケベックの歴史と独自性 5. 教科書4課 アメリカのフランコフォンとフランス語保護運動 6. 教科書5課 フランス領カリブ海地域とハイチの独立 7. 教科書6課 フランス領インドシナ 8. 教科書7課 フランス領アフリカとアラブの春 9. 教科書8課 ケベックの公用語 10. 教科書9課 フランコフォニー国際機関 11. 教科書10課 フランスのアラブ系2世とブル文化 12. 教科書11課 『タンタンの冒険』 13. 教科書12課 フランス映画が描くインドシナ 14. 教科書13課 ケベックのサーカス文化 15. 試験勉強のポイント解説、および1~13課までの記事の復習。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: Yuko Yamade 『Sociétés et cultures francophones』 駿河台出版社、2016年 辞書: 『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『デイク仏和辞典』(白水社) 参考書: 『仏検公式問題集3級』(フランス語教育振興協会)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(70%)、発表(20%)、受講態度(10%)。自由課題の提出回数も評価の参考にします。		
学習上の助言 / Learning Advice	講読の授業は、予習をせずに出席しても学習効果は期待できません。特に担当者は必ず予習をしてください。		
キーワード / Keywords	フランス語、講読、精読、翻訳。		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	Seminar in Latin American Studies/Seminar in Latin American Studies		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160358
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日10:00~12:00 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	本演習は最近50年の商品とサービス、資本、人間、思想という4つの動向からラテンアメリカ地域を分析することにより、国際的な文脈におけるラテンアメリカの問題を考察します。まず、この動的な流れを捉えるために、国際貿易と資本の流れに関する基本的なミクロ経済学、比較優位、金利と為替相場のメカニズム、賃金格差などの基本的な経済学理論を学習する予定です。		
授業の達成目標/Course Goals	現代ラテンアメリカ状況を理解できるようになることを目標とします。そのため歴史を把握する必要がありますので、現代ラテンアメリカ及びカリブ海地域を形成する経済的特徴の基盤となっている言語、宗教、習慣、信仰、社会的及び政治的な制度というイベリア半島の遺産の他に、スペインによる植民地支配の間に確立された重商主義のシステムは貧困と不平等、政治的権力の集中、汚職、競争の悪循環、ジェンダーと教育、制度上の欠陥、レントシーキングの蔓延るについて考察します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本講義はディプロマポリシーA,Dに関連します。国際学部の専門教育科目であり、ラテンアメリカの経済の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	国際学特殊講義A(旧国際学特殊講義II)、国際学特殊講義B(旧国際学特殊講義III)		
関連科目/Related Courses	国際学特殊講義A(旧国際学特殊講義II)、国際学特殊講義B(旧国際学特殊講義III)		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本演習は2部で構成されています。第1部は9回目までの講義で編成されており、ラテンアメリカ、カリブ海諸国、その他の世界における交流を理解するための基本的な経済学理論の概念を学習します。テーマによっては、パワーポイントのスライドやDVDの映像を使用し、適時授業を補充します。理論のフレームワークを学習する第1部の講義の後、第2部として、受講者には講義に関連したテーマについて発表を行ってまいります。授業ごとに、現在のラテンアメリカについてのテーマを議論する予定です。このため、受講者は議論に参加するために、あらかじめ論文を1冊、またはインターネットや雑誌、新聞のニュースをいくつか読んでくることが求められます。シラバスの内容は授業の進行具合によって、多少変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明 第2週ラテンアメリカの貿易 第3週貿易理論 第4週90年代の自由貿易化 第5週ラテンアメリカの経済、貿易統合 第6週ラテンアメリカの金融 第7週金融危機 第8週ラテンアメリカへの移民 第9週日本におけるデカセギ現象 第10週ラテンアメリカの従属理論 第11週国かテーマを選んだ学生の発表 第12週国かテーマを選んだ学生の発表 第13週国かテーマを選んだ学生の発表 第14週国かテーマを選んだ学生の発表 第15週期末まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	Franko, Patrice (2005) The Puzzle of Latin American Economic Development, second ed., Rowman and Littlefield Publishers Inc.		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		

学習上の助言／Learning Advice	本演習にスペイン語の知識や経験は必要ありません。授業は英語により進行しますが、ディスカッションや発表、レポートに関しては日本語を使用して行っても構いません。また、学生が授業の内容を明確に理解できるように日本語の要約も用意する予定です。授業への積極的な参加を大いに歓迎します。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	日本語論／Japanese Linguistics		
担当教員(所属)／Instructor	高山 道代(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K530490
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	語彙、文法領域に軸をおきながら、日本語学の諸領域を概観する。普段使っている身近な言語である現代日本語を対象化し、日本語のしくみについて考察する。		
授業の達成目標／Course Goals	・現代日本語を対象化し、文法的な観点から捉えること ・日本語学の基本的な知識を身につけ、分析方法を学ぶこと		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国際文化学科の達成目標のうち、とくに「知識・理解」「思考・判断」の項目に対応する。		
前提とする知識／Prerequisites	・日本語の運用能力があること ・日本語の辞書がひけること ・日本語のしくみに興味をもっていること		
関連科目／Related Courses	「日本語の表記」(基盤教育教養科目)・「日本語史」(国際学部専門教育科目)・「言語学」(同)・「対照言語学」(同)に関連する。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	基本的に講義形式で授業を進めるが、受講者にも問題を考えてもらい、授業内活動にとりくんでもらう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1 初回ガイダンス 2 言語の単位と研究分野 3語彙 (1) 語彙とは 4語彙 (2) 語彙的な側面からみた単語の性質 5語彙 (3) 語彙体系 6語彙 (4) 語彙的意味関係① 7語彙 (5) 語彙的意味関係② 8語彙 (6) 語彙的意味関係の周辺 9文法 (1) 文法とは 10文法 (2) 文と単語 11文法 (3) 形態論と統語論 12文法 (4) 文の内容とのペ方 13文法 (5) 単語の意味 14文法 (6) 文の成分と文の拡大 15 総括 ※進行順序や重点事項は必要に応じて変更することがある		
教科書・参考書等／Textbooks	テキスト・資料：授業時に紹介および指示をおこなう 参考書・教材等：伊坂淳一著『ここからはじまる日本語学』(ひつじ書房)、工藤浩ほか編『日本語概説』(ひつじ書房)など		
成績評価の方法／Evaluation	授業内の課題・提出物など(40%)、学期期末試験(60%)を総合して評価をおこなう。		
学習上の助言／Learning Advice	身近な言語である現代日本語を対象化するとどのように捉えられるだろうか。問題意識をもって授業に臨もう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語講読A/Thai Reading A		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K115107
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	タイ語基礎を履修した初級程度の受講者を対象に、小学校高学年レベルの教科書や新聞、雑誌の記事など様々な文章を読み、読解力を高めます。		
授業の達成目標/Course Goals	中級レベルのタイ語の文章を読み、単語力を高めるとともに、単語区切り、文章のつながり、切り方などを学び、基礎的な読解力を身につけることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、国際学部の教育目標(C)「講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「タイ語基礎Ⅰ～Ⅳ」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「タイ語基礎Ⅰ～Ⅳ」を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	小学校高学年レベルの教科書や新聞、雑誌の記事など様々な文章を講読します。毎時間の予習・復習が重要です。毎回の授業のはじまりには、前回学習した内容の小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. ガイダンス 2. テキストを読む(1): 「タイ人は公務員になるのが好きです」 3. テキストを読む(2): 「タイの教育」 4. テキストを読む(3): 「タイの家族」 5. テキストを読む(4): 「タイの子ども」 6. テキストを読む(5): 「タイの宗教」 7. 新聞を読む(1): 社会関連記事 8. 新聞を読む(2): 経済関連記事 9. 新聞を読む(3): 政治関連記事 10. 新聞を読む(4): 文化関連記事 11. 雑誌を読む(1): 社会関連オピニオン 12. 雑誌を読む(2): 経済関連オピニオン 13. 雑誌を読む(3): 政治関連オピニオン 14. 雑誌を読む(4): 文化関連オピニオン 15. まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	プリントを配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(60%)と出席状況・授業態度・小テスト(40%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	タイ語の読解を踏まえ、正しい日本語で表現する力を身につけよう。そのためには「文法」を嫌がらず、文の構造を理解することが不可欠です。また安易な「直訳」を避け、文脈を把握する力が重要です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会福祉学概論／Social Policy and Administration		
担当教員(所属)／Instructor	長谷川 万由美(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K130655
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	長谷川 万由美(mayumit@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	社会福祉を援助するために必要な要素として社会福祉に関する知識、援助のための技術、何を大事にして援助をするのかという倫理の三つがあります。この授業では、そのうち知識に焦点をあてて、社会福祉の理念、制度、歴史を考えていく。		
授業の達成目標／Course Goals	社会福祉の現代的意義を歴史、理論、対象分野、法・制度、担い手等の各領域からとらえ、体系的に理解することを目的とする		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	地域公共領域の専門科目として、社会福祉に関する基礎的な知識を身につける科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	現代福祉事情を履修していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	現代福祉事情を履修していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義を中心にビデオなど視聴覚教材も活用していきます。新しく施行された法律や特に新しく社会問題化してきたことを扱うために、内容が変更になることがある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 授業説明、福祉とは 第2回 社会福祉の援助活動 第3回 個別援助 第4回 集団援助 第5回 地域援助 第6回 社会福祉の政策 第7回 福祉国家の形成(1)イギリスにおける福祉国家の形成 第8回 福祉国家の形成(2)北欧諸国の歩み 第9回 日本の社会福祉のあゆみ(1)第二次世界大戦まで 第10回 日本の社会福祉のあゆみ(2)戦後から現在まで 第11回 社会福祉の運営(1)ニーズとアセスメント 第12回 社会福祉の運営(2)行財政 第13回 社会福祉の理念(1)QOL、ノーマライゼーション 第14回 社会福祉の理念(2)エンパワメント 第15回 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書 『社会福祉をつかむ』有斐閣		
成績評価の方法／Evaluation	中間レポート40%期末試験60%		
学習上の助言／Learning Advice	社会福祉をさまざまな視点から分析して一緒に考えていきましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	Introduction to Latin American Studies/Introduction to Latin American Studies		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130697
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日10:00~12:00 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	歴史的背景を参考しながら、人口統計を踏まえた地理的条件が、どのように現在のラテンアメリカ各国の経済状況を形成したのかを勉強します。		
授業の達成目標/Course Goals	本講義は近代ラテンアメリカとカリブ海地域の国家の位置、人口水準、主要な経済活動、産業、輸出、国際貢献、共通性、ラテンアメリカ内における体系的な分類という地理学的な視点を提示することにより、ラテンアメリカとカリブ海地域の国家について総合的に復習します。その上で、歴史的背景を考慮しながら、人口統計を踏まえた地理的条件が、どのように現在の各国の経済状況を形成したのかを見ていきます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本講義はディプロマポリシーA,Dに関連します。国際学部の専門教育科目であり、ラテンアメリカの政治、経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	本講義受講にあたり、前提とする必要な知識・経験は特にありません。		
関連科目/Related Courses	本講義受講にあたり、前提とする必要な知識・経験は特にありません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本講義は2部で構成されています。第1部はラテンアメリカの基本的な地理的及び歴史的な問題を学習します。テーマによっては、パワーポイントのスライドや関連するDVDの映像を使用し、適時講義を補完します。第2部は9回目の講義から始まり、フレームワークとして行った第1部の内容や情報を用い、数ある中でも社会闘争、貧困と不平等、テロリズム、政治不安、民主主義、ジェンダーという時事問題をテーマとし、受講者による発表を行います。シラバスの内容は授業の進行具合によって、多少変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明 第2週各国を紹介 第3週ラテンアメリカの入門、教科書の第1章 第4週ラテンアメリカの地理、教科書の第2章 第5週ラテンアメリカの人々、教科書の第2章 第6週ラテンアメリカの資源、経済、教科書の第2章 第7週ラテンアメリカの環境、教科書の第8章 第8週ラテンアメリカの都市化、教科書の第8章 第9週中間まとめ 第10週国かテーマを選んだ学生の発表 第11週国かテーマを選んだ学生の発表 第12週国かテーマを選んだ学生の発表 第13週国かテーマを選んだ学生の発表 第14週国かテーマを選んだ学生の発表 第15週期末まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	Hillman, Richard S. (2011) Understanding Contemporary Latin America, fourth ed., Boulder: Lynne Rienner Publishers Inc.		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	本演習にスペイン語の知識や経験は必要ありません。授業は英語により進行しますが、ディスカッションや発表、レポートに関しては日本語を使用しても構いません。また、学生が授業の内容を明確に理解できるように日本語の要約も用意する予定です。授業への積極的な参加を大いに歓迎します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	環境と国際協力演習 / Seminar in Area Studies		
担当教員(所属) / Instructor	高橋 若菜(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K160315
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 水 / Wed 5, 水 / Wed 6	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	1 学術書輪読 地球環境保護・保全のための国や地方レベルでの取組みを比較考察する。同一の環境問題であっても、各国の取組が大きく異なる要因を、比較政治の観点から理論的に考察し理解を深める。 2 フィールドスタディ アクティブ・ラーニングとして、足尾・渡良瀬におけるフィールドワークを行い、国内外に通底する環境問題の社会的構造を学ぶ。受講生自ら各自問題設定を行い、調査を主体的に進め、その結果を各々レポートにまとめる。 3 討論もしくは議論 北関東大学合同ゼミ(茨城大、宇都宮大、群馬大、筑波大)のゼミ交流の一環で、受講生の関心に即したテーマを選び、討論もしくは議論を行う。学生主体の取組みとなる。		
授業の達成目標 / Course Goals	環境分野の知識を深めるとともに、読解力、分析能力や論理的な思考力の養成、論理的な文章執筆能力の向上、表現能力やコミュニケーションの向上をはかる。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	国際学部ディプロマ・ポリシー(C)講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる、に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	国際学部専門科目「環境と国際協力」「地球環境政策論」を受講済みであることを前提とする。		
関連科目 / Related Courses	国際学部専門科目「環境と国際協力」「地球環境政策論」を受講済みであることを前提とする。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①専門的な学術書の輪読、②フィールドスタディの実施とレポート作成、③Debate(茨城大、筑波大、群馬大との交流ゼミ)、の3本建てで進める。 授業では毎回司会進行役と発表者を決める。発表者はレジュメを全員分準備する受講生は全員、スピーチ(2-3論点をまとめ、自分の考えも付け加えて議論する)を行い、その後全員での議論につなげる。課題文献を事前に読んでおくことはもちろんのこと、さらに自発的に文献資料を探して読み、知識を蓄え思考を広げる事をお勧めする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 オリエンテーション・自己紹介(各受講生の問題意識・関心テーマ、文献や活動等紹介) 第2週 学術書講読(合同ゼミの準備作業も、各週同時進行する) 第3週 学術書講読 第4週 フィールドスタディ準備 第5週 フィールドスタディの実施 第6週 フィールドワークの振り返り 第7週 学術書講読 第8週 学術書講読 第9週 学術書講読 第10週 学術書講読 第11週 学術書講読 第12週 Debate準備 第13週 合同ゼミ(日程は、28年度に入ってから調整する) 第14週 個人レポート発表 第15週 総まとめ ※スケジュールは受講人数や進捗状況に応じて調整・変更する可能性があります。		
教科書・参考書等 / Textbooks	学術書輪読: ミランダ・A・シュラズ『地球環境問題の比較政治学』、2007年、岩波書店。 フィールドスタディや討論・議論については、適宜アドバイスする。受講生自ら文献・資料・データを収集することも、肝要である。		
成績評価の方法 / Evaluation	原則全回出席で評価対象とし、授業参加(40%)、各自の発表(30%)、レポート(30%)を判断基準として成績を評価します。		
学習上の助言 / Learning Advice	問題関心はあっても、課題設定し、論理的に思考を広げる事は、必ずしも容易ではない。常識や規範を鵜呑みにせず、些細な事でも感じた疑問点を育て、自ら本や資料を探し思考を広げてみるとよい。演習では、他者の意見に耳を傾け、自由に柔軟に思考し、思う存分議論していただきたい。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本思想史/History of Japanese Thought		
担当教員(所属)/Instructor	吉村 均(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530023
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	吉村 均(授業期間中にコンタクトすること)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	吉村 均(授業終了後の休み時間の前半、教室において)		
授業の内容/Course Description	近代の学校教育は、西洋の知識や技術を取り入れる目的で作られたもので、日本の思想・文化についての説明は、実際とは大きく異なる。授業では民俗学や伝統的な仏教理解を手がかりに、現代の私達との関わりを意識しながら、日本における思想的展開をたどっていく。		
授業の達成目標/Course Goals	伝統宗教と文化の関係、伝統と現在の私たちの関係を知り、外国人に自国の文化について説明できる能力を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、国際学部教育目標(A)の特に「世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解(…)」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	中学生程度の日本史の知識を前提とする。留学生などで基本的知識を欠く場合は、小学校の社会や中学校の日本史の教科書、参考書などを活用して各自で補うこと。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式だが、質問を歓迎する。具体的理解の助けとなるよう、視聴覚資料を活用する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	(学生の理解の度合い等によって、進み具合など一部変更する場合があります) 第1回 日本思想史を考える上での障害 神仏分離と学問・教育制度 第2回 日本思想史の基本構図(1) 柳田国男・折口信夫の民俗学 第3回 日本思想史の基本構図(2) 神とそのまつり(『風土記』) 第4回 日本思想史の基本構図(3) 近代仏教学と伝統仏教 第5回 日本思想史の基本構図(4) 基本構図-浄土信仰を例に 第6回 古代における展開(1) 仏教伝来と憲法十七条(『日本書紀』)・『古事記』 『日本書紀』の神々の特殊性 第7回 古代における展開(2) 旅と仏教-旅する僧・旅人に説かれる教え(『日本霊異記』) 第7回 古代における展開(3) 神まつり・死者のまつりへの僧の関与(『日本霊異記』) 第8回 中世における展開(1) 密教・曹洞禅・他力念佛 第9回 中世における展開(2) 芸道(『作庭記』『風姿花伝』) 第10回 中世における展開(3) 中世神道論 第11回 近世における展開(1) 朱子学と東アジア・日本 第12回 近世における展開(2) 国学 第13回 近代における展開(1) 西洋の知と日本 第14回 近代における展開(2) 「東洋」と日本 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 吉村均『神と仏の倫理思想[改訂版]』北樹出版。 参考書: 苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館(教科書に準じる参考書)。 (中国語訳『日本思想史入』ISBN: 9787513519137 韓国語訳『』ISBN: 9788963574066) 佐藤正英『日本の思想とは何か』筑摩選書。 『日本思想史講座』(全5巻)ベリかん社。 『岩波講座 日本の思想』(全8巻)岩波書店。		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験(持込可。レポートに替える場合がある)70%。平常点30%(授業中に感想を書くなどの課題をだすことがあり、成績評価に反映される)		
学習上の助言/Learning Advice	あらかじめ教科書の初版発行時の書評(朝日新聞2009年8月9日。 http://book.asahi.com/reviews/reviewer/2011071704168.html)、および「近代の知」と「仏教の知」-何が見失われたのか」中外日報2009年10月22日に目を通しておくと、講師の当該テーマについての基本的な捉え方が理解でき、受講するかどうかの参考や、授業内容の理解にも役立つと思う。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	イギリス文学史/History of British Literature		
担当教員(所属)/Instructor	市川 裕見子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530155
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	古代、中世から現代にわたるイギリス文学史を概観します。		
授業の達成目標/Course Goals	イギリス文学の生成、発展、消長をイギリスの文化、歴史、社会的背景のなかに位置づけ、理解し、把握した上で、なおそれらを味わう素養を養います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	各学生の専攻に応じて、教養として、または専門の研究に必要な基礎知識として役立ててください。		
前提とする知識/Prerequisites	特にはありませんが、一定の英語力と、文学に対する深い関心があることを望みます。		
関連科目/Related Courses	特にはありませんが、一定の英語力と、文学に対する深い関心があることを望みます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	I. 導入部イギリス人はどこから来たか II. 古英語 (Old English) の文学『ベオウルフ Beowulf 』 III. 中英語 (Middle English) の文学『カンタベリー物語』 チョーサー著 IV. 『アーサー王伝説』 V. トーマス・モア Thomas More 『ユートピア Utopia 』 VI. ルネサンス詩・ソネット形式 VII. 演劇・シェイクスピア VIII. ジョナサン・スウィフト Jonathan Swift 『ガリヴァー旅行記 Gulliver' s Travels 』 ダニエル・デフォー Daniel Defoe 『ロビンソン・クルーソー Robinson Crusoe 』 IX. ジェイン・オースチン Jane Austen 『高慢と偏見 Pride and Prejudice 』 X. シャーロット・ブロンテ Charlotte Bront? 『ジェイン・エア Jane Eyre 』 XI. エミリー・ブロンテ Emily Bront? 『嵐が丘 Wuthering Heights 』 XII. サッカレー Thackeray 『虚栄の市 Vanity Fair 』 XIII. ディケンズ Dickens 『オリヴァー・ツイスト The Adventure of Oliver Twist 』 XIV. 19世紀ロマン主義詩 XV. 20世紀の小説		
教科書・参考書等/Textbooks	参考文献 川崎寿彦『イギリス文学史』成美堂 Ronald Carter他『The Penguin Guide to Literature in English 』		
成績評価の方法/Evaluation	出席と中間レポート(内容は追って指示します)、期末試験(ノートのみ持ち込み可)により評価します。 なお、出席率が三分の二に満たない場合は、単位を取得できません。		
学習上の助言/Learning Advice	是非、作品を実際に読んで、味わってください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス文化論演習/Seminar in French Culture		
担当教員(所属)/Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560143
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容/Course Description	この授業は、フランス文化論(2年・後期・講義)の既習者を対象とします。フランス文化に関する専門性の高い研究を行なうための準備クラスです。日仏交流の観点から異文化理解とは何かを考察した学術論文を精読し、論文の作法を学びながら基礎知識も習得します。文献読解のための調査を行ない、他人に理解可能な言葉で発表することを実践的に学ぶ授業です。		
授業の達成目標/Course Goals	フランス語文化圏に関する専門的な文献の内容を、その文献に即して正確に理解するとともに、先行研究と自らの観点を区別・比較する基礎的な思考力を養います。また、文献調査、レジュメ作成、口頭発表、論文執筆などの基礎的な技術を学び、フランス語文化圏の価値観について、自ら積極的に調査・理解・分析する自学自習の重要性を自覚できるようになることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部の教育目標(C)「(専門的な)内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行なうことができる」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	フランス文化論(2年・後期・講義)の既習者であることが前提条件です。		
関連科目/Related Courses	フランス文化論、ヨーロッパ思想構造論、西洋現代思想。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	①「日仏交流」という観点を軸に据え、特に「鉄道文化」に関わる研究(下記)を教科書として、出席者全員で精読します。②受講者は担当個所のレジュメを作成し、口頭発表を行います。③文献の調査方法、プレゼンテーションの仕方、レポートの書き方について指導します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 授業についての説明。 2. パリ、都市と鉄道の19世紀 3. サン＝シモン主義者の鉄道網構想 4. 駅をめぐる都市論争 5. メトロ網構想と政治の戦い 6. 地下メトロ vs 高架メトロ 7. 19世紀から20世紀へ 8. 1847年恐慌と鉄道ブーム 9. イギリス、ドイツ、アメリカにおける鉄道 10. 鉄道が映し出す日本 11. 明治大正期における資本主義の誕生と鉄道の敷設 12. 近代国家と民主主義と鉄道 13. 国民意識と鉄道 14. 資本主義、ナショナリズム、鉄道 15. 全発表の総括		
教科書・参考書等/Textbooks	北河大次郎『近代都市パリの誕生 鉄道・メトロ時代の熱狂』河出ブックス。望田幸男監修『近代ヨーロッパの探究 鉄道』ミネルヴァ書房、その他。		
成績評価の方法/Evaluation	発表(60%)、レポート(30%) 受講態度(10%)		
学習上の助言/Learning Advice	フランス文化論(2年・後期・講義)の授業内容を念頭に置きながら、より深い教養、思考力、想像力を養ってください。その際、すぐに教員に質問をぶつけて答えを求めるのではなく、その問いを自分のなかでじっくりと噛み締め、自分で解決しようとする「自学自習」の態度を身につけてほしいと思います。		
キーワード/Keywords	フランス文化、思想史、文化史、カルチュラル・スタディーズ、近代。		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語会話/Spanish Conversation		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K117200
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日10:00~12:00 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた会話力を養成します。		
授業の達成目標/Course Goals	スペイン語は、文法的には奥が深いですが、日本語と同じ母音があるため、日本人にとっては他の外国語より発音が難しくありません。授業ではこのポイントを強調し、会話力を養成します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本演習はディプロマポリシーCに関連します。国際学部の専門教育科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語の会話を学習したい学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	スペイン語応用I、スペイン語応用II、スペイン語応用III、スペイン語応用IV。		
関連科目/Related Courses	スペイン語応用I、スペイン語応用II、スペイン語応用III、スペイン語応用IV。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業では標準スペイン語を教える予定ですが、スペイン語は20か国以上の国々で話されている言語なので、国によって言葉使いが違います。毎週連続ドラマ(DVD版)の新しいシチュエーションの会話を聞いてもらい、繰り返し言う練習をします。まず字幕なしでヒアリング力を養い、その後字幕付きでドラマの内容を確認します。最後に字幕のプリントを配布して、それを参考に新しい会話を作成します。単語を増やせるように練習プリントとフラッシュカードを利用する予定です。補助教材として、教科書も使います。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明、自己紹介、個人情報伝える、スペイン語を勉強するのはなぜ? 第2週DVD第1エピソード:不動産屋で、家族、友達の紹介 第3週私のスケジュール、仕事、余暇活動 第4週DVD第2エピソード:行き方を聞く、行き方を教える、君はどう思う? 第5週友達募集、毎日の生活、次の日の予定(未来形) 第6週DVD第3エピソード:好きな食べ物、健康的な生活を送ること(命令形) 第7週中間まとめ 第8週DVD第4エピソード:描写する、今日は何をしましたか?(現在完了) 第9週今日の学習記録 第10週DVD第5エピソード:招待する、断る、どうでしたか?(点過去)、お祭り 第11週行事の由来、昔と今(線過去)、印象に残ったプレゼント 第12週DVD第6エピソード:調子は?昔々(点過去vs.線過去) 第13週印象深い出来事の報告 第14週DVD第7エピソード:約束する、私たちの環境を保護しましょう(接続法) 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	Omori Hiroko-Vivancos Hernández Josefa-Hiroyasu Yoshimi 著「Punto y Seguido-Curso de español nivel pre-intermedio」+CD(アクティビティで学ぶスペイン語・初級から中級へ教科書 CD付き)朝日出版社。定価2,200円(消費税別)・宇都宮大学生協で販売。授業の進行状況によって作成したプリントを使用。ポスター、雑誌、フラッシュカード、ゲーム、ビデオ、ミュージックCD、映画DVD、和西・西和辞書を使用。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	ヨーロッパ思想構造論／Europe Enlightenment		
担当教員(所属)／Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K130467
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時～14時)		
授業の内容／Course Description	現代社会の諸矛盾や戦争を考慮しつつ、近代ヨーロッパ思想の展開史をたどります。社会構造と思想との関連を追究します。本講義は3年次生のレベルの学生に対応します。		
授業の達成目標／Course Goals	思想とは数学の問題を解くように法則・原理はありません。従って、「思想とは何か?」という問いへの解は多様です。現代世界がヨーロッパ近代の思想を尺度として展開していることを前提し、その批判的検証を行います。受講者の皆さんの複眼的思考力を養成します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	現代の多様な国家と地域の文化・社会の在り様と矛盾を、たとえば18世紀ヨーロッパ・ドイツ近代の啓蒙主義、哲学・思想の展開史を手掛かりとして検証します。		
前提とする知識／Prerequisites	ヨーロッパ及びアメリカ合衆国、日本、アジアに関する常識的知識(含:歴史・政治・経済・倫理)が必要です。なお、履修ガイドも参照してください。		
関連科目／Related Courses	ヨーロッパ及びアメリカ合衆国、日本、アジアに関する常識的知識(含:歴史・政治・経済・倫理)が必要です。なお、履修ガイドも参照してください。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で行い、理解してほしいポイントを毎回指示するようにします。関心対象について、グループ発表の場を5回程度設けるつもりです。ただし、履修者数を考慮し決定します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	ーイントロダクション 二近代ヨーロッパ精神の成立に関して ・キリスト教と自然信仰、異端と魔女 ・実験と分析、科学革命 ・スコラ学と神・自然認識、 ・ルターと宗教改革、ルネサンス、 三近代の社会と思想に関して ・人間の理性と狂気 ・啓蒙主義とフランス革命、アメリカ合衆国の独立 ・日本の近代化、明治維新と西欧化 四現代の社会に関して ・国家有機体論、ナチスのイデオロギー ・冷戦の終結、ベルリンの壁の崩壊 ・国民国家、脱国民国家、ポストモダン、EU 五個別発表とまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書:特に教科書はありません。 参考書:ヨーロッパ史入門全10冊(岩波書店)2004年		
成績評価の方法／Evaluation	出席50%、個別発表と試験50%の割合とします。ただし、知識を問う試験は行いません。		
学習上の助言／Learning Advice	近代ヨーロッパの思想の展開を理解することは、現在の世界の社会の矛盾やシステムを理解すること、そして、グローバル社会を理解ことにつながります。		
キーワード／Keywords	授業計画を参照ください。		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	近現代中国論演習/Seminar in Contemporary China		
担当教員(所属)/Instructor	松村 史紀(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160070
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松村 史紀(f-matsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp 電話:028-649-5190)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松村 史紀(月曜日12:30~13:30)		
授業の内容/Course Description	前半部分では、国際政治や現代中国に関する専門書を全員で講読し、討論する。後半部分では、各自がより専門的な文献のリサーチと講読を進め、個別テーマに関する研究発表をする。		
授業の達成目標/Course Goals	学術的な研究方法の基礎を体得することが最大の目標である。そのために、前半部分では、文献の読み方・メモの取り方・発表の仕方を訓練する。後半部分では、個別テーマの選択・関連文献のリサーチ・研究発表を身につけることを目標にする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学生は自身の興味・関心に従って、この専門分野の演習を選択し、同分野における学習の専門性を深めると同時に、主体的かつ批判的な分析力を養成する。資料・専門書の分析・読解、実地調査、そして論理的な文章執筆のための方法論を学び、専門的な議論を組み立てるための、論理的な思考力を養成する。調査し、分析した内容を体系的にまとめて文章化し、または口頭で発表して考察内容を伝えると同時に、他の人々と問題を共有するための表現力を養成する。		
前提とする知識/Prerequisites	「国際政治論」「国際時事問題」「近現代中国論」のいずれかを受講していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「国際政治論」「国際時事問題」「近現代中国論」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	初回の授業では、教員が学生に研究方法の見取り図を提示する。二回目以降は、学生自身の研究発表を中心とする。毎回、発表者1人、コメンテーター2人を立て、フロアの学生は最低でも一回は質問・コメントしてもらう。第七回までの授業は文献講読の発表に当たるが、第八回からの授業は個別の研究発表をしてもらう。研究発表の成果は、レポートとして完成させる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 教員によるイントロダクション: 講読文献リストの提示 2. 文献講読(1) 国際政治全般 3. 文献講読(2) 国際政治全般 4. 文献講読(3) 東アジアの国際政治 5. 文献講読(4) ヨーロッパの国際政治 6. 文献講読(5) 中国の政治外交 7. 文献講読(6) 中国の政治外交 8. 個別テーマの選択 9. 個別テーマの発表(1) 文献発表 10. 個別テーマの発表(2) 文献発表 11. 個別テーマの発表(3) 文献発表 12. 個別テーマの発表(4) 文献発表 13. 研究発表(1) 14. 研究発表(2) 15. 研究発表(3)		
教科書・参考書等/Textbooks	初回到文献リストを提示する予定だが、その一部は以下のもの(変更もありうる)。 高坂正堯『国際政治: 恐怖と希望』中央公論新社、1966年 E. H. カー(原彬久訳)『危機の二十年』岩波文庫、2011年 『シリーズ国際関係論』各巻(とくに国際社会の秩序、平和と安全保障の巻)、東京大学出版会、2007年 天児慧『「中国共産党」論』NHK出版新書、2015年 三船恵美『中国外交戦略』講談社、2016年		
成績評価の方法/Evaluation	発表の方法・内容(60%)、レポートの内容(40%)		
学習上の助言/Learning Advice	準備はつらく、発表は楽しく。 構想は大きく、研究対象は小さく。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際協力論実習/Practicum in International Cooperation Studies		
担当教員(所属)/Instructor	重田 康博(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160129
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8, 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	重田 康博(shigeta@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	重田 康博(水曜日14:30-16:00、来訪前に必ずメールでお問い合わせ下さい。)		
授業の内容/Course Description	国際協力とは何か、世界にはどのような開発に関する諸問題があるのか、開発に従事する関係者はどのような姿勢や心構えでないといけないのか、その問題発見能力や問題解決するための行動力を身に付け、国際協力の基礎、キャリアを学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	1 どのように国際協力や開発問題を学ぶのか、専門知識や問題解決のための姿勢や心構えを学ぶ。 2 どのようにフィールドワークを行うのか、フィールドワークの方法を学ぶ。 3 どのように発表を行うのか、プレゼンテーションの方法を学ぶ。 4 どのように討論するのか、ディスカッションの方法を学ぶ。 5 どのように文献資料を収集するのか、資料収集の方法を学ぶ。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	(A)知識・理解：国際協力や開発問題を分野横断的に理解し、総合的な社会科学に関する基本知識を身に付ける。 (B)思考・判断：国際協力の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 (C)技能・表現：専門的な文献やフィールド調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。その内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。 (E)関心・意欲・態度：国際協力の諸問題に広く関心を持ち、多文化社会を尊重して、国際協力や開発の諸問題を解決するために、知識や技能を用いて実践的に行動することができる。		
前提とする知識/Prerequisites	「地球市民社会論」、「国際協力論入門」、「国際協力論」のいずれかを履修済・履修中であることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「地球市民社会論」、「国際協力論入門」、「国際協力論」のいずれかを履修済・履修中であることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1 国際協力、開発問題に対する理解を深め、フィールドワーカーの姿勢や心構えを学びます。 2 参加型開発の方法、インタビューの方法、資料収集について学びます。 3 国際協力NGOや国際協力団体を訪問し、質問項目・調査項目・報告書の作成等・フィールドスタディの方法を学びます。 4 団体訪問の後、学生にプレゼンテーションをしてもらいます。 5 資料収集のため、国会図書館、JETROアジア経済研究所などを訪問します。 6 国際協力分野へのキャリアを一緒に考えます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1 オリエンテーション 2 国際協力とは何か、開発フィールドワーカーとは何か。 3 開発にどのように望むのかー文献の購読 4 開発にどのように望むのかー参加型学習 5 インタビューの方法・質問項目の作成ー実際の国際NGOを想定した実技 6 国際NGOを訪問(合宿)ーインタビューの実施 7 国際NGOを訪問(合宿)ーインタビュー結果のまとめ 8 調査結果の発表と討論 9 報告書の作成とまとめ 10 問題の発見と研究計画 JICA、JETROアジア経済研究所を訪問、資料収集 12 調査・資料収集結果の発表・共有 13 調査・資料収集結果の発表・共有 14 報告書の作成 15 調査報告書の提出、国際協力分野へのキャリアを考える		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書：重田康博『NGOの発展の軌跡』明石書店、その他の本は追って指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業出席回数50%、発表、レポートの提出回数と内容50%の合計で成績評価します。出席回数9回以上授業に出席しないと評価の対象としません。		
学習上の助言/Learning Advice	NGO活動や国際協力活動に興味・関心のある人は是非受講して下さい。このゼミでは、教員のネットワークを生かして、NGO、国際機関の現場を訪問するようにします。ゼミを通して、教員と学生同士の親睦を深めます		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日欧比較文学論演習/Seminar in Comparative Study of Japanese and European		
担当教員(所属)/Instructor	市川 裕見子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560216
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	扱う素材は主として西欧の近代文学作品とその日本語翻訳書、および日本文学、またそれに関わる音楽、芸術メディアです。		
授業の達成目標/Course Goals	特に掲げません。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	通例では二年生後期で受講する「日欧比較文学論」の授業を受けて、三年前期に本ゼミで関連テーマの研究、発表を行います。さらにこの関連テーマで卒業論文の作成を目指す学生は、三年生後期の卒業研究準備演習へとつなげていきます。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありませんが、文学、芝居、その他の芸術メディアに対する関心と好奇心があれば、と思います。		
関連科目/Related Courses	特にありませんが、文学、芝居、その他の芸術メディアに対する関心と好奇心があれば、と思います。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各自が特定の近代西欧文学もしくは日本文学、またはそれに関連する別ジャンルのメディア作品を選び、比較文学的視点および方法を用いて考察、研究を行い、発表します。各発表に対して、教員および学生がディスカッションを行い、コメントをします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回口頭発表の方法、準備の仕方、テーマの選択などについて、教官の指示、説明。 第2回 ↓ 学生口頭発表およびそれについてのディスカッション、講評、アドバイス。 第14回 第15回最終発表会		
教科書・参考書等/Textbooks	素材テキストは、どれを用いてもかまいません。初回に入手可能なそれらについて、教官が紹介をし、参考文献、研究書についても、随時紹介、指示を行います。		
成績評価の方法/Evaluation	授業中の口頭発表、および他学生の発表に対する意見、議論、コメント(70%)と期末レポート(30%)によります。		
学習上の助言/Learning Advice	この演習の段階では、まだまだテーマを小さく絞らずに、関心、興味の惹かれるままに、広い視野で諸テーマに取り組んでください。そうしておくことが、のちに専門分野を狭めて研究する時にも、かならず生きてきます。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際法演習/Seminar in International Law		
担当教員(所属)/Instructor	今井 直(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160072
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	今井 直(imai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	今井 直(前期:木曜5-6, 後期:水曜昼休み(研究室、授業期間中)、またはメールによる予約)		
授業の内容/Course Description	各自の関心のある国際問題や人権問題について個々にまたは共同して研究報告し、相互に討論し合うことにより、かかる問題についての知識と考察を深めます。		
授業の達成目標/Course Goals	報告・討論を通じて、調査能力、説明能力、論理展開能力を養うことをめざします。また、国際問題や人権問題に対する関心とリーガル・マインドを養います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学生が自分自身の問題関心・問題意識を確認して、卒業研究準備演習や卒業研究の段階に進んでゆく橋渡しをします。 国際社会学科のディプロマポリシーとの関連で言えば、(A)知識・理解:国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける、(B)思考・判断:異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる、(C)技能・表現:講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる、上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する、と特に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses	できれば国際法や国際人権法を履修しておいてください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各自の関心のある国際問題や人権問題について、個々にまたは共同して研究・調査の上レジュメを作成・報告し、そのテーマについて全員で議論します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	国連の人権諸条約(国際人権規約など)といった国際法に照らして内外における人権問題を検討し、日本社会や国際社会における人権のあり方を考えようとするものです。順番に報告し合い議論し、その報告テーマについて期末レポートを作成してもらいます。以下はあくまで例示であり、受講者の関心を反映させてテーマや順番などは変更する可能性があります。 第1回 ガイダンス(本演習の趣旨・進め方の説明、文献紹介など) 第2回 報告テーマの確認・指示と報告者・日程の確定 第3回 外国人の人権(1) オールドカマー 第4回 外国人の人権(2) ニューカマー 第5回 少数民族の権利 第6回 戦後補償 第7回 難民の受け入れ問題 第8回 被拘禁者の人権(代用監獄、取調べ、受刑者) 第9回 死刑問題 第10回 女性の人権(1)(労働) 第11回 女性の人権(2)(結婚・家族生活) 第12回 子どもの人権 第13回 高齢者の人権 第14回 障害者の人権 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	報告・レジュメの内容50%、授業への参加態度30%、期末レポート20%		
学習上の助言/Learning Advice	大学内にとどまらず、各方面で積極的に資料収集、調査等に当たる必要性を認識して、実行してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	アジア比較地誌論/Asian Comparative Geography		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 史郎(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530120
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐々木 史郎(sasakis@cc.utsunomiya-u.ac.jp 内線5222)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐々木 史郎(月曜日 12:10~13:10 峰町5号館A棟(国際学部A棟)2階 佐々木(史)資料室)		
授業の内容/Course Description	アジア地誌の基礎的事項を確認しながら、アジアの地域的多様性とその地理的背景の意義に関し、いくつかの指標の地域比較を通して、具体的に理解させる。		
授業の達成目標/Course Goals	アジアにおける地理的諸指標の分布や地域差に着目して各地域の特性を理解するとともに、その結果をアジア全体、世界全体の中に位置づけて把握する視点を養うことを目的とする。また、自らの理解の深化や課題の抽出に向けて、統計データ・地図・景観写真等の資料を活用する基礎的技能を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	1) 国際学部の専門科目として、特に以下の学習・教育目標との関連を重視する。 (A)世界における多様な社会・文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。 (B)異なる時代・地域の社会・文化の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 2) 高校地理の履修者が少ないことを前提に、アジア地誌の基礎的理解を養い、アジアの個別地域に関する問題意識の喚起と学習の深化をはかるための準備科目として位置づける。また、高校地理歴史及び中学校社会の教員免許取得のための科目群の1つとして開講する。		
前提とする知識/Prerequisites	受講にあたってとくに高度な予備知識は求めないが、アジア地域の主要国名・地名とその位置を復習しておくことが望ましい。		
関連科目/Related Courses	受講にあたってとくに高度な予備知識は求めないが、アジア地域の主要国名・地名とその位置を復習しておくことが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	配布資料や視聴覚教材を用いた講義のほか、出席の確認も兼ねて、基礎知識の確認、各種の地図や写真類を用いた地理的情報の読み取り、資料の読解と意見提示などの簡単な作業課題を毎回行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. オリエンテーション(授業計画、履修上の注意、基礎知識の整理) 2. レポート課題の説明、アジア地誌の概観(1)~アジアのひろがり、世界の中のアジア 3. 文献検索・引用の仕方とレポートの書き方、アジア地誌の概観(2)~国名・自然地名・国境と地域区分 4. 風土・生態環境の比較からみたアジアの諸地域 5. 人口・経済指標の比較からみたアジアの諸地域 6. 西アジアの生態環境とその地域性 7. 居住様式からみた西アジア 8. 南アジアの生態環境とその地域性 9. 南アジアの開発・環境問題とその周辺 10. 東南アジアの生態環境とその地域性 11. 食文化からみた東南アジア 12. 東北アジアの生態環境とその地域性 13. 東北アジアの地域的課題 14. アジアの一地域としての日本 15. 補足とまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	特に教科書は指定せず、配付資料および視聴覚教材により授業をおこなう。参考図書は授業の中で適宜紹介する。なお、各自で地図帳を用意するのが望ましい。		
成績評価の方法/Evaluation	毎授業時の小課題(25%)と指定課題による期末レポート(50%)および随時紹介するテーマについての任意提出課題(25%)の成績を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業は体系的な知識や理論の提供よりも、学生諸君に自分なりのアジア研究の糸口を模索してもらうための話題提供の時間にしたいと思っています。 レポートの課題と作成要領、参考図書の紹介、授業日程の変更等、授業に関する重要情報は国際学部Moodleで周知します。授業で登録キーを確認したら、速やかに登録を済ませ、随時掲示内容を確認して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	英語文章表現A／English Composition A		
担当教員(所属)／Instructor	佐々木 一隆(国際学部国際文化学科)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K110210
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	英語で学術的な文章を書きます。作文の課題提出を3～4回程度求め、添削して返却します。クラス全体と個人別のコメントをします。必要があれば文法や文章構成の説明も行います。最後に、自分の専門分野の小論文を書く課題を出します。		
授業の達成目標／Course Goals	本授業の目標は、パラグラフやエッセイなどの特徴を学びながら、英語で学術的な文章(特に研究論文)を書くための基礎を養うことにあります。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	様々なエッセイについて学び、専門に関わる文献に触れながら、学術的な英語の文章を論理的に書く能力を養います。		
前提とする知識／Prerequisites	Advanced English I が履修済みであることを前提に授業を進めます。		
関連科目／Related Courses	Advanced English I が履修済みであることを前提に授業を進めます。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	第1週にオリエンテーションを行います。第2週から教科書の学習に入り、基本的に Chapter 1 から Chapter 8 の順序で進めます。この間3～4回程度の作文の課題を出します。最後に、自分の専門分野の小論文を書く課題を出します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	基本的に次の順序で15週の授業を進めます。 1. Orientation Part I Writing a Paragraph Part II Writing an Essay Part III Sentence Structure 2. Paragraph Structure 3. Writing a Paragraph (1) 4. Unity and Coherence 5. Using Outside Sources 6. Writing a Paragraph (2) 7. From Paragraph to Essay 8. Writing an Essay 9. Process Essays 10. Cause/Effect Essays 11. Comparison/Contrast Essays 12. Argumentative Essays 13. Research Papers 14. Form and References 15. Writing a Short Research Paper		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書: Oshima, Alice and Ann Hogue (2014) Longman Academic Writing Series 4: Essays. Fifth Edition. Pearson Education. (大学生協で販売)		
成績評価の方法／Evaluation	日々の授業に対する積極的な取り組み(20%)、作文の課題(50%)、小論文(30%)を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	学術的な英語の文章の書き方を学びたい人、卒業論文を英語で書こうと思っている人の受講を歓迎します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	国際経済論 / Theory of International Economy		
担当教員(所属) / Instructor	磯谷 玲(国際学部国際社会学科)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K120038
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	磯谷 玲(isoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	磯谷 玲(オフィスアワーは原則として月曜ないし火曜の11:30-12:30を予定しています。)		
授業の内容 / Course Description	国際経済に関わる事象の中で、貿易・投資、企業経営(「企業の社会的責任」の問題を含む)に関する問題を扱う。		
授業の達成目標 / Course Goals	1) 国際経済に関する基礎的な事柄・用語等を理解する 2) 国際社会の政治的・法的・社会的プロセスと経済的プロセスとの相互作用について理解を深める		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	1) 多様な側面と特徴をもつ社会の諸問題を分析的に理解する能力を養う 2) 上記諸問題の中で経済的プロセスの位置づけに関する理解を深める		
前提とする知識 / Prerequisites	特になし		
関連科目 / Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	経済学を学ぶには、経済事象についてある程度のイメージや知識があることが必要であるが、日常生活で経済活動に接する機会は多くない。そこで、ドキュメンタリー・映像資料などを用いて、経済活動や企業活動に関する知識を涵養することにした。また経済活動は法政治的・社会的過程と密接に関連しているので、この点についてもとりあげることとした。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1) 導入 2) 企業について (1) 「効率化」 3) 企業について (2) 「経済危機と産業再編」 4) 企業について (3) 決算情報 (A) 5) 企業について (3) 決算情報 (B) 6) 貿易 7) 投資 8) 直接投資 9) ポートフォリオ投資 10) 多国籍企業と貿易 11) 小テスト 12) 「企業の社会的責任」(労働環境) 13) 「企業の社会的責任」(食品業) 14) 規制緩和 15) まとめ 講義中に使用する文献・資料についてはMoodleを通じて配布する予定である。若干の変更がある可能性がある。		
教科書・参考書等 / Textbooks	【参考書】 ・J・サックス『貧困の終焉』 ・竹森俊平『国際経済学』 ・P・リポリ『あなたのTシャツはどこから来たのか?』 ・P・クルーグマン『格差はつくられた』 ・R・クラーナ『カリスマ幻想』 ・山口絵里子『裸でも生きる』 ・デービット・ボーゲル『企業の社会的責任の徹底研究』 ・井上博監訳『多国籍企業と国際生産』		
成績評価の方法 / Evaluation	中間試験(50%)、最終試験ないしレポート(50%)により評価する。		
学習上の助言 / Learning Advice	経済学に限ったことではないが、高校までの勉強とは違い用語や出来事を理解し、記憶すればいいというものではない。大事なことはそれらの手段を使った現実と向き合うことだと考える。そのためにも積極的に様々な機会をとらえて勉強してほしい。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	アメリカ文学史／History of American Literature		
担当教員(所属)／Instructor	米山 正文(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K530171
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	米国文学の歴史を概観する。		
授業の達成目標／Course Goals	米国文学についての基礎的知識を習得し、幅広い観点から考察する能力を身につける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国際学部ディプロマ・ポリシー(B)異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる、に対応する。		
前提とする知識／Prerequisites	1年次で履修可能な学部基礎科目、学科基礎科目を受講済みであること。		
関連科目／Related Courses	1年次で履修可能な学部基礎科目、学科基礎科目を受講済みであること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書に沿って、1回の授業につき、2～3人の作家を割り当てて生涯と作品内容を講義していく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. 授業内容の説明、アメリカ文学の特質について 2. 独立から南北戦争まで――ロマンティシズムの時代：アーヴィング、クーパー 3. 独立から南北戦争まで――ロマンティシズムの時代：ポー、超絶主義(エマソン、ソロー) 4. 独立から南北戦争まで――ロマンティシズムの時代：ホーソン、メルヴィル 5. 独立から南北戦争まで――ロマンティシズムの時代：ストウ、ホイットマン 6. 南北戦争から第一次世界大戦まで――リアリズムの時代：トウェイン、ディキンソン 7. 南北戦争から第一次世界大戦まで――リアリズムの時代：ジェイムズ、ハウエルズ、ウォートン 8. 南北戦争から第一次世界大戦まで――リアリズムの時代：短編(オー・ヘンリーなど) 9. 南北戦争から第一次世界大戦まで――リアリズムの時代：キャザーなど 10. 南北戦争から第一次世界大戦まで――リアリズムの時代：自然主義(クレイン、ドライサー) 11. 南北戦争から第一次世界大戦まで――リアリズムの時代：アンダソン、ルイス 12. 第一次世界大戦以後――1920年代と1930年代：フィッツジェラルド、ヘミングウェイ 13. 第一次世界大戦以後――1920年代と1930年代：南部の文学 14. 第一次世界大戦以後――1920年代と1930年代：カルフォルニアの文学 15. 第二次世界大戦以後――ユダヤ系文学など (予定変更の場合は、授業中に告知する)。		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：西田実『アメリカ文学史』(成美堂)。生協で購入可能としておく。ほかに参考書などある場合は授業中に知らせる。教科書以外に補助教材としてハンドアウトを配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席・提出物(10%)と期末試験(90%)で評価する。試験の内容等は掲示で知らせる。		
学習上の助言／Learning Advice	大学の学習で重要なノート取りが基本となる。興味ある作品は訳本でも構わないので自分で実際に読むと理解が深まる。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	東洋史概説/Outline of Asian History		
担当教員(所属)/Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530333
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松金 公正(木曜日1~2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容/Course Description	「東洋」とは何か、なぜ「東洋史」が形成されたのかといった問題提起から議論をはじめ、ひとつひとつの歴史事象を単に暗記するのではなく、なぜ、そうなったのか、何が原因だったのか、といった視角から、批判・検討する歴史の姿を提示します。内容は、中国の歴史を中心としたものであるが、アジアについて、単なる個々の国家や民族の集合ではなく、連携し合う総体として把握するための視角を醸成します。		
授業の達成目標/Course Goals	東アジアをめぐる歴史を中国を主体として追うことで、我々を取り囲んでいる国際情勢を複眼的に理解することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	東アジア社会の文化のありようを歴史的・地理的観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台としてさらに地理的また分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有することを目指し、国際理解のひとつとして、ヨーロッパとは別の展開をしたアジアの歴史について考えます。		
前提とする知識/Prerequisites	高校レベルの世界史・日本史・地理・倫理等の知識を再確認しながら授業を進めます。そのため、高校時代の教科書や資料集等を参考資料として準備しておくに役に立つと思います。		
関連科目/Related Courses	高校レベルの世界史・日本史・地理・倫理等の知識を再確認しながら授業を進めます。そのため、高校時代の教科書や資料集等を参考資料として準備しておくに役に立つと思います。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的には講義形式とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンス 第2回 「東洋」と「アジア」 第3回 歴史とは何か 第4回 東洋史の誕生 第5回 近代日本における東洋・東洋史 第6回 「中華」とは何か 第7回 周縁、海域からの視点 第8回 都市国家から領域国家へ 第9回 「皇帝」の誕生 第10回 分裂と異民族、再統合と周縁 第11回 「変革」 第12回 集権と「科挙」 第13回 「文人」と「庶民」 第14回 西洋の衝撃と「近代」 第15回 総括		
教科書・参考書等/Textbooks	講義を進めてゆくなかで、個別のトピックごとに適宜指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	最終試験及びレポート(80%)に出席状況(10%)および小テスト(10%)を加味して総合的に判断します。		
学習上の助言/Learning Advice	暗記は如何に意味のある行為か、一緒に考えていきましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	イギリス文化論演習/Seminar in British Culture		
担当教員(所属)/Instructor	出羽 尚(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560151
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	出羽 尚(izuha@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	出羽 尚(月曜日14:30-16:00)		
授業の内容/Course Description	イギリス文化について、自ら調査するための訓練を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	・イギリス文化について、自ら調査する方法を身に付ける。 ・調査した内容を効果的に報告する技術を身に付ける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部ディプロマ・ポリシー(C)講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる、に対応する。		
前提とする知識/Prerequisites	「イギリス文化論」、「英語圏文化論」、「ヨーロッパ地域文化論(基盤)」、「芸術と自然(基盤)」の少なくともいずれかを履修済みであることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「イギリス文化論」、「英語圏文化論」、「ヨーロッパ地域文化論(基盤)」、「芸術と自然(基盤)」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	文化に関わる調査を行うための具体的な方法を教員が提示し、それを受講生が実践し成果を報告する。 そのために、第1に、実地調査を行う。受講生と相談して場所と日程を決めるが、近年の調査地の例は以下。聖ヨハネ教会、松が峰教会、栃木県立美術館(以上宇都宮市)、セツ洞公園、偕楽園(以上水戸市)、イタリア大使別荘、日光真光教会、日光駅(以上日光市)。 第2に英語文献の講読、報告、議論を行う。 第3に文化を扱った新聞記事の調査、報告、議論を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 イントロダクションと実地調査準備①(レファレンスの重要性) 第2回 実地調査準備②(百科事典、個別事典) 第3回 実地調査準備③(先行研究) 第4回 実地調査 第5回 実地調査報告 第6回 英語講読と議論① 第7回 記事報告と議論① 第8回 英語講読と議論② 第9回 記事報告と議論② 第10回 実地調査準備 第11回 実地調査 第12回 実地調査報告 第13回 英語講読と議論③ 第14回 記事報告と議論③ 第15回 英語講読と議論④ 講読文献は、以下を候補に、受講生と相談して決定する。 J. Heskett, Design, 2005, Oxford. S. Edwards, Photography, 2006, Oxford. A. Ballantyne, Architecture, 2002, Oxford. I. H. Thompson, Landscape Architecture, 2014, Oxford R. Arnold, Fashion, 2009, Oxford. E. Prettejohn, Beauty And Art, 2005, Oxford. D. Arnold, Art History, 2004, Oxford. J. Stallabras, Contemporary Art, 2006, Oxford. D. Cottingham, Modern Art, 2005, Oxford. J. M. Woodham, Twentieth-Century Design, 1997, Oxford. A. Colquhoun, Modern Architecture, 2002, Oxford. A. Causey, Sculpture since 1945, 1998, Oxford.		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しない。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加度40%と最終レポート60%の割合で算出し評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	イギリス文化、あるいはそれに関連するテーマで卒業研究を行いたい方はもちろん、教員の専門は美術なので、時代・地域を限定せず芸術作品・芸術活動に興味がある受講生の参加も歓迎します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	アフリカ論/Africa Studies		
担当教員(所属)/Instructor	阪本 公美子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130435
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	皆さんのアフリカのイメージは、距離的に遠く、自分の生活との直接的な関係が分かりにくい ため、少ない偏った情報から形成されているかもしれません。アフリカ大陸には多くの 国々が存在し、地域によって異なる自然・社会環境の基で異なる歴史をもった様々な人々が それぞれの生業のもとで生活しています。またアフリカ問題に関する誤解も流布していま す。本授業ではその多様性・多面性の一部や現実を、アフリカから学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	・アフリカの地理的・文化的・社会的多様性について理解すること。 ・アフリカに関するステレオ・タイプが是正されること。 ・アフリカの歴史について概ね理解すること。 ・アフリカ問題と見なされる紛争に関する理解が深まること。 ・アフリカの貧困と豊かさについて理解すること。 ・アフリカに関して自ら課題を設定し、学ぶこと。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	①知識・理解:アフリカの社会・文化・自然環境・歴史に関して概説的な知識を広げると ともに、理解を深めます。 ②思考・判断:自らのアフリカに関する知識・理解を問い直し、アフリカを取り巻く環境や 構造について考察します。 ③技能・表現:アフリカに関連するトピックに関して、調査し、まとめ、発表する力を養い ます。 ④関心・意欲・態度:アフリカの人びとに関する関心とともに、更に学びたいという意欲を 喚起します。		
前提とする知識/Prerequisites	アフリカに対する興味、住む人々と共感をしようとする姿勢を期待します。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義と分類していますが、質疑応答・討論など受講者の積極的な参加を期待します。毎回授 業の終わりに授業に関する考察や次の授業の予備知識について記述してもらいます。アフリ カに関する個人発表、レポート、テスト、グループ発表を課します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 アフリカ諸国・地域・自然とそのイメージ・知識(参考書 p.142) 第3週 アフリカの人びとの生活と世界遺産(pp.143,149-150) 第4週 植民地化以前のアフリカの歴史と文化遺産(概説とビデオ)(p.144) 第5週 アフリカの植民地化・独立・アイデンティティ(pp.144-148) 第6週 アフリカにおける紛争(概説とビデオ)(p.152) 第7週 アフリカの貧困と豊かさ 第8週 アフリカの食:飢餓・農業・食文化から考える(pp.151-152) 第9週 テスト、グループ分け <レポート提出> 第10週 アフリカとジェンダー 第11週 アフリカの音楽と祭(ビデオ含) 第12週 グループ発表準備 第13週 アフリカン日比谷フェスティバル(2016年7月9日) 第14-15週 グループ発表 優秀レポート発表、テスト返却、質疑応答、授業評価 上記は目安ですが、状況や必要に応じて重点・日程など変わる可能性もあります。		
教科書・参考書等/Textbooks	教材を生協にて販売しますので、各自入手してください。 参考書:吉田昌夫(2002)「熱帯アフリカ」『地域研究』古今書院pp.142-156		
成績評価の方法/Evaluation	授業参加・記述等平常点(20%)、課題(20%)、レポート(20%)、テスト(20%)、発表 (20%)を基に総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業でアフリカの様々な面について学んだことをきっかけに、更に自発的な学習を心がけて 下さい。 なお、教員の健康上の理由のため、当日の喫煙・人工香料(香水など)をお控えください。 また、授業中の換気を行いますため、ご了解ください。7月の授業は若干暑い可能性がある ため、軽装にて受講してください。 また、例年込み合いますが、諸条件の合う教室がないため、教室変更が難しいこともご了解 ください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	東南アジア論実習/Seminar in Southeast Asian Studies		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部), マリー・ケオマノータム(国際学部国際社会学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160021
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6, 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	社会学の立場から国内外で東南アジアにかんする 이슈を取り上げ、企業や地域社会の実態調査を行ないます。		
授業の達成目標/Course Goals	東南アジアに関する 이슈をテーマとして、社会調査の実践的な能力を養成する。テーマの選択、仮説の構築、分析枠組の設定など、適切な調査設計を行う力を身につけることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、国際学部の教育目標(A)「国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。」および(B)「ディプロマポリシー異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「東南アジア論」または「タイ都市社会論」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「東南アジア論」または「タイ都市社会論」を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	受講者の関心にもとづいて調査テーマを設定する。受講者はまず文献や資料を収集し、テーマに関する基本的な情報を把握します。その上で、具体的な調査計画を立案し、実際に国内外での調査を行います。これらのまとめとしてレポートを作成します。なお現地調査の日程等の詳細については受講者と相談して決定します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. ガイダンス 2. 東南アジア社会に関する文献・資料の収集(1)基礎的文献 3. 東南アジア社会に関する文献・資料の講読(1)基礎的文献 4. 東南アジア社会に関する文献・資料の収集(2)専門的文献 5. 東南アジア社会に関する文献・資料の講読(2)専門的文献 6. 調査計画の立案(1)調査テーマの検討 7. 調査計画の立案(2)調査対象と地域的设计 8. 調査計画の立案(3)調査項目的设计 9. 現地調査の実施 10. 収集した資料・データの整理(1)一次資料 11. 収集した資料・データの整理(2)聞き取り調査 12. 資料・データの分析(1)一次資料 13. 資料・データの分析(2)聞き取り調査 14. レポートの作成(1) 15. レポートの作成(2)		
教科書・参考書等/Textbooks	授業の際に指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	レポート(50%)と出席状況・授業態度(50%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	本実習は、受講者の主体的な参加を前提とします。受講者が自ら文献を読み、調査計画を立案し、実際に調査を行い、得られたデータを分析し、レポートを作成することによって成立します。したがって最後までやりとおす意欲のある学生の受講を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際経済論演習/Seminar in Theory of International Economy		
担当教員(所属)/Instructor	磯谷 玲(国際学部国際社会学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160250
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	磯谷 玲(isoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	磯谷 玲(オフィスアワーは原則として月曜ないし火曜の11:30-12:30を予定しています。)		
授業の内容/Course Description	国際経済や企業問題について文献・資料を読み、報告・討論する。		
授業の達成目標/Course Goals	専門的な文献・資料の読解力・分析力を養う。またこのことを基礎として、論理的な考察力・表現力を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	専門的な知識を習得し、論理的に思考する能力を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	国際経済論を履修していること		
関連科目/Related Courses	国際経済論を履修していること		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1) 学術図書・雑誌、経済誌等の論文・記事等を輪読する。 2) 報告担当者を決める。報告担当者以外は、あらかじめ3点(以上)の論点・疑問点を用意して議論に参加する。 3) 具体的な文献・資料等については履修者と協議の上、決定する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1) 導入 2) 履修者によるプレゼンテーション(グループ)(準備編) 3) 履修者によるプレゼンテーション(グループ)(1) 4) 履修者によるプレゼンテーション(グループ)(2) 5) 履修者によるプレゼンテーション(グループ)(3) 6) 履修者によるプレゼンテーション(グループ)(4) 7) 中間まとめ 8) 履修者によるプレゼンテーション(準備編) 9) 履修者によるプレゼンテーション(1)(履修者a, b) 10) 履修者によるプレゼンテーション(2)(履修者c, d) 11) 履修者によるプレゼンテーション(3)(履修者e, f) 12) 履修者によるプレゼンテーション(4)(履修者g, h) 13) 履修者によるプレゼンテーション(5)(履修者i, j) 14) 履修者によるプレゼンテーション(6)(履修者k, l) 15) まとめ なお、具体的内容および回数については最終的な履修者数の確定を待って決定する。詳細については初回に説明・討議を行うので必ず出席すること。どうしても参加不可能な場合は、あらかじめメール等で連絡することが望ましい。		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし。		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の参加態度(50%)、最終レポート(50%)により行う。		
学習上の助言/Learning Advice	国際経済の諸事象に関する関心を持ち、新聞・雑誌記事等を日常的に読むことが望ましい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	表象文化論演習/Seminar in Representations and Criticism		
担当教員(所属)/Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560038
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容/Course Description	表象文化論を学ぶにあたり、この学問分野で何を行うのかという基本的な事柄から、実際に研究するために実につけておきたい方法論までを演習形式で学びます。また、受講者には、それぞれに関心あるテーマを設定した上で学んだ内容を生かし発表してもらいます。		
授業の達成目標/Course Goals	多角的な視点から文化を読み解く力を身に着けることを目指します。 また演習を通じて自らテーマを設定し、考察し、発表する経験を積みます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部の教育目標(C):「専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる」、「(専門的な)内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	表象文化論をすでに受講した者であること。 予備知識は必要ありませんが、毎回必ず課題文献を読んでくること、 また文化、文学、芸術等に対して明確な興味を持っていることを求めます。		
関連科目/Related Courses	表象文化論をすでに受講した者であること。 予備知識は必要ありませんが、毎回必ず課題文献を読んでくること、 また文化、文学、芸術等に対して明確な興味を持っていることを求めます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	前半は表象文化論に関連する文献を読み、受講者が持ち回りで発表を行います。 発表者以外の受講者も毎回必ず文献を読み、議論に参加すること。 後半は自分の関心のあるテーマについて受講者が研究発表を行い、受講者の人数や必要に応じて講義を行います。 授業形式や進め方は人数によって変更する可能性があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンス授業計画について 第2週「表象文化論」について講読表象文化論概説 第3週「表象文化論」について講読美術 第4週「表象文化論」について講読メディア 第5週「表象文化論」について講読現代美術 第6週『フーコー入門』講読第一・二章人間学の罫・狂気の逆説 第7週『フーコー入門』講読第三・四章知の考古学の方法・真理への意思 第8週『フーコー入門』講読第五・六章生を与える権力・近代国家と司牧者権力 第9週『フーコー入門』講読第七章・終わりに実存の美学・真理のゲーム 第10週『フーコー入門』講読第五章生を与える権力 第11週『フーコー入門』講読第六章近代国家と司牧者権力 第12週文学理論構造主義 第13週文学理論精神分析、神話 第14週研究発表 第15週研究発表、まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	中山元著『フーコー入門』(ちくま新書、2005年)を使用します。各自用意してきてください。 このほかの資料は随時配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	発表50%、レポート50%		
学習上の助言/Learning Advice	発表の担当者以外の出席者も、授業で扱う論文を必ず読んでくること。 自分の興味を育て、発展させることで思考力や表現力は伸びていきます。 関心のある本をたくさん読み、臆せず自分の考えを述べてほしいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	国際英語コミュニケーション演習／International English Communication Seminar		
担当教員(所属)／Instructor	湯澤 伸夫(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K560054
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	国際社会でコミュニケーションをするのに必要な知識として、World Englishesという概念から世界で用いられている主要な英語を概観する。		
授業の達成目標／Course Goals	世界で用いられている主要な英語の特徴を発表と討論を通して理解することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	世界で使用されている主要な英語の特徴に関する知識と理解を深め、英語を分析するための客観的な思考と学術的内容を発表・討論する技能を養い、コミュニケーションとして世界で使用されている主要な英語の研究に対する関心を高めること。		
前提とする知識／Prerequisites	英語で書かれた文献を理解できる英語力。		
関連科目／Related Courses	英語で書かれた文献を理解できる英語力。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業計画に基づき、英語による発表と討論を中心に学習を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 Introduction 第2週 England 第3週 Scotland 第4週 Wales 第5週 The USA 第6週 Ireland 第7週 Canada 第8週 Australia 第9週 New Zealand 第10週 Japan 第11週 China 第12週 South Africa 第13週 India 第14週 Singapore 第15週 Summary		
教科書・参考書等／Textbooks	配布資料等。		
成績評価の方法／Evaluation	授業中の発表・討論とレポートの結果を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	予習復習は毎回しっかり行うこと。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国文化論演習/Seminar in Chinese Cultural Studies		
担当教員(所属)/Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560260
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松金 公正(木曜日1~2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容/Course Description	本授業は「中国文化論」の既習者を対象としたもので、受講者各自の調査・研究に基づき、中国文化、及びその背景となっている中国社会についてより深く知見を得ることを目的とします。このため、受講者には自己の興味に則してテーマを設定してもらい、発表してもらいます。また、中国本土にとどまらず、台湾・香港・シンガポールなど、華人社会やその文化も対象とします。		
授業の達成目標/Course Goals	卒業論文の作成に向けて自己の関心を絞り込む。また、関心のあるテーマに関する先行研究の収集・整理・批判に関する方法論を獲得する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	世界における文化のありようを歴史的・地理的観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有するためにいかなる学習が必要かという点を指導する。		
前提とする知識/Prerequisites	中国文化論を必ず履修しておくこと。また、アジア近現代思想論を並履修してください。なお、中国語講読などを履修の上、中国語を解することが望ましい。		
関連科目/Related Courses	中国文化論を必ず履修しておくこと。また、アジア近現代思想論を並履修してください。なお、中国語講読などを履修の上、中国語を解することが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	演習形式。 基本的文献やリサーチの方法について説明を加えた後、各人のテーマにあわせて報告をしてもらう。報告は2~3回程度。一回目は論文紹介、二回目、三回目はテーマにあわせて複数の文献を精読し、報告をしてもらう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回発表テーマの設定、参考図書を紹介、日程の調整・決定など 第3回文献調査を行うにあたっての注意事項の説明 第4回リサーチに関する説明 第5回受講者による論文紹介と質疑応答、コメント(報告者①②) 第6回受講者による論文紹介と質疑応答、コメント(報告者③④) 第7回受講者による論文紹介と質疑応答、コメント(報告者⑤⑥) 第8回受講者による2次報告と質疑応答、コメント(報告者①②) 第9回受講者による2次報告と質疑応答、コメント(報告者③④) 第10回受講者による2次報告と質疑応答、コメント(報告者⑤⑥) 第11回中間評価、討論 第12回受講者による最終報告と質疑応答、コメント(報告者①②) 第13回受講者による最終報告と質疑応答、コメント(報告者③④) 第14回受講者による最終報告と質疑応答、コメント(報告者⑤⑥) 第15回まとめの討論 第16回期末テスト *授業日程は受講者数の多寡によって、報告時間や回数を調整するので上記のとおり進行するとは限らない。上記はあくまで受講者が6名を想定したものであり、受講者が4~9名程度であればこのまま進行する。		
教科書・参考書等/Textbooks	それぞれのテーマごとに紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業参加への態度(30%)、発表内容(60%)、期末テスト/レポート(10%)などにより総合的に評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	まずは、どのような文化でも中国・アジアのいずれかの局面に興味を見出し、情報収集を行うことが大切です。資料の収集や発表の方法についての質問は歓迎しますので、積極的に授業に参加してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際人権法/International Human Rights Law		
担当教員(所属)/Instructor	今井 直(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130270
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	今井 直(imai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	今井 直(前期:木曜5-6, 後期:水曜昼休み(研究室、授業期間中)、またはメールによる予約)		
授業の内容/Course Description	「国際人権法」とは、国連などによってつくられた人権に関する条約や宣言、そしてそれを実施するための国際的および国内的な制度や手続の体系をいいます。本授業では、まず国際人権法の概観をした上で、その発展の歴史をたどります。第2次世界大戦後人権問題が国際関心事項として確立してゆく過程として、国連で世界人権宣言や国際人権規約といった中核的人権文書が生まれる背景・経緯とその特徴を述べます。次に、国際人権法が国内的にどのように実施されているかを、日本の裁判例を中心に説明します。日本に対する国際人権法の影響と日本社会の受けとめ方がわかると思います。そして、国連を中心に国際人権保障システムの展開と機能を検討してゆきます。これは国際人権法の最も独創的な産物ですので、人権条約によるシステムと国連憲章によるシステムに分けて詳しく述べます。また、そこで人権NGOが大きな役割を果たしていることを確認します。最後に、ヨーロッパ、米州、アフリカに存在する地域的人権保障システムの重要性を学び、それがアジアにおける課題を考えます。		
授業の達成目標/Course Goals	今日人権問題は、一国の国内問題にはとどまらず、国際関係の重要なテーマとなっており、その際国際人権法をふまえて議論することは不可欠です。日本も国際人権法の影響を否応なく受けており、人権条約の締結、国連機関による人権問題の指摘や勧告、国内裁判所による人権条約の適用などを通じて、日本社会における人権のあり方を変える契機となっています。本授業では、実践的に活用される国際人権法の基本的な知識と理論の全体像を学びます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際人権法の役割と基礎知識・理論を学ぶことにより、世界や日本社会における人権の現状やあり方を考える上での基準を習得することができます。また、人権問題に関わるリーガル・マインドを養うことができます。 国際社会学科のディプロマポリシーとの関連で言えば、(A)知識・理解:国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける、(B)思考・判断:異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる、と特に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses	「国際法」や基盤教育の「国際化と人権」を前もって受講しておく、より理解が深まると思われます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業は講義形式により行います。教科書に加えてレジュメや資料も配布しますが、自らノートをとることは身につけるべき大事な技術ですので、与えられるものだけに頼らないよう心がけてください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 ガイダンス 第2週 国際人権法の日本へのインパクト 第3週 国際人権法前史と国連憲章 第4週 世界人権宣言と国際人権規約 第5週 国際人権法と国内裁判(1) 第6週 国際人権法と国内裁判(2) 第7週 国際人権法と国内裁判(3) 第8週 人権の国際的実施の概観 第9週 人権条約の報告制度 第10週 人権条約の個人通報制度 第11週 国連人権理事会の活動(1) 第12章 国連人権理事会の活動(2) 第13週 人権の地域的保障(1) 第14週 人権の地域的保障(2) 第15週 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:阿部浩己、今井直、藤本俊明『テキストブック国際人権法[第3版]』(日本評論社、2009年) 参考書:条約集、六法(出版社限定せず)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験80%、レポートまたは小テスト20%		
学習上の助言/Learning Advice	さまざまな人権問題が日常的に生起しており、新聞、雑誌、テレビなどのメディアを通じて日頃から関心を払ってもらいたいと思います。そうした問題を考える上で、国際人権法という客観的な国際基準は非常に有用性があるはずです。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	情報ネットワーク実習/Practicum in Introduction to Computer Networks		
担当教員(所属)/Instructor	倪 永茂(国際学部国際社会学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160170
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8, 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	倪 永茂(メールアドレス niy@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	倪 永茂(水曜日12:30~13:30)		
授業の内容/Course Description	ネットワークの構築や整備を実際に経験しながら、必要最小限のネットワーク技術をマスターしていきます。また、デジカメやスキャナー等のハードウェアを操縦し、Webページに必要なマルチメディアコンテンツを制作し、情報発信します。その上、各自が興味のあるテーマを選び、情報ネットワークについて深く考察してもらいます。		
授業の達成目標/Course Goals	実習を通してネットワーク技術及びその活用能力を身に付けることを目的とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	情報化社会の諸問題に特化した知識の学習とその理解、IT情報技術・技能を身につけることの教育目標に関連します。		
前提とする知識/Prerequisites	「情報ネットワーク概論」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「情報処理」、「情報ネットワーク概論」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	冒頭で実習の内容について説明した上、各自が教材等に従って実習に取り込みます。最後に実習のまとめと問題点を皆で議論します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション 第2回 ネットワークの整備 第3回 ネットワーク機器の扱い 第4回 ネットワークの管理 第5回 Linuxの学習 第6回 様々なサーバ 第7回 WWWサーバの構築および管理 第8回 メールサーバの構築および管理 第9回 ファイルサーバの構築および管理 第10回 メディアサーバの構築および管理 第11回 DNSサーバの構築および管理 第12回 課題の選定 第13回 資料の収集および検討 第14回 課題の制作 第15回 課題の発表		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席状況、レポート内容、質疑応答への参加等を総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	手を動かし、自ら探求する好奇心の持ち主が望まれます。ネットワーク技術をマスターすれば、就職等にも有利でしょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	グローバル・ガバナンス論演習/Seminar on Global Governance		
担当教員(所属)/Instructor	栗原 俊輔(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160360
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	本授業ではグローバル・ガバナンスをより深く理解するために、貿易や社会的権利等、国境を越えて、または国という枠組みを超えて起きている様々な事象を紹介し、これからの国際社会のあり方を考えるための議論を重ねていく。また、問題分析等具体的な手法を学ぶことにより、自らの興味・問題意識を系統的に整理し発表する技術を習得する。		
授業の達成目標/Course Goals	様々な問題分析手法および発表手法を通じ、自らグローバル・ガバナンスの問題を発見・分析し、発表・説明することができるようになることを目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	経済的側面、国際政治、社会ネットワークや市民社会等を含む横断的テーマであるグローバル・ガバナンスは比較的新しい言葉であり、特に国際社会におけるNGOや市民社会などの役割も注目されている。本授業では、地球規模の問題の解決策を模索、議論し、グローバル・ガバナンスのあり方を検証する。		
前提とする知識/Prerequisites	大学2年程度の英語力。		
関連科目/Related Courses	大学2年程度の英語力。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本授業は1) 講義、2) ワークショップ、そして3) 発表と討論の3部構成である。前半は講義を中心にグローバル・ガバナンスに関する事例を紹介。後半は学生による発表を行う。また、本授業では前半の講義期間にグローバル・ガバナンスをより具体的に理解および体験するために有効な手法である、Do No Harm、Rights-Based Approach (RBA)およびTraining of Trainers for Facilitators等のワークショップを実施予定。これらの手法を習得した上で授業後半の発表に備える。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. オリエンテーション 2. 経済開発と社会正義① 3. 経済開発と社会正義② 4. ワークショップ①: Training of Trainers for Facilitators 5. 国際政治と国際協力の役割 6. 国際政治と平和構築 7. ワークショップ②: Do No Harm 8. グローバル・ガバナンスにおける国連機関と各国政府 9. グローバル・ガバナンスにおけるNGOと市民社会 10. ワークショップ③: Rights Based Approach (RBA) 11. 発表説明と準備 12. 発表① 13. 発表② 14. 発表③ 15. まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	随時配布		
成績評価の方法/Evaluation	発表(40%)、ワークショップ各回のレポート(30%)、最終レポート(30%)		
学習上の助言/Learning Advice	授業はできる限り無理のない程度で英語で進める計画。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	芸術文化論／Art and Culture		
担当教員(所属)／Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K520036
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容／Course Description	18世紀から20世紀初頭のロシアにおける芸術・表象を題材として、フランスとの文化交流、権力と芸術をテーマに授業を行います。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 芸術の社会的役割の多様性に理解を深めること。 2. 文化交流とその結果生じた文化の重層性について理解を深めること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国際学部の教育目標(A)「世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、[...] 地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する」に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	特に予備知識はいりません。		
関連科目／Related Courses	表象文化論		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	テーマに応じて視聴覚教材を用い、講義を中心に進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス授業の進め方 第2週ロシア概説ロシア史 第3週ロシア概説ロシア文化史、宗教(DVD鑑賞) 第4週近代化と文化ピョートル一世の改革 第5週近代化と文化ペテルブルグ建都とバロック芸術 第6週近代化と文化衣装と身体 第7週儀礼と宮廷踊りと王権 第8週儀礼と宮廷DVD鑑賞 第9週儀礼と宮廷バロックからロココへ庭園の美学 第10週感覚と文化料理の世界 第11週近代の文学ロマン主義プーシキン他 第12週近代の文学リアリズムドストエフスキ他 第13週近代の文学象徴主義とアール・ヌーボー 第14週感覚と文化DVD鑑賞 第15週感覚と文化香水文化19世紀から革命へ		
教科書・参考書等／Textbooks	授業で資料を提示します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度30%試験70%		
学習上の助言／Learning Advice	授業をきっかけとして、関連する本や資料を読んでみるなどの自分なりの取り組みを行うとよいと思います。		
キーワード／Keywords	芸術、文化、ヨーロッパ、フランス、ロシア		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	アメリカ文化論演習／Seminar in American Culture		
担当教員(所属)／Instructor	米山 正文(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K560291
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	米国の文化・歴史についての専門書を輪読し、知識と分析力を身につける。その後、各自の興味関心に応じたテーマについて発表し議論する。		
授業の達成目標／Course Goals	米国の文化・歴史について主体的に学び、かつ自分なりの問題意識に基づいて調査・分析結果発表し、文章化する能力を身につける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国際学部ディプロマ・ポリシー(C)講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる、に対応する。		
前提とする知識／Prerequisites	アメリカ文化論を受講済みであること。		
関連科目／Related Courses	アメリカ文化論を受講済みであること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書の各章につき、担当者が要約と補足、コメントを発表する。その発表をもとに質疑応答を行う。教科書が終了したら、担当者の自由テーマによる発表に切り替える。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. 授業内容の説明など 2. 受講生の自己紹介、担当者の割り当て、発表用ハンドアウトの例の配布など 3. アメリカという「物語」、独立宣言と合衆国憲法 4. 「アメリカのアダム」、「連邦」対「州権」 5. 「開拓」か「侵略」か、競争原理と公共の利益 6. 正統と異端、恐慌から冷戦へ 7. 分裂する超大国、世界一豊かな国の「他者」 8. 過去との対話、ベトナム後遺症を超えて 9. 統合化と多元化の行方、21世紀のアメリカへの視角 10. 受講生の自由発表 11. 受講生の自由発表 12. 受講生の自由発表 13. 受講生の自由発表 14. 受講生の自由発表 15. 受講生の自由発表、期末レポートについての説明		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：鈴木透『実験国家アメリカの履歴書』（慶應大学出版会）を予定。生協で購入可能にしておく。ほかに参考文献がある場合は授業中に告知する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加・取組み(50%)、学期末レポート(50%)で評価。		
学習上の助言／Learning Advice	主体的に取り組むことが求められる。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語教育方法論演習/Seminar in Methodologies of Teaching Japanese as a Foreign/Second Language		
担当教員(所属)/Instructor	鎌田 美千子(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160163
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鎌田 美千子(kamada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鎌田 美千子(前期:水曜11:30-12:30, 後期:木曜11:30-12:30(研究室))		
授業の内容/Course Description	主に言語習得に関する諸理論をふまえて日本語教育の方法を考察する。教材の検討、専門書や文献の講読、討議等を通して、具体的な事例を知り、日本語教育に関する専門的知識を深める。子どもへの日本語教育や国内外の日本語教育の現状と課題についても取り上げる。		
授業の達成目標/Course Goals	国内外で日本語教育を展開していく上での問題とその解決について客観的かつ分析的に自ら考えることができるようになることを目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	第二言語・外国語としての日本語という視点から自らの言語文化・言語行動を捉えなおすとともに、言語の問題を主体的かつ具体的に考える思考力・判断力を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	日本語教育に関する基礎的な知識を有していること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各回の担当を決め、担当学生の報告の後、内容に対する質疑応答および全体討議を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 授業ガイダンス 第2回 国内外の日本語教育の実際 1 (国内) 第3回 国内外の日本語教育の実際 2 (海外) 第4回 第二言語習得研究と言語教育 第5回 言語理解に関する文献講読 1 (読解に関する認知モデル) 第6回 言語理解に関する文献講読 2 (読解ストラテジー、読解における予測と背景知識) 第7回 言語理解に関する文献講読 3 (話し言葉の特徴と聴解、聴解における予測と背景知識) 第8回 教材の作成と検討 1 (構想から試案まで) 第9回 言語産出に関する文献講読 1 (発話のプロセス、コミュニケーション能力、タスク) 第10回 言語産出に関する文献講読 2 (作文ストラテジー、レベル別作文指導) 第11回 年少者日本語教育とリライト教材 第12回 教室活動・教材における学習の分析(読解、作文、聴解、会話) 第13回 教材の作成と検討 2 (発表①) 第14回 教材の作成と検討 3 (発表②) 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	岡崎眸・岡崎敏雄『日本語教育における学習の分析とデザインー言語習得過程の視点から見た日本語教育ー』凡人社 その他は、授業の中で指示する。		
成績評価の方法/Evaluation	発表内容・討議への参加(60%)、課題・レポート(40%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	主体的に取り組むとともに、授業以外においても様々な日本語教材に触れてほしい。		
キーワード/Keywords	国際学部		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	国際関係論 / International Relations		
担当教員(所属) / Instructor	清水 奈名子(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K100010
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 金 / Fri 1, 金 / Fri 2	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	清水 奈名子(nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	清水 奈名子(水曜日 12:30-14:20(研究室にて) (上記以外の時間に面談を希望する場合には、必ず事前にメールで予約をとってください))		
授業の内容 / Course Description	大学における学び方を身につけながら、国際関係の理論及び諸問題の考察を通して、現実の国際関係を正確かつ体系的に把握する力を養うことを目標としている。歴史、理論、そして現象を関連付けながら、学問的な分析と現実の世界との関係性を考察し、多角的に国際関係を捉える視点を養うことが最終的なねらいである。		
授業の達成目標 / Course Goals	・国際関係論についての基本的な知識を身につけ、主要な理論を理解する。 ・歴史、理論、そして現象を関連付けながら、多角的かつ体系的に国際関係を考察する。 ・国際関係に関わる報道や情報を、積極的に収集し、自発的な学習態度を身に付ける。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	学部基礎科目として、国際関係論に関わる分野横断的な知識の獲得を重視している。また、国際関係の歴史とともに変化してきた理論を現象と関連付けながら、相対的な視点を持ちつつ実証的且つ体系的に国際関係を考察する力を養う。さらにコメントシートや中間レポートの執筆などを通して、国際関係について自発的に学習する態度を養う。		
前提とする知識 / Prerequisites	高校までの日本史、世界史、政治経済の知識を備えていることが望ましい。		
関連科目 / Related Courses	高校までの日本史、世界史、政治経済の知識を備えていることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	講義を中心に進めるが、履修者には毎回コメントシートを提出してもらい、それらに回答する時間を多くとることで双方向的な授業を目指している。適宜、ビデオなどの視聴覚教材なども利用する予定である。授業内容に関連するレジュメと資料を毎回配布するので、それらを活用した予習、復習のための自習時間を各自確保すること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	以下のスケジュールは予定です。必要に応じて変更される可能性があります。 第1回導入講義：国際関係論とはどのような学問か 第2回国際関係の基本構造①：主権国家体制の成立 第3回国際関係の基本構造②：常態としての武力紛争 第4回国際関係の理論化①：戦争と平和をめぐる思想史 第5回国際関係の理論化②国家間関係と理論 第6回複雑化した平和：冷戦下の世界と核抑止体制 第7回視聴覚教材鑑賞：NHKスペシャル「恐怖の中の平和」 第8回複雑化した平和②：南北問題の発見 第9回複雑化した平和③：「構造的暴力」論と多様化する安全保障論 第10回「新しい戦争」論①：冷戦終焉後の世界 第11回「新しい戦争」論②：「テロとの戦争」と大国問題 第12回グローバル化①：国際機構とレジーム 第13回グローバル化②：主体と論点の多様化と理論の変化 第14回グローバル化③：主権国家体制の行く末 第15回国際関係論の射程：3.11以降の国際関係論とは		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は特に指定しないが、参考文献等は適宜授業のなかで紹介する。毎回レジュメを用いて授業を行う予定である。 <参考文献> 遠藤誠治他編『シリーズ日本の安全保障1安全保障とは何か』岩波書店2014年 遠藤誠治他編『シリーズ日本の安全保障3立憲的ダイナミズム』岩波書店2014年 吉川元他編『グローバル・ガヴァナンス論』法律文化社2014年 山影進『国際関係論講義』東京大学出版会2012年 岡野八代『フェミニズムの政治学ケアの倫理をグローバル社会へ』みすず書房2012年 毛利聡子『NGOから見る国際関係』法律文化社2011年		
成績評価の方法 / Evaluation	授業についてのコメントシート(20%)、中間レポート(20%)及び期末試験(60%)を総合して評価する。		
学習上の助言 / Learning Advice	社会、文化を問わず両学科1年生の必修科目となっているのは、みなさんが「国際」という概念はいかなる意味をもつのか、具体的にはどのような事柄を指しているのかについて、自ら考える力を身につけるためです。授業で紹介する参考文献などを利用して、体系的な理解に努めてください。また、講義を自分の学問的関心を掘り下げていくきっかけとして、主体的に活用してください。		
キーワード / Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	情報処理/Information Processing		
担当教員(所属)/Instructor	倪 永茂(国際学部国際社会学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K119053
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	倪 永茂(メールアドレス niy@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	倪 永茂(水曜日12:30~13:30)		
授業の内容/Course Description	卒業論文を書くために必要な、情報検索、文書作成、データ処理、図表作成等を中心に勉強します。また、PowerPointによるプレゼンテーションについても勉強します。		
授業の達成目標/Course Goals	「情報処理基礎」で学んだ上に、これからの勉学・研究さらに社会における活動において役立つ電子的情報の処理法・活用法について学びます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	コンピュータを利用した情報の収集、収集した情報の分析・加工など、国際学を学ぶ上で必要とされる情報処理能力を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	「情報処理基礎」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「情報処理基礎」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	解説の後、学生各自が課題に取り組む形で進めます。わからないことは、担当教員やTAにどんどん質問してください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 Web検索, 様々な検索テクニック 第2回 文献検索と文献データベース 第3回 アカデミック・ライティング 第4回 卒業論文作成 第5回 脚注, 目次, 索引, 参考文献等の作成 第6回 表計算ソフトの効率性を追求する 第7回 表計算ソフトによるデータ分析 第8回 表計算ソフトによるデータ集計(ピボットテーブル) 第9回 アンケート調査およびその処理 第10回 プレゼンテーションソフトの使い方 第11回 図表, 図形, アニメ, 動画の作成 第12回 グループ発表(1回目) 第13回 グループ発表(2回目) 第14回 グループ発表(3回目) 第15回 グループ発表(4回目)		
教科書・参考書等/Textbooks	授業に必要な資料すべてをeランニングシステムMoodle上に配付します。		
成績評価の方法/Evaluation	提出課題(70%)とプレゼンテーション(30%)との得点の合計値で成績評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	積極的な自学自習の態度が大切です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	異文化間コミュニケーション/Cross-Cultural Communication		
担当教員(所属)/Instructor	中村 真(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K100053
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 真(028-649-5209 nakamura_AT_cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 真(研究室:火(17:40-18:00),水(17:40-18:00),E-mail等での予約)		
授業の内容/Course Description	グローバル化した社会における相互理解に寄与するためには、多様な文化の様相と、異なる文化間の交流について学ばなければなりません。この授業では、個別の文化の特徴やその差異よりも、このような交流の基本単位である一人の人間に焦点を当て、文化を異にする人と人とのコミュニケーションの背景にある心理と行動の基本的な特徴について取り上げます。		
授業の達成目標/Course Goals	異文化間コミュニケーションの様々な問題の背景に関する、基礎的な知識を習得する。異文化間コミュニケーションにおける問題を、自分自身で分析する基礎力を養う。問題に対する基本的な対応策について、自分自身で検討できる力を習得する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	・異文化間コミュニケーションの様々な問題の背景に関する、基礎的な知識を習得する。 ・異文化間コミュニケーションにおける問題を、自分自身で分析する基礎力を養う。 ・問題に対する、比較考察的で、相対的な視点をもった対応策について、自分自身で検討できる力を習得する。		
前提とする知識/Prerequisites	受講の前提として、特別な知識や経験は必要ありません。		
関連科目/Related Courses	受講の前提として、特別な知識や経験は必要ありません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	取り上げるテーマに関連した資料を適宜配布します。講義が中心になりますが、それぞれのテーマに関連したビデオを見て分析したり、グループで議論をしたりすることもあります。受講生によるスピーチを2回計画しています。1回目は留学生に、2回目は全受講生から希望者を募って、自分自身の異文化体験を具体的に紹介してもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1週 オリエンテーション:コミュニケーションと文化の定義 2週 コミュニケーションの定義とモデル 3週 文化のさまざまな定義 4週 文化とコミュニケーション 5週 スピーチI(留学生) 6週 言語とコミュニケーション 7週 非言語的コミュニケーション 8週 認知と文化差 9週 偏見の心理学的背景 10週 偏見に対する教育 11週 スピーチII(オープン) 12週 異文化適応 13週 日本人のコミュニケーション:自己主張性 14週 日本人の行動:義理・人情と甘え 15週 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 特にありません。 参考書: はじめて学ぶ異文化コミュニケーション:多文化共生と平和構築に向けて 石井・他(著) 有斐閣選書 教材: 特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(授業中の提出物など)30%, 期末試験70%とし、全体で60%以上の評価を得られたものを合格とします。		
学習上の助言/Learning Advice	すなおに話を聞き、批判的な視点を持って分析し、自分で主体的に考えることが重要です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語会話Ⅰ/Thai Conversation Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部国際社会学科), マリー・ケオマノータム(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K115212
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	タイ語会話の基本表現を学びます。さまざまな場面の会話の教材を使い、基礎的な会話の訓練をします。		
授業の達成目標/Course Goals	学習した単語、文法、表現などを積極的に運用し、タイ語による聞き取りやコミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、国際学部の教育目標(C)「講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれら进行分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「タイ語基礎Ⅰ~Ⅳ」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「タイ語基礎Ⅰ~Ⅳ」を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	タイ語の聞き取りの練習をしながら、これまで習得した基本表現及び語彙を積極的に用いた会話の練習を繰り返します。毎時間の予習・復習が重要です。毎回の授業のはじめには、前回学習した内容の小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. ガイダンス 2. ここは文学部ですか? 3. タイ語の勉強はどう? 4. あだ名をつけて 5. どうやって注文するの? PART 1 6. どうやって注文するの? PART 2 7. あの人イケメンね PART 1 8. あの人イケメンね PART 2 9. キックって何? PART 1 10. キックって何? PART 2 11. 明日は約束があります PART 1 12. 明日は約束があります PART 2 13. どんな内容の映画? PART 1 14. どんな内容の映画? PART 2 15. 総括		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 宇戸清治『たのしいタイ語』大学書林(2,310円)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(60%)と出席状況・授業態度・小テスト(40%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語で会話するためには、学習した単語や表現の暗記が不可欠です。日頃から積極的に、暗記と反復練習に励んでください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	外国語特別講義Ⅲ (ロシア語) ／Special Lecture on Foreign Language III (Russian)		
担当教員(所属)／Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K130692
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容／Course Description	ロシア語を初めて学ぶ人を対象にロシア語の文法、表現を学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	ロシア語の表記と発音練習、簡単な表現の練習を通じてロシア語に慣れることを目指します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	語学は多くの学問分野において基礎となる教養です。専門課程でより深く学ぶための語学力・表現力を磨きます。		
前提とする知識／Prerequisites	英語その他のヨーロッパ諸語の学習経験があることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	外国語特別講義Ⅳ (ロシア語)		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	主に教科書と音声教材を使って進めます。授業の中で読み書き、聞き取りなどの練習を多く取り入れます。折にふれてロシアに関連する視聴覚教材を鑑賞します。毎回小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週文字と発音1 第3週文字と発音2 第4週文字と発音3 第5週まとめ1 第6週名詞の性・形容詞の性 第7週名詞の複数形・所有代名詞 第8週人称代名詞・動詞の変化 第9週名詞の格変化 第10週数の表現 第11週命令形 第12週まとめⅡ 第13・14週移動の表現 第15週前期のまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：中島由美・黒田龍之介・柳町裕子著『ロシア語へのパスポート』（白水社） 参考書：辞書については初回の授業で紹介します。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験70パーセント、小テスト30パーセント		
学習上の助言／Learning Advice	語学の勉強をするうえでその言葉や地域への関心は大きな力になります。ロシア語を通じてロシアの様々な文化、社会への関心を広げてください。		
キーワード／Keywords	ロシア語、基礎		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中東地域研究演習/Seminar on Middle East Studies		
担当教員(所属)/Instructor	松尾 昌樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160030
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	中東地域を例にとり、地域研究の具体的事例を先行研究から学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	諸理論を具体的な事例に適用する思考方法、および個人的関心を普遍の問題に還元する思考方法の修得。また、先行研究の活用方法の修得。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。 異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。 自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重することができる。		
前提とする知識/Prerequisites	地域研究概説、中東地域研究の二つの科目を受講していること。		
関連科目/Related Courses	地域研究概説、中東地域研究の二つの科目を受講していること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	受講者の中の担当者が指定された先行研究を読み、それに関する発表を行い、受講者はそれに基づいてディスカッションを行う(なお、以下の「授業計画」に示されている先行研究は例であり、変更されることがある。)議論を軸に、研究への理解を深める。なお、合宿を行う場合がある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週中東地域の政治経済論(1):中東諸国の政治体制(1) 第3週中東地域の政治経済論(2):中東諸国の政治体制(3) 第4週中東地域の政治経済論(3):レンティア国家仮説 第5週中東地域の政治経済論に関するディスカッション 第6週中東地域と国際的人口移動(1):現状分析 第7週中東地域と国際的人口移動(2):Bonacichの議論 第8週中東地域と国際的人口移動(3):Hecherの議論 第9週中東地域と国際的人口移動に関するディスカッション 第10週中東地域の宗教と文化(1):中村の議論 第11週中東地域の宗教と文化(2):小杉の議論 第12週中東地域の宗教と文化(3):大塚の議論 第13週中東地域の宗教と文化に関するディスカッション 第14週研究発表(1) 第15週研究発表(2)		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書:『湾岸産油国レンティア国家のゆくえ』(講談社)		
成績評価の方法/Evaluation	授業中の発表内容(50%)、議論への貢献(50%)		
学習上の助言/Learning Advice	最初から上手な発表やディスカッションができる人はいない。積極的な姿勢と論理的な思考が求められている。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	対人コミュニケーション論実験/Experiment in Interpersonal Communication		
担当教員(所属)/Instructor	中村 真(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K560062
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6, 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 真(028-649-5209 nakamura_AT_cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 真(研究室:火(17:40-18:00),水(17:40-18:00),E-mail等での予約)		
授業の内容/Course Description	この授業では、対人コミュニケーションに関係した実験や調査などの基本的な方法・実験計画について学びます。 装置の制約などにより受講者数を制限することもあるので、受講希望者は必ず初回に出席すること。初回に都合がつかない場合は、必ず前もって連絡してください。		
授業の達成目標/Course Goals	対人コミュニケーションに関係した研究を自分自身で計画し、実際に実施して分析を行いまとめることができ、さらにすでに行われた研究の評価を適切に行うことができるようになることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	・実験計画の基礎を修得すること。 ・対人コミュニケーションに関係した研究を自分自身で計画し、実際に実施して分析を行いまとめるための技能を習得する。 ・すでに行われた研究の評価を適切に行うための方法を習得する。		
前提とする知識/Prerequisites	この科目を受講するまでに、対人コミュニケーション論と、教養の心理学関係科目を受講しておいてください。また、統計学を受講しておくことが望ましい。		
関連科目/Related Courses	この科目を受講するまでに、対人コミュニケーション論と、教養の心理学関係科目を受講しておいてください。また、統計学を受講しておくことが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	実験計画法については、演習の形で授業を進めます。調査と実験については目的を明確化する段階から始め、具体的な研究手続きを計画し、実際に調査、実験を行います。得られたデータを表計算ソフトなどを用いて分析し、レポートとしてまとめる作業をします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 実験計画法:基本概念 第3週 実験計画法:計画の方略 第4週 実験計画法:統制 第5週 実験計画法:研究計画の評価と倫理 第6週 調査研究の方法 第7週 調査計画 第8週 調査結果の分析 第9週 調査研究のまとめ 第10週 実験研究の方法 第12週 実験計画 第13週 実験結果の分析 第14週 実験研究のまとめ 第15週 全体のまとめと反省点の確認		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:初回に指示します。 参考書:授業中に紹介します。 教材:特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(授業参加状況)40%,調査レポート30%,実験レポート30%とし、全体で60%以上の評価を得られたものを合格とします(ただし、レポートは必ず2つとも提出しなければなりません)。なお、欠席1回について評価から15%マイナスします。		
学習上の助言/Learning Advice	調査や実験を計画したり、実施したりするときには、なぜこうするのか、どうしてこうしてはだめなのかなど、自分していることの意味を常に考えながら取り組んでください。授業で扱うテーマは限られていますが、広くさまざまな研究に一般化できる考え方を身につけることができると思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語講読A / German Reading A		
担当教員(所属) / Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K111101
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 金 / Fri 7, 金 / Fri 8	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容 / Course Description	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語の読解力を向上させることが目的です。テキストはドイツ語圏諸国の現代の社会、文化、生活、スポーツ等、ドイツ語圏諸国に関する一般的知識が修得できるものを使用します。		
授業の達成目標 / Course Goals	初級から中級へのレベルアップを目的とし、ある程度まとまりのあるドイツ語の文章を読みこなす力を養成することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	ドイツ語圏諸国の文化・社会に関する一層広く深い知識の修得を第一に、テキスト等を選択します。		
前提とする知識 / Prerequisites	基盤教育の「ドイツ語基礎Ⅰ、Ⅱ」、「ドイツ語基礎Ⅲ、Ⅳ」を履修済みであること、さらに「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。ドイツ語の基礎的能力が必要です。		
関連科目 / Related Courses	基盤教育の「ドイツ語基礎Ⅰ、Ⅱ」、「ドイツ語基礎Ⅲ、Ⅳ」を履修済みであること、さらに「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。ドイツ語の基礎的能力が必要です。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	ドイツ語の基本文法を一通り修得し終えた履修者が対象です。簡単なドイツ語文を文法事項等を理解しつつ読解することで、ドイツ語能力の向上を目指します。履修者それぞれが授業に積極的に参加することを期待します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	外国語の修得には「読む」「書く」「話す」「聴く」ことの総合的訓練が必要です。文法や慣用句等を解説しつつ、ドイツ語読解能力の向上に努めます。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：初回に提示します。宇都宮大学生協で販売するかプリントを用意します。 参考書：特に必要ありません。ただし、独和辞典は必携。 補助教材：必要があれば指示します。		
成績評価の方法 / Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験⑤0点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言 / Learning Advice	履修者の皆さんの積極的学修を期待します。「継続は力なり!」です。予習や辞書を引くことを面倒とは思わない人の履修を期待します。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語講読A / Spanish Reading A		
担当教員(所属) / Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K117100
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 金 / Fri 7, 金 / Fri 8	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日10:00~12:00 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容 / Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読めるように練習します。		
授業の達成目標 / Course Goals	初級文法を復習しながら、辞書を使えばある程度文章が読めるようになることを目指します。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	本演習はディプロマポリシーC)「技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。」に関連します。		
前提とする知識 / Prerequisites	スペイン語応用I、スペイン語応用II、スペイン語応用III、スペイン語応用IV。		
関連科目 / Related Courses	スペイン語応用I、スペイン語応用II、スペイン語応用III、スペイン語応用IV。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読めるように練習します。幅広い簡単なメモから、長い文章があまりない招待状とレストランのメニュー、独特な単語での就職活動とアパート探し、手書きで書かれた友達からの手紙、新聞の記事まであつかう予定です。スペインとラテンアメリカ文化に触れ、スペイン語圏に親しんでもらうために毎回の授業でアニメ、諺、詩を紹介し、直訳より、意味を重視した訳が出来るようになることを目指します。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週授業の説明 第2週テーマ1：日常生活、スペインと日本、ラテンアメリカ漫画、 第3週世界のスペイン語 第4週テーマ2：家族、サンティアゴの道、ラテンアメリカ漫画 第5週フラメンコ 第6週テーマ3：農村と都会、スペインの食生活、ラテンアメリカ漫画 第7週闘牛 第8週中間まとめ 第9週テーマ4：教育、「スペインは違う」から観光大国へ、ラテンアメリカ漫画 第10週スペインのサッカー 第11週テーマ5：仕事、アントニオ・ガウディ、詩 第12週スペイン語の映画 第13週テーマ6：レジャー、タンゴ、ラテンアメリカ漫画 第14週ラテンアメリカと日本 第15週まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	Bando Shoji-Mori Naoka-Daniel Quintero García編著「El mundo hispano a través de diecisiete temas」(トピックスで学ぶスペイン語世界)白水社。定価2,400円(消費税別)。宇都宮大学生協で販売。授業の進行状況によって作成したプリントを使用する。パワーポイントのスライド、フラッシュカードゲームを利用。和西・西和辞書		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言 / Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	外国語特別講義Ⅰ(ポルトガル語) / Special Lecture on Foreign Language I (Portuguese)		
担当教員(所属) / Instructor	若林 秀樹(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K130695
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 金 / Fri 7, 金 / Fri 8	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	若林 秀樹(hwaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	若林 秀樹(前期金曜日5~6)		
授業の内容 / Course Description	・授業で配布される教材やパワーポイントによる文型演習・解説を通してポルトガル語の基礎を習得。 ・語学学習を通して、日本で生活する外国人、特に子どもたちの教育について考察。 ・音楽や映像も効果的に使用して「楽しくてためになる」授業を目指す。		
授業の達成目標 / Course Goals	①ポルトガル(ブラジル)語の基本を習得し、簡単な文章の読み書きができる。 ②異文化への興味と理解を深め、多文化共生に関わる意識を養う。 ③日本に在住する外国人や外国人児童生徒に関わる諸問題について考察する。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	(A)日本に居住する外国人の数が200万人を超え様々な分野において問題が発生していることを踏まえ、その実態と解決の糸口を言語学習によって考察する力を養う。 (B)第2外国語の習得をイメージとしてではなく言語道具として捉え、大切なことは言語を通して人と関わり合うことであることを認識させる。 (C)新しい言語を学習する上でハードルとなる文法面においては、学習者の共通知識である英文法と対比させながら解説し、難易度の低い授業を目指す。		
前提とする知識 / Prerequisites	ブラジル・ポルトガル語・ブラジル音楽、日本で生活する外国人の子どもたちの教育、学校現場における多文化共生、のどれかに興味を持っていることが望ましい。		
関連科目 / Related Courses	外国語特別講義Ⅱ(後期金7~8)		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①主に、授業者が用意するワークシートにしたがって進めます。 ②文法や文の構成などは、英語の基礎と比較しながら分かりやすく説明します。 ③映像や音楽、時には会話的な内容も取り入れます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 授業の説明 第2週 文字と発音 第3週 名詞(男性名詞・女性名詞) 第4週 SER動詞の用法 第5週 ESTAR動詞の用法 第6週 回数や時間の表し方 第7週 規則動詞の用法 第8週 中間試験 第9週 前置詞の用法 第10週 形容詞の用法 第11週 代名詞の用法 第12週 不規則動詞の用法① 第13週 不規則動詞の用法② 第14週 進行形の表し方 第15週 既習事項のまとめ演習 *以上の内容は進度の都合で変更になる場合があります。		
教科書・参考書等 / Textbooks	*基本的に教員配布のワークシートを使用します。辞書は授業で説明を聞いてから購入してください。		
成績評価の方法 / Evaluation	*出席45点(内訳:1回3点×15回) *試験50点(内訳:中間テスト50点、定期テスト100点、計150点満点の3分の1) *その他5点(内訳:課題や態度等)		
学習上の助言 / Learning Advice	*初心者対象を前提とした、丁寧な授業を心がけます。 *修了時には「中1程度の英文をポルトガル語訳」で言うことができます。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域分析基礎論/Introduction to Regional Analysis		
担当教員(所属)/Instructor	松村 啓子(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130560
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 9, 金/Fri 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松村 啓子(kwmatu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松村 啓子(水曜日16:10-17:00, 金曜日11:00-12:00)		
授業の内容/Course Description	具体的な都市や地域の変遷と今日のありようを題材に、「どのような地域(国)か。」「どんな変化が起こったか。それは何故か。」「他の地域(国)とどのような関係にあるか。」といった問いを自ら考えるための基礎を養います。		
授業の達成目標/Course Goals	受講者各自が地図上で自然地理および人文地理的事象の分布(広がり)を読み取り、統計その他の資料と照らし合わせ、なぜそれらがそのように分布するのか、要因を考察できるようになることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校社会科であつかう国土や地域に関する系統地理的考察の視点と方法、および生徒が理解可能な地理情報を提示するための技能を習得します。		
前提とする知識/Prerequisites	中学校社会科地理的分野の内容を理解していること。		
関連科目/Related Courses	中学校社会科地理的分野の内容を理解していること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業内容に関するプリントを配布し、パワーポイントを使いながら講義を進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週: 系統地理学の諸分野 第2週: 地理学における位置の概念 第3週: 日本の気候特性 第4週: 地形条件からみた集落立地 第5週: 地域という枠組み 第6週: 等質地域のとらえ方(1) 文化的差異 第7週: 等質地域のとらえ方(2) 土地利用の変化 第8週: 機能地域のとらえ方(1) 通勤圏 第9週: 機能地域のとらえ方(2) 中心地機能 第10週: 地域区分の実際 第11週: 都市の関係位置とその変化(1) 産業 第12週: 都市の関係位置とその変化(2) 交通の変革 第13週: 都市内部の社会的構成(1) インナーシティ 第14週: 都市内部の社会的構成(2) 郊外 第15週: 人口減少社会における地域再生		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しません。参考書は、授業時に適宜紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(80%)と授業中に行う課題(20%)によって評価します。なお、課題を最低1回提出していることが期末試験の受験資格となります。		
学習上の助言/Learning Advice	パワーポイントで提示した地図・写真、過去の期末試験問題を教育学部Moodleで公開しますので、自習に役立ててください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地方自治論/Local Autonomy		
担当教員(所属)/Instructor	中村 祐司(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130351
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 1, 月/Mon 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 祐司(yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5181)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 祐司(月) 12:00-12:50)		
授業の内容/Course Description	身近な地域社会の諸課題を取り上げ、かつ担当教員のこれまでの地方自治をめぐる実践活動を紹介しつつ、住民、企業、行政、NPOといった諸アクター間の連携・協働のあり方を探る。とくに授業の前半では教員自らが作成した地方自治関連の報告書や論文等を用いる。		
授業の達成目標/Course Goals	地方分権や市町村合併をめぐる論議、予算や財源・権限の行使、さらに意思決定過程等について考察する。受講生自身が地方自治に関するテーマを設定し、そのテーマに関するレポートの作成に取り組む。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。		
前提とする知識/Prerequisites	国内外を問わず、地方自治体が提供するサービスに何らかの関心を持つこと。		
関連科目/Related Courses	行政学、余暇政策論など		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	地域社会における身近な素材や、担当教員自身がこれまでに経験した地方自治活動の経験にもとづき、とくに1993年以降の日本における地方分権の流れを把握する。国会における地方分権推進決議、地方分権推進委員会の諸勧告、地方分権一括法の成立と施行、その後の地方分権改革推進会議の中間報告や最終報告、さらには近年の市町村合併をめぐる国の誘導政策と地方の対応、地方主権時代の到来など、国全体の動態も包括的に把握する。グループ討議を積極的に実施する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週地方分権とは 第2週地方分権の事例 第3週地方分権の流れ 第4週これからの地方分権の課題(地域主権へ) 第5週市町村合併の現況 第6週市町村合併の流れ 第7週栃木県内市町村合併事情 第8週市町村合併をめぐる今後の課題(中間論述試験の実施) 第9週レポート作成にあたって 第10週市民・地方政府・中央政府(受講生によるレポート中間報告) 第11週地方行政活動の実際(受講生によるレポート中間報告) 第12週地方自治と政策 第13週自治体における文化行政 第14週自治体の国際政策(提出レポートをめぐる議論) 第15週市民活動の成熟とは(提出レポートをめぐる議論)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：中村祐司『政策を見抜く10のポイント』(成文堂) 教材等：適宜資料をパワーポイント等を通じて提示。Moodleを活用する。 参考書：中村祐司『スポーツと震災復興』(成文堂)		
成績評価の方法/Evaluation	中間に実施する試験(15%)と期末試験(定期試験)(15%)、レポート内容(55%)、講義やレポートをめぐるディスカッションの際の積極的発言と発言内容(15%)。秀は上記各評価において極めて優秀な結果(的を射た質問や意見の提示、卓越したレポート内容や論述内容)を出した受講生に与える。「書くという行為」を最重要視する。		
学習上の助言/Learning Advice	この講義の成果であるレポートをインターネット上に公開する。履修を検討するにあたって「宇都宮大学国際学部行政学(中村祐司)研究室」のホームページ http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/ を事前に参照してほしい(検索用語は「中分権型社会、行財政改革、住民参加、市民協働		
キーワード/Keywords	分権型社会、行財政改革、住民参加、市民協働		
備考/Notes	テキストの各章を事前に読み込んでおくことが大切である。		

授業科目名(英文名) /Course Title	英語学特殊講義B / Special Lecture on English Linguistics B		
担当教員(所属) / Instructor	谷 光生(教育学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K530460
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 月 /Mon 1, 月 / Mon 2	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	英語音韻論の基礎を学びます。受講者は1回の授業に対し、数時間の予習が必要となります。地味な努力が必要です。予習をするつもりのない人は受講しないで下さい。 <重要> 受講予定者は各自でアマゾン(インターネット上の書店)などから事前に教科書を購入しておいて下さい。(生協での一斉販売はありません。)		
授業の達成目標 / Course Goals	現代の英語音韻論の一端を理解し、英語運用能力の一助ともすること。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	英語教育における音声音韻面での指導に有益な知識が得られます。また音声音韻と文法の相互作用についても理解が深まります。		
前提とする知識 / Prerequisites	英語の入門的専門書(教科書)を読める程度の英語の知識。また音声学関係の授業で学んだ知識。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	教科書に従って、授業を進めますが、若干の補足的教材も用います。講義形式ですが、受講生を随時指名して、授業の理解度を口頭で確認します。期末テストを行わないかわりに、小テストを随時行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	以下は予定です。 第1回 Introduction 第2回 Speech sounds and their production 第3回 Towards a sound system for English 第4回 Some vowel systems in English 第5回 Phonological features I (the classification of English vowel phonemes) 第6回 Phonological features II (the consonant system) 第7回 Syllables I (the basics) 第8回 Syllables II (alternative conceptions) 第9回 Word stress 第10回 Phonetic representations 第11回 Phrases, sentences, and the phonology of connected speech 第12回 Representations and derivations 第13回 Generative phonology 第14回 Optimality theory 第15回 Course summary		
教科書・参考書等 / Textbooks	Heinz J. Giegerich (1992) English Phonology: An Introduction, Cambridge University Press. <重要> 受講予定者は各自でアマゾン(インターネット上の書店)などから事前に教科書を購入しておいて下さい。(生協での一斉販売はありません。)		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加や取り組み(70%)と数回の小テスト(30%)を総合評価。総合評価において、90%以上を秀, 80%以上90%未満を優, 70%以上80%未満を良, 60%以上70%未満を可, 60%未満を不可とします。		
学習上の助言 / Learning Advice	予習を必ず行うことが前提です。予習をするつもりのない人や無断で欠席・遅刻しがちな人は受講しないで下さい。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ヨーロッパの歴史と文化/History and Culture of Europe		
担当教員(所属)/Instructor	下田 淳(教育学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530077
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	下田 淳(shimoda@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	下田 淳(火曜日12~13時。)		
授業の内容/Course Description	教育学部歴史学特講Cを見よ。		
授業の達成目標/Course Goals	教育学部歴史学特講Cに同じ。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教育学部歴史学特講Cに同じ。		
前提とする知識/Prerequisites	教育学部歴史学特講Cに同じ。		
関連科目/Related Courses	教育学部歴史学特講Cに同じ。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教育学部歴史学特講Cに同じ。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	教育学部歴史学特講Dに同じ。		
教科書・参考書等/Textbooks	資料配布		
成績評価の方法/Evaluation	レポート		
学習上の助言/Learning Advice	私語厳禁。聴く事に専念、メモをとること。板書は極力しないので、ノート取りの練習をすること。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中東地域研究/Middle East Studies		
担当教員(所属)/Instructor	松尾 昌樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130041
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	中東地域に関する基本的知識を獲得する。また、中東地域を例に、地域研究の具体的な研究方法を理解する。とりわけ、湾岸産油国を中心に扱う。		
授業の達成目標/Course Goals	地域研究で用いられている代表的ないくつかの理論を学び、理論的考察・思考能力を養う。また、修得した理論や思考能力を用いて、対象を理解する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。 異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重することができる。		
前提とする知識/Prerequisites	「地域研究論」を履修済みであることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「地域研究論」を履修済みであることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業の最後にコメントシートを配布することがあるので、授業で理解できなかった点や質問を記入すること。次回の授業でそれらに返答する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週中東諸国の概要 第3週湾岸諸国の概要 第4週中東諸国、湾岸諸国の成り立ち 第5週レンティア国家仮説(1): 基本的枠組み 第6週レンティア国家仮説(2): 湾岸産油国の固有性 第7週王朝君主制(1): 基本的枠組み 第8週王朝君主制(2): 王位継承権と交渉 第9週国民統合 第10週イスラエル/パレスチナ問題 第11週「アラブの春」をめぐる議論 第12週湾岸産油国型エスノクラシー(1): 基本的枠組み 第13週湾岸産油国型エスノクラシー(2): 国際労働市場分析 第14週中東の将来 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	『湾岸産油国レンティア国家のゆくえ』(講談社)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(100%)を原則とする。場合によっては課題を成績の一部として考慮する。		
学習上の助言/Learning Advice	中東地域に関する概説を希望する学生は、こちらの科目よりも共通教育の「中東地域の社会と文化」を受講することを勧める。 なお、授業中に学生に意見を求めることがあるが、その場合は積極的に答えること。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語史/History of the Japanese Language		
担当教員(所属)/Instructor	高山 道代(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530503
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	音韻、単語の語彙的意味、文法などの日本語の諸側面に焦点をあて、古代語と現代語との対照をとおして変化の様相を探る。また、こうした日本語の歴史的变化を明らかにする方法についても学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	ことばの変化について考えるための基礎知識と学問的手法を学ぶことを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際文化学科の達成目標のうち、とくに「知識・理解」「思考・判断」の項目に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	「日本語論」(国際学部専門教育科目)を履修していること。		
関連科目/Related Courses	「日本語論」(国際学部専門教育科目)・「日本語の表記」(基盤教育教養科目)・「日本文学(古典)」(同)に関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書およびプリントを用い、授業を進める。講義が中心となるが、あわせて課題にとりくみ考えてもらうといった授業内活動もおこなう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1初回ガイダンス 2ことばは変化する 3ことばはなぜ変化するのか 4信頼できるテキストを求めて 5文献にあらわれた言語の性格(1) 6文献にあらわれた言語の性格(2) 7文献による言語の歴史(1) 8文献による言語の歴史(2) 9文献以前の言語の姿をさぐる 10言語の地域差と言語の歴史(1) 11言語の地域差と言語の歴史(2) 12方言による言語史と文献による言語史 13言語の体系性と言語の歴史 14社会のなかの言語と言語変化 15総括		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書 ・大木一夫著(2013)『ガイドブック日本語史』ひつじ書房(2200円+税) ・配布プリント		
成績評価の方法/Evaluation	各回の課題・小テスト(40%)、学期末試験(60%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	受講者の予習を前提とする。指定された範囲まで教科書を読み、与えられた課題に取り組んだうえで授業に臨むこと。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	Directed English Reading/Directed English Reading		
担当教員(所属)/Instructor	市川 裕見子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K110108
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	一定の学問的もしくは文学的な内容をもった英語の文章の読解を行います。		
授業の達成目標/Course Goals	高度な英語読解能力を身につけること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる」に該当します。		
前提とする知識/Prerequisites	英語についての基礎的な文法知識。 この授業は選択必修科目の「学術英語講読」以外にさらに高度な英語読解力を身につけたい学生のために、開講します。		
関連科目/Related Courses	英語についての基礎的な文法知識。 この授業は選択必修科目の「学術英語講読」以外にさらに高度な英語読解力を身につけたい学生のために、開講します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	第1回教官によるテキストについての紹介、解説。 第2回 テキスト講読 第15回		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	上記のようにして、順次テキストを読み進めていく。		
教科書・参考書等/Textbooks	初回に指定します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席・発表内容40%、期末試験成績60%		
学習上の助言/Learning Advice	あらかじめ渡されたテキストを、辞書や文法書をよく用いて、これ以上は理解できないところまで、よく読み込んで予習をしてください。授業で自分の誤読箇所に気づき、また曖昧だったところが明確になる。この実践の積み重ねによって、読解力を高めていきましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	近現代中国論/Contemporary China		
担当教員(所属)/Instructor	松村 史紀(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130025
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松村 史紀(f-matsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp 電話:028-649-5190)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松村 史紀(月曜日12:30~13:30)		
授業の内容/Course Description	現代中国は、経済大国であると同時に、一人当たりの所得を平均すれば、途上国とそれほど変わらない。また現代中国は、主権国家体系のなかで近代化をめざす通常の国家であるが、国内の一元支配体制は、欧米世界とはずいぶん違う。このいびつにも見える現代中国のすがたを理解するために、19世紀後半から現代までを通して、その歴史的展開を考えてみたい。		
授業の達成目標/Course Goals	中国がどのように「近代化・西洋化」していったのかを学習した上で、現代中国の国内外政治の流れを総体として理解することで、中国を構造的に分析できるようになることが目標である。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	アジアの中でも特に中国について、その政治・社会・歴史の個別分野の現象を、より深く学習しながら専門的な知識を身につけ、実証的かつ合理的な思考力を養成する。		
前提とする知識/Prerequisites	中国のことをほとんど知らない学生を前提にした授業です。		
関連科目/Related Courses	「地域研究論」、「国際政治論」、中国語		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、穴埋め式のレジюмеを配布して、板書・パワーポイントなどを利用して講義を進める。授業時間内に問題を出し、それをコメント・ペーパーあるいは小レポートとして提出してもらう。課題提出は期限を厳守する。予習は指定した参考書の該当箇所、復習は配布したレジюмеによって進めること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. イントロダクション:「20世紀中国」というアプローチ 2. 近代中国の夜明け(1):西洋の衝撃 3. 近代中国の夜明け(2):三つの未来像 4. 近代国家をめざして(1):未完の革命 5. 近代国家をめざして(2):蔣介石による国家統一 6. 大国中国への道:二つの世界大戦を経て 7. 現代中国の政治(1):政治体制のしくみ 8. 現代中国の政治(2):党国体制ができるまで 9. 現代中国の政治(3):社会主義の急進化 10. 現代中国の政治(4):脱社会主義への道 11. 現代中国の外交(1):冷戦のなかの中国 12. 現代中国の外交(2):革命外交の強硬化 13. 現代中国の外交(3):改革開放からグローバル大国へ 14. 応用(1) 東アジアのなかの中国外交 15. 応用(2) 陳情の中国政治		
教科書・参考書等/Textbooks	教材は、毎回配布するレジюмеであるが、以下を参考書として挙げておく。 山田辰雄『中国近代政治史』放送大学教育振興会、2007年/毛里和子『現代中国政治[第3版]』名古屋大学出版会、2012年/西村成雄『20世紀中国政治史研究』放送大学教育振興会、2011年/岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年/三船恵美『中国外交戦略』講談社、2016年		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(コメント・ペーパー、小レポートの内容等)30%、定期試験70%		
学習上の助言/Learning Advice	レジюмеと参考書を合わせて活用し、予習・復習をすることが望まれる。		
キーワード/Keywords	東洋史 東アジアの国際関係 日中関係 米中関係		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	グローバル・ガバナンス概論／The Theory of Global Governance		
担当教員(所属)／Instructor	栗原 俊輔(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K130701
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本授業は、グローバル・ガバナンス論の応用編として、世界の様々なグローバル化に関連する問題や視点を具体的に挙げながら、グローバル化とは何か、グローバル・ガバナンスとは何かを議論し、理解を深めていく。21世紀に入り注目を集め始めたグローバル化は、経済活動や社会ネットワーク等が国境を越えているが、同時に経済格差や貿易不均衡、先進国の消費のために途上国が生産工場化としていくなど「富の配分」は益々不均衡になっており、ガバナンスの観点からみる「富と機会の平等な配分」が地球規模で見ると必ずしもバランスが取れているとは言えない。これらをどう理解し、解決策を探るのかを、問題分析・組織分析ツールなどを導入し、自分自身で情報収集・分析しながら考えていく。		
授業の達成目標／Course Goals	グローバル・ガバナンスの定義と意味を理解し、またグローバル化による地球規模での様々な問題の理解と解決策を考え提示することを目指す。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業では、最終的に学生自らが考えるグローバル化とグローバル・ガバナンスのあり方を提示できるように、様々な事例の紹介および海外や日本の現場で活動しているNGOや援助機関の方々も招き、討論を実施する。		
前提とする知識／Prerequisites	国際協力、市民社会、グローバル・ガバナンスに興味を持っていること。		
関連科目／Related Courses	国際協力、市民社会、グローバル・ガバナンスに興味を持っていること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業では、講義と同時に学生からの積極的な参加を促すために、グループ発表を随時設ける。授業内で学んだことをより掘り下げるために、各学生はグループごとに発表を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. オリエンテーション 2. 経済開発と社会正義① 3. 経済開発と社会正義② 4. グループワーク①：問題を分析する 5. 発表① 6. 国際政治と平和構築① 7. 国際政治と平和構築② 8. グループワーク②：紛争を分析する 9. 発表② 10. 国際協力の現場から 11. グローバル・ガバナンスの関係者①：多国籍企業 12. グローバル・ガバナンスの関係者②：国連・NGOs・ソーシャルビジネス 13. グループワーク③：様々な組織を分析する 14. 発表③ 15. まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	随時配布		
成績評価の方法／Evaluation	授業の参加態度(20%)、発表(40%)、ワークショップ各回のレポート(40%)を総合的に評価		
学習上の助言／Learning Advice	英語の文献を多く使用する予定。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス文化論/Studies in French Culture		
担当教員(所属)/Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530198
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容/Course Description	この授業では、有機体としての政治体・社会体が、どのように終焉を迎え、どのように新たな生にシフトするのかを、特にフランス語圏の文化史に注目することで考察します。この哲学的・文化的・歴史的視点に立つことで、私たちの「常識」がいかなる条件の上に成立しているのか、その条件を取り払うと何が起こりうるのかを、仮説的に考える訓練を行ないます。		
授業の達成目標/Course Goals	フランス語圏の文化とその地理的・歴史的背景について基礎知識を身につけ、フランス語文化圏の価値観とそれに基づく思考法を学びながら、自文化に関する考察に応用できるようにします。毎回の提出物を通して、ポイント・論点を把握し、適切に表現する力を養うとともに、異文化圏の価値観について、自文化への応用を通して理解する態度を養います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部の教育目標(B)「異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行なうことができる」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	フランス語を履修していなくても受講可能です。できれば、西洋現代思想(講義)も受講してください。		
関連科目/Related Courses	西洋現代思想、ヨーロッパ思想構造論。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	ある時期のフランスの歴史的背景を押さえたうえで、現在にまで伝わる当時の文化に注目するという方法を取ります。毎回、資料を配布しながら講義を進めるとともに、必要に応じてビデオ・DVDを鑑賞し、コメントを書いてもらいます。授業内容を補足するプリントを毎回配布しますので、各自で読んでおいてください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. オリエンテーションー「哲学的＝歴史的」な思考法とは何か? 2. ミシェル・フーコーと監視社会 3. ピエール・ノラの「史学史」と「非公式の歴史」 4. パプロフの「茶色の朝」とファシズム 5. 「寛容」の精神とユマニスム、カルヴァン、モンテーニュ 6. 支配の論理、ラ・ボエシの「自発的隷従論」 7. 民衆知、野生の思考、ブリュゲル、ラブレール、レヴィ＝ストロース 8. 大災厄とブッサン、ボッカッチョ、デフォー 9. リスボン大地震とヴォルテール、ルソー 10. バブル経済とモンテスキューの金融批判 11. 人権宣言のオモテとウラーカフェ、「女権宣言」、植民地主義 12. 死刑制度の歴史ーベッカリーア、ヴォルテール、ユゴー、カミュ 13. 反ユダヤ主義の系譜ーヴィシー政府とナチス協力 14. 「移民問題」の系譜ー差別と郊外、アルジェリア戦争 15. 全講義の総括		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：プリントを配布します。 参考書：田村毅、塩川徹也他編『フランス文化事典』丸善出版、2012年(田口は18世紀を中心に寄稿)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(80%)、受講態度(20%)		
学習上の助言/Learning Advice	受講者は、関心を持った事柄について自分の力で調べ、理解を深めるように努力してください。		
キーワード/Keywords	フランス文化、文化史、思想史、文学史。カルチュラル・スタディーズ。		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	時事英語/Current English		
担当教員(所属)/Instructor	湯澤 伸夫(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K110328
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	時事問題を扱った英語を理解し活用できるようにするために、リーディングとリスニングの訓練を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	時事問題を扱った英語に関する情報収集能力と発信能力を高めること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部のディプロマ・ポリシー (C)「講義、講演、また専門研究書等の精読および読書において、その要点を正確に理解し、把握し、全体的にまとめることができる」に対応する。		
前提とする知識/Prerequisites	大学1年次の英語科目を修了した程度の英語力		
関連科目/Related Courses	大学1年次の英語科目を修了した程度の英語力		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書を利用しながらリーディングとリスニングの訓練を行う。授業は英語で実施する。授業で扱っている内容に関する自主的プレゼンテーションを歓迎する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1.オリエンテーション, Unit 1 Education and Gender 2.Unit 2 Global Warming 3.Unit 3 Drinking Water 4.Unit 4 Poverty and Hunger 5.Unit 5 Fighting Disease 6.Unit 6 Terrorism 7.Unit 7 Internment 8.Unit 8 Atomic Weapons 9.Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity 10.Unit 10 Landmines 11.Unit 11 Refugees 12.Unit 12 Nelson Mandela 13.Unit 13 Aung San Suu Kyi 14.Unit 14 The Red Cross and Red Crescent Movement 15.Unit 15 Review		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: Keiso Tatsukawa 他. 2014. Global Issues Towards Peace (DVDで学ぶ共存社会—グローバル時代を考える) Nan' un-do. 各自生協で購入してください。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への積極的取組, 課題, 音読, 期末試験を総合的に評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	毎回の予習復習を欠かさず, 授業に積極的に参加してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	時事英語/Current English		
担当教員(所属)/Instructor	出羽 尚(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K110330
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	出羽 尚(izuha@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	出羽 尚(月曜日14:30-16:00)		
授業の内容/Course Description	時事を扱った新聞やニュースを英語で理解し活用できるようにするための、リーディングとリスニングの訓練を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	・英語の新聞を辞書を使って読める。 ・英語のニュースの大意を把握できる。 ・新聞とニュースの概要を英語で説明できる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部のディプロマ・ポリシーの(C)「講義、講演、また専門研究書等の精読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる」に対応する。		
前提とする知識/Prerequisites	大学1年次の英語科目を修了した程度の英語リーディング、リスニング能力		
関連科目/Related Courses	International Communication Seminar, International Career Seminar		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	音読を通じて、リーディングとリスニングの能力を向上させる訓練を行う。あわせて、その訓練の成果をディスカッション、スピーキングを通じて使う練習をする。こうした練習の成果を披露するプレゼンテーションの機会を2度設ける。また、上記の活動の基礎的な準備となる課題(新聞の書き取りとニュースの音読)を毎回課す。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 イントロダクション 第2回 リーディング・リスニング演習① 第3回 リーディング・リスニング演習② 第4回 リーディング・リスニング演習③ 第5回 リーディング・リスニング演習④ 第6回 リーディング・リスニング演習⑤ 第7回 リーディング・リスニング演習⑥ 第8回 プレゼンテーション① 第9回 リーディング・リスニング演習⑦ 第10回 リーディング・リスニング演習⑧ 第11回 リーディング・リスニング演習⑨ 第12回 リーディング・リスニング演習⑩ 第13回 リーディング・リスニング演習⑪ 第14回 リーディング・リスニング演習⑫ 第15回 プレゼンテーション② 第16回 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しない。その時々々のニュースや新聞記事を利用し、準備が必要なものは授業時に前もって提示する。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験40%、毎回の課題25%、プレゼンテーション25%、授業時の活動等10%の割合で算出し評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	リーディングもリスニングも、語学習得の基本は音読です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地区計画/District Planning		
担当教員(所属)/Instructor	三橋 伸夫(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130505
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	前半は三橋教員が、また後半は長田教員が行う。日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	1. 法定地区計画および自治体まちづくり条例にもとづく地区計画など、地区レベルの計画に必要な基礎的な概念と手法として下記を修得する。 1) まちづくりの概念と地区計画との係わり 2) まちづくり条例とまちづくり規範 3) コミュニティと住民参加 2. 具体的な事例を通して、地区計画の内容と整備手法を理解する。 また、あわせて地域の計画、設計に係る実務者としての技術者倫理観を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	建築学コースの教育目標との対応:(6) 建設工学コースの教育目標との対応:E		
前提とする知識/Prerequisites	都市計画を前期で受講していることが望ましい。 建築学コースにあつては、建築計画学Ⅱを履修していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	都市計画/建築計画学Ⅱ		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業は必要に応じて資料やパワーポイントなどのAV教材を使用し、受講生の理解を促す。前半は主に資料に基づいて講義を行う。毎回、最後に講義内容について小レポートを課す。後半は、教科書の解説と宇都宮市での事例の解説を行い、課題に関するレポートを課す。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	■三橋教員担当 1. 地区計画とは 2. 地区計画の諸タイプ 3. まちづくり条例と地区計画 4. まちづくり規範 5. コミュニティと地区計画 6. 住民参加による地区計画 7. 震災復興としての地区計画 8. まとめと中間試験 ■長田教員担当 9. 身体尺度 10. 市街地開発事業の位置づけ概要 11. 土地区画整理事業 12. 市街地再開発事業 13. 法定地区計画 14. 市街地開発事業と交通 15. 景観計画		
教科書・参考書等/Textbooks	「新・都市計画概論」加藤晃竹内伝史編 共立出版株式会社 必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	前半は試験(40%)に小レポートの内容(10%)を加味して評価する。後半は課題に対するレポート(50%)で評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	地区計画は制度として一律の固定化されたものではなく、自治体や地区住民の取組により、また、地区が置かれたさまざまな問題に応じて多様であり、変化しつつある。都市や地区をめぐる問題や新たな動向に関心をもつよう心がけてほしい。 なお、本講義は、行政や企業における住宅地開発・都市開発・地域開発などの実務に関わりが強い。		
キーワード/Keywords	計画/地区/まちづくり/条例/コミュニティ		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	民法/Civil Law		
担当教員(所属)/Instructor	杉田 明子(その他)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130378
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	杉田 明子(授業時間後に、当該教室または非常勤講師室において)		
授業の内容/Course Description	民法は日常生活に直結する、非常に身近な法律である。民法の基礎知識を学びながら、日常生活とどのように関わるのか、これらの知識を用いて日々の生活において直面する問題にどのように対応したらいいのか、を考える。		
授業の達成目標/Course Goals	民法の基本原則や基礎知識の習得を主な目的とするが、単に条文の内容や知識を学ぶだけでなく、民法の学習を通じて法的なものの考え方も習得する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	A) 知識・理解: 国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。 (B) 思考・判断: 異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	民法の基礎知識につき、レジュメに従って講義する。また、演習問題(事例)にも取り組む。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 民法について 第2週 意思表示(契約はどのように成立するか) 第3週 代理 第4週 契約総論 第5週 契約各論 1 - 売買契約 第6週 契約各論 2 - 賃貸借契約 第7週 契約各論 3 - 消費貸借契約(消滅時効・保証契約など) 第8週 契約各論 4 - 雇用契約 第9週 契約各論 5 - 雇用契約 2 第10週 不法行為 第11週 物に対する権利(所有権・担保権など) 第12週 婚姻・離婚 第13週 親子関係 第14週 相続 第15週 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	六法は必ず持参してください。参考書等は、初回講義時に紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	学年末のレポート結果を評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	皆さんは、これまで法律を学ぶ機会はありませんでしたが、交通事故を起こしてしまった場合どうしたらいいのか、アパートから引っ越しをする際に敷金を返してくれないときはどうしたらいいのか、など日常生活で生じる様々な問題の解決には、民法の知識が不可欠です。また、民法を含む様々な法律にかかわる問題は、毎日のように新聞記事やテレビのニュースなどで取り上げられています。興味関心を持ってこれらの記事やニュースなどに目を通すようにしてください。講義の際は、民法の条文を参照しますので、六法は必ず持参してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ミクロ経済学/Microeconomics		
担当教員(所属)/Instructor	加藤 弘二(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130092
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	ミクロ経済学の基本概念である、市場、消費者行動、企業行動についての理解を深める。		
授業の達成目標/Course Goals	ミクロ経済学の基礎を修得し、経済学の考え方、センスを身につける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	社会科学の基礎として、経済システムを理解する科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	初歩的な微分の知識		
関連科目/Related Courses	マクロ経済学、応用経済学、農業経済学、環境・資源経済学		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書に沿って講義を行うとともに、理解度を確認するための問題演習を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1) 経済学とは 2) 需要、供給と市場 3) 消費者の行動と需要曲線1: 効用最大化、個別需要曲線 4) 消費者の行動と需要曲線2: 市場需要曲線、価格弾力性、所得弾力性 5) 消費者理論 6) 企業の行動と供給曲線1: 生産関数、費用関数 7) 企業の行動と供給曲線2: 平均費用、限界費用、供給曲線 8) 中間テスト 9) 競争市場と市場均衡1: 競争市場、市場均衡、均衡の安定性 10) 競争市場と市場均衡2: 余剰分析、長期の市場均衡 11) 市場均衡の応用 12) 独占市場 13) 寡占市場 14) 情報の経済学、不確実性の経済学 15) 環境の経済学		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書 赤木博文『コンパクト ミクロ経済学』新世社 数学が得意な人、意欲ある人には、以下のテキストを推薦する。 参考書 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社		
成績評価の方法/Evaluation	中間テスト33%、期末テスト67%		
学習上の助言/Learning Advice	経済学は独特の視点、思考をします。ひとつの考え方として、修得してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際機構論/International Organizations		
担当教員(所属)/Instructor	清水 奈名子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K160320
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	清水 奈名子(nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	清水 奈名子(水曜日 12:30-14:20(研究室にて) (上記以外の時間に面談を希望する場合には、必ず事前にメールで予約をとってください))		
授業の内容/Course Description	なぜ、いかなる目的で人類は国際機構を創設したのか、という基本的問題意識のもとに、歴史的・思想的観点を取り入れながら、過去から現在にいたる「国際機構現象」を学問的に理解する。		
授業の達成目標/Course Goals	・国際機構論についての基本的な知識を身につけ、主要な理論を理解する。 ・歴史的、政治的、法的な観点を組み合わせながら、国際機構の歴史と現象を考察する。 ・専門書を読み、その内容について批判的に考察し、考察内容を正確な日本語で表現する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際機構の歴史、構造、制度、機能、理論に関する基本的な知識を身に付け、それらを使って国際機構現象を実証的かつ合理的に考察する力を養う。さらに同分野の専門書を読み、その内容について批判的に考察し、考察内容を正確な日本語で表現する能力を養成する。		
前提とする知識/Prerequisites	関連科目である「国際法」および「国際政治論」を履修していることがのぞましい。		
関連科目/Related Courses	関連科目である「国際法」および「国際政治論」を履修していることがのぞましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業計画に基づいて講義を中心に進める。履修者には毎回コメントシートを提出してもらい、それらに回答する時間を多くとることで双方向的な授業を目指している。授業で扱う教科書の範囲の予習・復習を前提とした講義を行うので、各自で毎週自習時間を確保すること。また学習内容の定着を促すために、学期中に2回のグループ討論を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	以下のスケジュールは予定です。必要に応じて変更する可能性があります。 第1回導入講義：国際機構論とはどのような学問か 第2回国際機構小史①戦争が国際機構を生む：ヨーロッパ協定とハーグ平和会議 第3回国際機構小史②革命が国際機構を生む：国際行政連合とフランス革命 第4回国際機構小史③第一次世界大戦と国際連盟の創設 第5回国際連合①成立から冷戦期まで 第6回国際連合②冷戦終焉後の錯綜 第7回国連改革①国連改革論の系譜 第8回国連改革②冷戦後の世界と国連安全保障体制 第9回視聴覚教材鑑賞とグループ討論：国際連合にいたる国際機構の歴史 第10回地域的国際機構①EUの歴史と制度 第11回地域的国際機構②EUの現状と超国家性の逆説 第12回地域的国際機構③北欧共同体と欧州審議会 第13回国際機構創設の動因：「共通利益」再考 第14回構造・機能・意思決定 第15回グループ討論と全体発表：学期のまとめと総括		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：最上敏樹『国際機構論第2版』東京大学出版会2006年(3,200円+税) 参考書：篠原初枝『国際連盟世界平和への夢と挫折』中公新書2010年 明石康『国際連合軌跡と展望』岩波新書2006年 最上敏樹『国連とアメリカ』岩波新書2005年 清水奈名子『国連安全保障体制と文民の保護多主体間主義による規範的秩序の模索』日本経済評論社2011年 庄司克宏編『国際機構』岩波書店2006年 遠藤乾『統合の終焉—EUの実像と論理』岩波書店2013年 庄司克宏編『新EU法基礎編』岩波書店2013年 庄司克宏編『新EU法政策篇』岩波書店2014年 田中則夫他編『ベーシック条約集2016』東信堂2015年 参考文献等は適宜授業のなかで紹介する。毎回レジュメを用いて授業を行う。		
成績評価の方法/Evaluation	授業についてのコメントシート(20%)、中間レポート(20%)及び期末試験(60%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	教科書を熟読して、体系的な理解に努めてください。また、講義を自分の学問的関心を掘り下げていくきっかけとして、主体的に活用してください。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	言語学/Linguistics		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 一隆(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K520010
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	言語学とは言語とコミュニケーションの本質を科学的に解明する研究分野のことです。本授業では、言語の構造と機能に注目して、言語学の基礎を学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	本授業の到達目標は次の2点です。 (1) 英語と日本語を主な対象として、言語学とは何かを理解する。 (2) 実践的な外国語を学習するための理論的基盤を与えて外国語学習の一助とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学科基礎科目として国際文化学科の選択必修科目に位置づけられ、言語とコミュニケーションに関する科目群の基盤となっています。この科目は、言語の視点から文化領域の基礎知識を与え、経験科学の思考法を養い、人間の営みにとって重要な言語に興味を持たせることをめざしています。また、配布資料と口頭説明・板書を主とした伝統的な講義の聴講能力も養います。		
前提とする知識/Prerequisites	高校までに学んだ文法用語の基本的知識は必要ですが、現代の言語学についての予備知識は必要としません。		
関連科目/Related Courses	高校までに学んだ文法用語の基本的知識は必要ですが、現代の言語学についての予備知識は必要としません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記の授業計画に即して授業用の資料(ハンドアウト)を毎回配って講義します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	基本的に次の順序で授業を進めていきます。 1 オリエンテーション 2 言語学の3つの主な目標 ・ 言語知識とは何か ・ 言語知識はどのように獲得されるか ・ 言語知識はどのように使用されるか 3 言語獲得と説明原理としての普遍文法 4 言語研究の科学的な方法仮説と検証 5 言語の構造的性質: 5~11 6 音声と意味 7 形態論(語構造の研究) 8 統語論(文構造の研究) 9 音韻論と音声学 10 意味論 11 言語内変異と言語変化 12 言語の機能的性質: 12~15 13 語用論と社会言語学 14 認知言語学 15 言語と脳まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用せず、毎回授業用の資料を配布します。主な参考書は以下のとおりです。 1. Akmajian et al. (2001) Linguistics: An Introduction to Language and Communication. (The MIT Press) 2. McGregor (2009) Linguistics: An Introduction. Continuum International Publishing Group. 3. 大津由紀雄他(2002)『言語研究入門: 生成文法を学ぶ人のために』(研究社) 4. 大津由紀雄編著(2009)『はじめて学ぶ言語学: ことばの不思議をさぐる⑰章』(ミネルヴァ書房) 5. その他		
成績評価の方法/Evaluation	授業への積極的取り組み(30%)、3回の演習課題(70%)を総合評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業は、受講者の皆さんを言語とコミュニケーションの研究領域へと導くことを意図して開講されています。身近な存在であることばの不思議を実感してみましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語文章表現/Thai Composition		
担当教員(所属)/Instructor	泉田 スジダ(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K115301
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	泉田 スジダ(電話: 090-4050-7929 e-mail: sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	泉田 スジダ(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容/Course Description	中級レベルの文法と単語を用い、絵本を題材として日タイ両国の文化的背景の違いにも留意しながら、タイ語の文章を作成します。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語の作文を行うことにより、中級レベルの文法と単語力を定着させるとともに、タイ語の文章表現の基礎的な力を身につけます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、国際学部の外国語科目の教育目標「世界の各地域とその文化を現地の言語でより深く理解するための基礎学力を養成する」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「タイ語入門Ⅰ、Ⅱ」および「タイ語応用Ⅰ、Ⅱ」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「タイ語入門Ⅰ、Ⅱ」および「タイ語応用Ⅰ、Ⅱ」を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	①学生がそれぞれ絵本を選びます。②直訳ではなく、読んで理解した上でタイ語の文章に訳します。③クラスでタイ文が適切かをディスカッションします。④訳したタイ文を絵本に書き換えて、仕上げます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 授業の目的の説明、議論 2. 絵本の選択 3. 絵本の特徴の翻訳し方 4. タイの絵本 5. PCでの辞書の使い方 6. 絵本のタイ文とディスカッション(1) 7. 絵本のタイ文とディスカッション(2) 8. 絵本のタイ文とディスカッション(3) 10. 絵本のタイ文とディスカッション(4) 11. 絵本のタイ文とディスカッション(5) 12. 絵本のタイ文とディスカッション(6) 13. 絵本の仕上げの説明 14. 絵本の仕上げ 15. 総括		
教科書・参考書等/Textbooks	収集した日本の絵本		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加状況・態度40%とレポート(完成絵本)60%によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	この講義の中での翻訳活動は大変と思いますが、この機会に是非自分が身につけたタイ語の力を生かして、volunteerの気持ちを持って、日本の絵本をタイの農村地帯の子供に届けましょう。子供たちは夢があふれている絵本を待っています。是非、この機会になかなか少ない機会のDeveloping Countryの村にhome stayし、子供たちと交流して、国際感覚を身につけましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	朝鮮語講読B / Korean Reading B		
担当教員(所属) / Instructor	佐々木 史郎(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K116103
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 水 / Wed 3, 水 / Wed 4	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	佐々木 史郎(sasakis@cc.utsunomiya-u.ac.jp 内線5222)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	佐々木 史郎(月曜日 12:10~13:10 峰町5号館A棟(国際学部A棟)2階 佐々木(史)資料室)		
授業の内容 / Course Description	毎週、500字から800字程度の朝鮮語の文章を読むことによって、朝鮮語の文法と特有の言い回しを学び、韓国の文化や社会、歴史などについての理解を深めます。		
授業の達成目標 / Course Goals	中級レベルの朝鮮語文献を読みこなせる読解力を養いつつ、韓国の文化や社会、歴史、政治、時事問題などに関する専門用語をも覚えます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	学部基礎科目関係の専門外国語科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	『朝鮮語入門Ⅰ・Ⅱ』『朝鮮語入門Ⅲ・Ⅳ』『朝鮮語応用Ⅰ』『朝鮮語講読A』を履修した者を対象とします。		
関連科目 / Related Courses	『朝鮮語入門Ⅰ・Ⅱ』『朝鮮語入門Ⅲ・Ⅳ』『朝鮮語応用Ⅰ』『朝鮮語講読A』を履修した者を対象とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回、前もってプリントを配布し、それを翌週、順次逐次訳して行きます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. ガイダンス・レベルチェック 2. 小文(初級文法の確認1) 3. 小文(初級文法の確認2) 4. 小文(初級文法の確認3) 5. 小文(初級文法の確認4) 6. 初等学校教科書(国語) 7. 初等学校教科書(社会) 8. 練習タイム: 中級レベル 9. 中学校・高等学校教科書 10. 新聞記事(文化・芸能) 11. 新聞記事(社会・世相) 12. 新聞社説 13. 一般書籍の文章(生活・風俗) 14. 一般書籍の文章(地誌・紀行) 15. まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	毎回プリントを配布します。		
成績評価の方法 / Evaluation	毎回の授業課題60%、期末試験40%を総合的に評価します。		
学習上の助言 / Learning Advice	★できるだけ『朝鮮語講読A』と『朝鮮語応用Ⅰ』『朝鮮語文章表現』を併せて履修するようにしてください。 ★翻訳の楽しさを味わってください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地球市民社会論/Theory of Global Civil Society		
担当教員(所属)/Instructor	重田 康博(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K119050
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	重田 康博(shigeta@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	重田 康博(水曜日14:30-16:00、来訪前に必ずメールでお問い合わせ下さい。)		
授業の内容/Course Description	本授業では、地球市民社会、中でも特に重要な担い手である国際NGOについて学びます。地球市民社会の意義、役割、定義、特徴、起源と歴史、発展の流れ、文化、先進国・途上国・日本の地球市民社会について論じ、地球市民社会の基礎と実践、地球市民社会のキャリア形成を理解することを目標とします。		
授業の達成目標/Course Goals	本授業の到達目的は、地球市民社会の全体像を把握し、地球市民社会の基本的な知識を学ぶことです。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	地球市民社会(国際NGO等)の発展の歴史、地球市民社会や国際NGOの定義や基礎知識を得ることです。		
前提とする知識/Prerequisites	地球市民社会、国際NGO、NPO、国際協力、グローバル・ガバナンスに関心のあることが望ましいです。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	ビデオ、DVD鑑賞、参加型学習の手法を取り入れて授業を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	1 オリエンテーション 2地球市民社会の意義と役割 3地球市民社会の定義 4欧米の地球市民社会の変遷①—欧米の市民社会、イギリスのチャリティ 5欧米の地球市民社会の変遷②—19世紀から第1次世界大戦までの国際NGO活動 6欧米の地球市民社会の変遷③—第2次世界大戦以後の国際NGO活動 7アジアの地球市民社会の変遷①—第2次世界大戦後の国際NGO活動(東南アジア、南アジアのNGOを中心に) 8アジアの地球市民社会の変遷②—第2次世界大戦後の国際NGO活動(東南アジア、南アジアのNGOを中心に) 9アジアの地球市民社会の変遷③—第2次世界大戦後の国際NGO活動(東南アジア、南アジアのNGOを中心に) 10地球市民社会のネットワーク—第2次世界大戦後のネットワーク活動 11日本の地球市民社会の現状—日本の公益法人とNPO法人、日本の国際協力NGOの現状と基準 12日本の地球市民社会の変遷①—過去の日本の市民社会、第2次世界大戦から1980年代までの日本の国際NGO活動 13日本の地球市民社会の変遷②—1990年代以後の日本の国際NGO活動 14地球市民社会の発展理論—NGOの発展段階、NGOの発展とNGOの発展の阻害要因(問題点) 15 まとめ、地球市民社会でのキャリア形成を考える		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書: 重田康博(2005年)『NGOの発展の軌跡』明石書店。その他授業中にプリントを配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席回数9回以上授業に出席しないと評価の対象としません。成績評価は、学期末試験(70%)、授業出席回数(20%)その他レポート等(10%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	今後世界や日本において、地球市民社会や国際NGOの役割が大きくなっていきます。是非地球市民社会について学習して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	グローバル教育論/Global Education		
担当教員(所属)/Instructor	湯本 浩之(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130710
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	湯本 浩之(研究室: 峰キャンパス5号館C棟1階 TEL&FAX: 028-649-5236 (直通) E-mail: yumoto@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	湯本 浩之(毎週火曜: 12:10~13:00 ※来室するには事前に連絡してください。オフィスアワー以外でも可能な範囲で対応します。)		
授業の内容/Course Description	今や70億人を越える人々が暮らす地球社会は、貧困や格差、環境破壊や人権侵害、文化摩擦や地域紛争などの地球的課題(global issues)に直面しています。この授業では、こうした地球的課題の理解や解決に向けた教育活動として国内外で取り組まれてきたユネスコの国際教育や欧米のグローバル教育などを取り上げ、その理念や実践に着目しながら、オルタナティブな教育としての今後の役割や可能性について検討します。		
授業の達成目標/Course Goals	①現代社会を批判的(critical)に読み解き、地球的課題の現状やその要因に対する認識や理解を深める。 ②グローバル教育やその他の隣接教育(開発教育や環境教育など)の概要を理解し、日本の各種教育現場や市民活動などでの展開や応用について考察する。 ③公正で持続可能な地球社会の実現に向けて「教育」の果たすべき役割やその可能性について構想する。 ④地球的課題をテーマとするミニ教材やミニ・アクティビティを制作する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業の目標は、国際社会学科のディプロマ・ポリシーに掲げられている4項目の中でも、特に以下の項目に関連します。 (A)知識・理解: 国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける。 (B)思考・判断: 異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 また、本学が重視するグローバル人材の育成との関連では、「地域からの視点を持ち、複眼的思考に基づいて創造的で能動的な行動ができる人材の育成」という目的に寄与しようとするものです。		
前提とする知識/Prerequisites	基盤教育の教養科目(総合系科目)の「ワークショップで学ぶ変わりゆく世界と私たち」や「ワークショップで学ぶボランティアと市民活動」は、この授業の実践的な導入科目となりますので、予め受講しておくことを強く推奨します。 なお、この授業を前提とする知識はありませんが、地球社会が直面している貧困や格差、環境・人権・平和などに関する課題、また、国内外の教育問題や教育事情などに関心があることが望まれます。		
関連科目/Related Courses	基盤教育(総合系科目): 「ワークショップで学ぶ変わりゆく世界と私たち」 「ワークショップで学ぶボランティアと市民活動」 専門教育科目: 「グローバル教育演習」「卒業研究準備演習」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式の授業ほか、ワークショップ(ディスカッションやグループワークなど)の手法や形式を採り入れた授業も行う予定です。 なお、履修者の人数や関心等によっては、授業計画の内容や順序を一部変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーションとワークショップ(WS)1「世界がもし100人の村だったら」 第2週 WS2「世界の中のわたしと私の中の世界」 第3週 WS3「地球的課題(Global Issues)とは何か」 第4週 講義1「地球的課題(Global Issues)とは何か」 第5週 講義2「教育基本法を読んでみる: 21世紀の地球社会における教育とは何か」 第6週 WS4「写真で学ぼう!地球の食卓」 第7週 WS5「“水”はどこから?」 第8週 講義3「ユネスコ憲章を読んでみる: ユネスコの国際教育の変遷」 第9週 講義4「3つのグローバル教育」 第10週 WS6「“テロ”をどう教え、どう学ぶのか?」 第11週 講義5「グローバル教育の理念: 基本的人権と市民的自由について」 第12週 WS7「レヌカの学び&“ちがひ”のちがひ」 第13週 WS8「おいしいチョコレートの実態」 第14週 WS9「このTシャツはどこから来るの?」 第15週 講義6「参加型学習: ワorkshopとファシリテーション」		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しません。各回の授業時にレジュメや資料を配付しますので、保存用のファイルを各自持参して下さい。参考図書や関連教材等は授業内で随時紹介します。		

成績評価の方法／Evaluation	平常点（出席30％・授業内の提出物40％）、最終レポート（30％）。
学習上の助言／Learning Advice	私たちが暮らすこのグローバル社会は「知識社会」とも「生涯学習時代」とも言われます。いずれにせよ、もはや「教育」は学校や大学だけで行われるものではなく、これらの教育機関を卒業してからも、私たちはグローバル化の進む「地域」や「組織」の中で、「何か」を「学び」続けていくことが求められています。 そうだとすれば、わたしたちはいったい「何をどのように」学んでいくことが求められているのでしょうか。国内外で試行錯誤されてきた「グローバル教育」の経験や現状から学んでみたいと思います。
キーワード／Keywords	グローバル化、地球の課題、教育基本法、ユネスコ、国際理解教育、開発教育、環境教育、人権教育、平和教育、市民教育、参加型学習、アクティブ・ラーニング、ワークショップ、ファシリテーション
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	比較思想論／Comparative Study of Thought		
担当教員(所属)／Instructor	高山 宏司(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K530368
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高山 宏司(takayamk@rr.iij4u.or.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	高山 宏司(個人的な質問や相談は授業が行われる教室で授業の前後にお願いします)		
授業の内容／Course Description	ソクラテスやプラトンの名前は高校の社会科の教科書でもなじみかと思いますが、彼らがどのような歴史的状況の中でどのような思想を形成したかを多面的に学ぶのは大学の授業ならではのと思います。		
授業の達成目標／Course Goals	西洋の古典古代の政治思想において一世を風靡したのみならず、中世から近代に至るまで理想国家という概念によって現実政治に影響を与えてきたプラトンの政治理論を知るため、それを同時代の地中海世界で活躍していたソフィスト達の政治思想と比較しつつ講じていこうと思います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この授業は、国際学部の教育目標(A)の特に「世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解(…)」に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	通常の講義形式の授業です。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	だいたい次のような順番で授業を行う予定です。 第一週：紀元前5世紀の古代ギリシャ史とソクラテス 第二週：プラトンの生涯 第三週：プラトンのテキストの真偽問題について 第四週：ソクラテス裁判を巡る著作群について 第五週：「プロタゴラス」と「ゴルギアス」 第六週：「メノン」における想起説 第七週：「饗宴」における中期思想の開幕 第八週：「パイドン」死の練習としての哲学 第九週：「パイドロス」について 第十週：「国家」(1)人はなぜ正しく生きなくてはならないのか(問題設定) 第十一週：「国家」(2)理想国家と正しい魂について 第十二週：「国家」(3)悪しき国家と悪しき魂について 第十三週：「国家」(4)人はなぜ正しく生きなくてはならないのか(結論) 第十四週：「パルメニデス」と後期の二つの三部作の構想 第十五週：「法律」において理想国家論の修正はどのようになされたのか？ 第十六週：試験		
教科書・参考書等／Textbooks	なし		
成績評価の方法／Evaluation	学期末試験の成績で決めます(100%)。		
学習上の助言／Learning Advice	紀元前5世紀から同4世紀にかけての古代ギリシャ史について概略でも知っていれば(高校の世界史程度でも良い)ずいぶん授業に親しみやすくなると思います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	上級英語会話 / Advanced English conversation		
担当教員(所属) / Instructor	湯澤 伸夫(国際学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	K110106
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 水 / Wed 5, 水 / Wed 6	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	言語に関する映像をもとに発表と討議を英語で行う。		
授業の達成目標 / Course Goals	言語に関して、英語で理解し、発表や討議ができるようになること。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	言語に関する知識と理解を深め、言語分析に関する客観的な思考と学術的内容を英語で発表・討議する技能を養い、言語に関する関心を高める。		
前提とする知識 / Prerequisites	言語学に関する基礎知識を持ち、英語で自己表現する基礎力を持っていること。		
関連科目 / Related Courses	言語学に関する基礎知識を持ち、英語で自己表現する基礎力を持っていること。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回、事前に決められた言語に関する映像に関して、発表と討議を行う。授業は英語で行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 Introduction 第2週 The sounds of language 第3週 The sound patterns of language 第4週 Word Formation 第5週 Morphology 第6週 Grammar 第7週 Syntax 第8週 Semantics 第9週 Pragmatics 第10週 First language acquisition 第11週 Second language learning 第12週 Language history and change 第13週 Language and regional variation 第14週 Language and social variation 第15週 Language and Culture		
教科書・参考書等 / Textbooks	特になし。映像を指定する。		
成績評価の方法 / Evaluation	毎週の授業中の英語による発表と議論を総合的に評価する。		
学習上の助言 / Learning Advice	授業に出席するには、発表担当者でなくても、指定された映像を見て理解していることを前提とする。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際法/International Law		
担当教員(所属)/Instructor	今井 直(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K120020
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	今井 直(imai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	今井 直(前期:木曜5-6, 後期:水曜昼休み(研究室、授業期間中)、またはメールによる予約)		
授業の内容/Course Description	本授業では、まず国際法の歴史を学ぶことにより、その根源的性質を探ります。国際法は近代欧州社会において成立、発展し、その後欧州列強の世界進出とともに国際法の適用範囲も拡大されてきました。ここに、今日でも完全には拭いきれない国際法のイデオロギー的特徴があります。日本が明治時代に「脱亜入欧」のスローガンの下に国際法教育に熱心だったことから、それがわかります。次に、国際法の基本的な理論・概念の問題として、国際法の法的性質、法源、主体、国内法との関係などについて学びます。これらは、国際法のまさに基本知識ですので、詳しく説明します。国際法全般をカバーするには半期の授業はあまりに短いので、後半は、国際平和の維持に関わる問題に焦点を絞ります。現代の国際社会において武力行使が正当化されるためには、あくまで国際法にのっとったものでなければなりません。国際社会を「無法地帯」にしないための国際法の営みとその限界を明らかにします。		
授業の達成目標/Course Goals	国際社会の法である国際法は、国際紛争を解決する基準・手段として用いられ、また人権保護や地球環境保護といった人類共通の利益を追求するために使われています。また、それを利用する主体も、諸国政府、国際組織、民族団体、個人、企業、NGOなどさまざまです。国際政治、国際経済、武力紛争、人権、環境、軍縮などの国際社会の諸問題に取り組むとき、またそうした問題を分析、評価するとき、国際法は重要な根拠ともなります。本授業は、国際社会の現実の諸過程で使われる国際法が、どのような法であるのか、またどのように機能しているのかを、理解することをめざします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際法とはどのような法であり、どのように機能しているかを理解することにより、外交、国際紛争、グローバルな問題等国際社会の事象を考察、評価する際の重要な根拠を習得できます。また、国際時事問題に関連するリーガル・マインドを養うことができます。国際社会学科のディプロマポリシーとの関連で言えば、(A)知識・理解:国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける、(B)思考・判断:異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる、と特に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses	「法学入門」や「日本国憲法」を、前もってあるいは並行して受講してもらえれば、法とは何かについて考える機会が広がると思います。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業は講義形式により行います。教科書だけでなく、資料も配布しますが、自らノートをとることは身につけるべき大事な技術ですので、与えられるものだけに頼らないよう心がけてください。なお、扱うテーマは教科書がカバーする問題の一部にすぎないので、授業で扱わないテーマについても教科書を読んで勉強するよう努めてください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 ガイダンス 第2週 国際法の意義、法的性質 第3週 近代国際法の成立 第4週 近代国際法の発展、現代国際法 第5週 国際法の法源、慣習国際法 第6週 条約法 第7週 条約の国内的効力・適用 第8週 紛争の平和的解決 第9週 戦争の違法化 第10週 自衛権 第11週 集団的自衛権 第12週 集団的安全保障 第13週 武力行使をめぐる現代的諸課題 第14週 最近の事例研究 第15週 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:島田征夫編著『国際法学入門』(成文堂、2011年)。参考書:条約集、六法(出版社限定せず)。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験を中心に(随時レポートを加味して)評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	国際法に関わる問題は、日常的に生起しており、新聞、雑誌、テレビなどのメディアを通じて日頃から関心を払ってもらいたいと思います。国際問題を考える上で国際法の観点をふまえることを忘れないよう心がけてください。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	Latin American Politics and Society/Latin American Politics and Society		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K130698
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日10:00~12:00 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	新大陸の発見、スペイン、ポルトガルによる征服から、植民地時代、独立、初期の共和政時代までを網羅し、これらの現在ラテンアメリカへの影響を考察します。		
授業の達成目標/Course Goals	現代ラテンアメリカ状況を理解できるようになることを目標とします。そのため歴史を把握する必要がありますので、現代ラテンアメリカ及びカリブ海地域を形成する経済的特徴の基盤となっている言語、宗教、習慣、信仰、社会的及び政治的な制度というイベリア半島の遺産の他に、スペインによる植民地支配の間に確立された重商主義のシステムは貧困と不平等、政治的権力の集中、汚職、競争の悪循環、ジェンダーと教育、制度上の欠陥、レントシーキングの蔓延るについて考察します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本講義はディプロマポリシーA, Dに関連します。国際学部の専門教育科目であり、ラテンアメリカの政治、経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	国際学特殊講義A(旧国際学特殊講義II)		
関連科目/Related Courses	国際学特殊講義A(旧国際学特殊講義II)		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本講義は2部により構成されます。第1部は9回目までの講義により構成され、受講者は5冊ほどの規定の文献を、授業ごとに前もって熟読かつ分析して講義に臨むものとします。視聴覚資料が有用ならば、イラストやパワーポイントのスライド、DVD映画、ドキュメンタリーを使用します。すべての講義では講義全体の概要を踏まえ、結論を導くディスカッションを行います。第2部は10回目の講義から始まり、受講者は第1部の間に抱いた問題について発表を行います。各講義では、まず現代ラテンアメリカのテーマについて議論する予定です。このため、受講者は議論に参加するために、あらかじめ論文を1冊、またはインターネットや雑誌、新聞のニュースをいくつか読んでこななければいけません。このシラバスの内容は授業の進行具合によって、多少変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明、背景 第2週征服、植民地時代(1492-1800) 第3週独立戦争(1800-1850) 第4週独立後(1850-1880) 第5週世界経済への輸出(1880-1930) 第6週輸入代替工業化(1930s-1950s) 第7週輸入代替工業化の拡大(1960s-1970s) 第8週失われた10年間(1980s) 第9週新自由主義へ(1990s) 第10週国かテーマを選んだ学生の発表 第11週国かテーマを選んだ学生の発表 第12週国かテーマを選んだ学生の発表 第13週国かテーマを選んだ学生の発表 第14週国かテーマを選んだ学生の発表 第15週期末まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	Skidmore, Thomas E. and Peter H. Smith (2010) Modern Latin America, seventh ed., New York: Oxford University Press.		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	本演習にスペイン語の知識や経験は必要ありません。授業は英語により進行しますが、ディスカッションや発表、レポートに関しては日本語を使用して行っても構いません。また、学生が授業の内容を明確に理解できるように日本語の要約も用意する予定です。授業への積極的な参加を大いに歓迎します。		

キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	イギリス文化論／Studies in British Culture		
担当教員(所属)／Instructor	出羽 尚(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K530147
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	出羽 尚(izuha@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	出羽 尚(月曜日14:30-16:00)		
授業の内容／Course Description	イギリスの文化を形成する様々な側面について広く学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	・イギリス文化についての基礎的な知識を獲得する。 ・獲得した知識をもとに、その他の分野・地域の文化的事象に対しても積極的に興味を広げられるようにする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国際学部のディプロマ・ポリシー(A)世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけたうえで、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する、に対応する。		
前提とする知識／Prerequisites	様々な文化に興味を持つようとする積極性		
関連科目／Related Courses	「英語圏文化論」、「ヨーロッパ地域文化論(基盤)」、「芸術と自然(基盤)」		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式が基本ではあるが、人数によっては、発言をしたり、考えをまとめたりする機会もある。併せて、文献を要約する作業と作品調査を複数回行ってもらう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 イントロダクション：イギリスの現状・地理 第2-3回 言語 第4-5回 美学・文学 第6-7回 庭園 第8回 見学(庭園と建築) 第9-10回 建築 第11回 博物館・美術館 第12-13回 美術 第14回 大衆文化 第15回 まとめ 第16回 期末テスト		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は定めない。必要な参考文献を提示した資料を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業時の活動(文献要約、作品調査等)40%と期末試験60%の割合で算出し評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	主体的に様々な文化に触れるよう努めて欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日欧比較文学論/Comparative Study of Japanese and European Literature		
担当教員(所属)/Instructor	市川 裕見子(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530260
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	シェイクスピアの戯曲は、悲劇、喜劇、歴史劇あわせて37以上にのぼり、四大悲劇『マクベス』、『リア王』、『ハムレット』、『オセロウ』や、恋愛悲劇『ロミオとジュリエット』を中心に、現在でも世界中の各地の劇場で上演が行われ、かつその脚本は各国語に翻訳されて、文学作品として鑑賞されています。またそれらの作品は、オペラ、バレエ、人形芝居、映画、テレビドラマと、あらゆる表象芸術、媒体に変容し、受容されていて、その歴史も長くなりました。 本講義では、シェイクスピア戯曲のいくつかを取り上げて、それら原作がたどったその歴史的展開とヴァリエーションのありようを、実作品に即して見てゆきます。それによって浮かび上がってくる、国や時代による文化背景の違い、文学・芸術メディアのもつそれぞれの特質の違い、製作者の個性の相違などに注目しつつ、比較文学的考察を加えたと思います。特に日欧の比較の観点からは、日本におけるシェイクスピア翻訳の変遷、シェイクスピアに題材をとった日本の小説作品、日本映画におけるシェイクスピア、現在の日本におけるシェイクスピア上演などを扱う予定です。		
授業の達成目標/Course Goals	ひとつの国、ひとつの時代に生まれ、世界的な古典ともなった文学作品の影響、受容そしてその再生産を通して、文学の伝統と変容について思いをいたすきっかけとしたいと思います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	各学生の専攻に応じて、教養として、または専門の研究に必要な基礎知識として役立ててください。		
前提とする知識/Prerequisites	特にはありませんが、一定の英語力と、文学に対する深い関心があることを望みます。		
関連科目/Related Courses	特にはありませんが、一定の英語力と、文学に対する深い関心があることを望みます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回導入部。 第2回『ロミオとジュリエット』 作品の成り立ちと梗概、成立の時代背景および上演形態。 諸ジャンルにおいて再生産されるヴァリエーション作品。 第5回グローバルかつ現代にいたるまでのその影響。 第6回『ハムレット』 作品の成り立ちと梗概。 近代日本における当該作品の紹介、受容およびその影響。 諸ジャンルにおいて再生産されるヴァリエーション作品。 第10回漱石『草枕』、太宰治『新ハムレット』 第11回『十二夜』喜劇の成立とその展開。 第12回『ヘンリー五世』歴史劇の成立とその展開。 第13回『マクベス』悲劇の成立とその展開。 第14回黒澤明『蜘蛛の巣城』。 第15回まとめ。		
教科書・参考書等/Textbooks	★小田島雄志訳・シェイクスピア全集(白水Uブックス) ★The New Penguin Shakespeare シリーズ(Penguin Books) 上記以外にも、シェイクスピア作品はいろいろなヴァージョンで読むことができます。それらについては初回に紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席と中間レポート(内容は追って指示します)、期末試験(ノートおよび授業中の配布プリントのみ持ち込み可)により評価します。 なお、出席率が三分の二に満たない場合は、単位を取得できません。		
学習上の助言/Learning Advice	是非、作品を実際に観る、読む、聞くなどして味わってください。		

キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	民族誌学/Ethnology		
担当教員(所属)/Instructor	柄木田 康之(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530538
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	柄木田 康之(tel: 028-649-5207 e-mail: karakita@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	柄木田 康之(月曜日12:05~12:45 あるいは電話・メールでアポイントメントをとってください。 於: 峰5号館A棟3階柄木田研究室)		
授業の内容/Course Description	文化人類学では贈与と交換と商品交換をさまざまな形で区分してきた。この授業では贈与と商品の対比を概観することで、ローカルとグローバルに同時に接近する人類学の可能性を検討する。		
授業の達成目標/Course Goals	構造主義、形式・実体主義経済人類学、マルクス主義人類学、世界システム論、オリエンタリズム批判などの人類学諸理論に見られる贈与と商品のさまざまな対比の在り方の理解		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は以下の学習・教育目標と関連します。 (A) 知識・理解: 世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。 (B) 思考・判断: 異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。 (C) 技能・表現: 講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。		
前提とする知識/Prerequisites	「文化人類学」あるいは「文化人類学入門」を履修していること。		
関連科目/Related Courses	文化人類学」あるいは「文化人類学入門」を履修していること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	人の話を聞きながらメモを取ることは、大学で身につけるべき重要な技術です。このため授業は講義を中心とします。ただしAV教材等を利用して、具体的なケースの紹介に努めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1)オリエンテーション 2)贈与と交換と商品交換 3)交換のドキュメンタリー鑑賞 4)トロブリアド諸島のクラ交換 5)『贈与論』と『親族の基本構造』 6)一般交換と世界観 7)形式主義と実体主義 8)互惠性、再分配、市場交換 9)交換領域と貨幣経済の浸透 10)貨幣経済化に関するドキュメンタリー鑑賞 11)貨幣経済化と対抗文化;中米の事例 12)貨幣経済化と対抗文化;オセアニアの事例 13)開発と人類学 14)全体の復習 15)期末試験準備		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中にプリントを配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	質問など授業への積極的参加(40%)と期末試験(60%)で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	民族誌学演習の履修を希望する学生は本講義を履修してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	フランス語講読B／French Reading B		
担当教員(所属)／Instructor	市川 裕見子(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	K112205
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	毎年出席する学生のフランス語体験、学力が異なるので、初回に顔合わせをし、希望も聞いたうえで、使用テキストを決定、もしくは随時プリント配布を行うことにします。一応、案として原語漫画、映画脚本、絵画解説、料理読本、物語、小説などを準備しています。		
授業の達成目標／Course Goals	本授業は、フランス語の基礎学力を十分に身につけた学生を対象に、演習形式で様々なフランス語の文章に触れ、読解力を養ってゆくものです。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	外国語の習熟に該当する。		
前提とする知識／Prerequisites	大学1年次のフランス語の授業で身につけた、フランス語の基礎学力。できれば前期に、「フランス語講読A」を取っていることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	大学1年次のフランス語の授業で身につけた、フランス語の基礎学力。できれば前期に、「フランス語講読A」を取っていることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	各自よく予習をしてきた上で、毎回授業時に適宜当てて、訳やコメントを発表してもらいます。教官の解説を交えながら、出席者もディスカッションを行って、テキストについてより正確で緻密な理解を深めてゆきます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回教官によるテキストについての紹介、解説。 テキストの選択。 第2回 ┆テキスト講読 第15回		
教科書・参考書等／Textbooks	初回に指示します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業の出席、発表、小テストの成績等(50%)と、期末試験の成績(50%)により、総合的に評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	演習形式を取るなので、基本的に欠席せず、かつよく予習をしてきてください。フランス語およびフランスの文化に対する強い関心と愛情(?)のある人が集まれば、面白い演習になると思います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語文章表現/Spanish Composition		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K117350
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日10:00~12:00 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を書けるよう練習します。		
授業の達成目標/Course Goals	初級文法を復習しながら、辞書を使えばある程度文章が書けるようになることを目指します。スペイン語圏への留学、旅行、就職などについて、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を書けるように練習します。文の構成を考慮しながら、インフォーマルとフォーマルを区別して、要求、招待、感謝、報告、お勧め、いろんな表現を伝えられるようにします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本演習はディプロマポリシーCに関連します。国際学部の専門教育科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語の文章表現を学習したい学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	スペイン語応用I、スペイン語応用II、スペイン語応用III、スペイン語応用IV。		
関連科目/Related Courses	スペイン語応用I、スペイン語応用II、スペイン語応用III、スペイン語応用IV。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎週二段階で新しい文を書くことを目指します。一段階では単語とバラバラの文章を紹介してから、似ている文章を参考にして文を作成する予定です。単語を増やすために、テーマ別のスライドを導入します。手書き、パソコン、どちらでも文章を作成する予定です。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明、クラスの名簿、名刺を作成 第2週各種書類の記入方法、アンケート 第3週メモ、命令、お願い、アンケート 第4週手紙の部分、インフォーマルとフォーマル 第5週性格・外見の描写、衣料、アンケート 第6週家を探す、理想的な住まい、住まいの描写 第7週まとめ 第8週好き、嫌い、レシピ、アンケート 第9週レシピ、指示、直接・間接目的語 第10週招待、メモ、命令 第11週私の町、町を描写、行き方を伝える 第12週日記・報告書、現在完了 第13週履歴書・伝記、点過去 第14週過去を描写・物語、線過去 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	授業の進行状況によって作成したプリントを使用する。パワーポイントのスライド、フラッシュカードゲームを利用。和西・西和辞書。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際政治論/International Politics		
担当教員(所属)/Instructor	松村 史紀(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K120011
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松村 史紀(f-matsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp 電話:028-649-5190)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松村 史紀(月曜日12:30~13:30)		
授業の内容/Course Description	国際社会は世界政府がないため、戦争と平和の間を揺れ動く。この不安定な政治のすがたを理解するために、三つの基本的な分析枠組み(理論)を学習した後、基礎的構成(戦争と外交)と成熟した秩序(法制化と貧困・暴力の克服)、具体的な国際情勢を一つ一つ順を追って解剖していこう。		
授業の達成目標/Course Goals	国際社会で起こる現象を表面的に知るのではなく、国際政治を理解するための理論的発想を身につけることから始める。そして、最終的に具体的な事象をその基礎的構成と機能(成熟した秩序)から捉えることができるようになることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	世界で起こっている社会現象を、国家や国際機構、市民社会そして人と人とのコミュニケーションという多層的な観点から考察するための、総合的な理解力、基礎学力そして情報処理能力を養成する。		
前提とする知識/Prerequisites	「国際政治史」(基盤教育科目)を受講していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「国際関係論」「国際政治史」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、穴埋め式のレジュメを配布して、板書・パワーポイントなどを利用して講義を進める。授業時間内に問題を出し、それをコメント・ペーパーあるいは小レポートとして提出してもらう。課題提出は期限を厳守する。予習は指定した参考書の該当箇所、復習は配布したレジュメによって進めること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. イントロダクション:『七人の侍』と政策決定 2. 国内政治から国際政治へ 3. 国際政治学の理論:三つのイメージ 4. 力による平和(1):現実主義の世界 5. 力による平和(2):新しい現実主義とアメリカによる覇権秩序 6. 利益による平和(1):リベラリズムと理想主義 7. 利益による平和(2):相互依存と法制化の展開 8. タテの世界(1):グローバリズムの源流 9. タテの世界(2):第三世界からみた世界像 10. 基礎的構成(1):力と力の見解 11. 基礎的構成(2):同盟を考える 12. 現実の展開(1):現代アジアの国際政治 13. 現実の展開(2):現代ヨーロッパの国際政治 14. 成熟した秩序をめざして(1):法制化を試みる 15. 成熟した秩序をめざして(2):三つの圏域		
教科書・参考書等/Textbooks	教材は、毎回配布するレジュメであるが、以下を有用な参考書として挙げておく。 ポール.R.ピオティ他(石坂菜穂子他訳)『国際関係論』、1993年/進藤榮一『現代国際関係学』有斐閣、2001年/藤原帰一『国際政治』放送大学出版会、2007年/山影進『国際関係論講義』東京大学出版会、2012年/日本国際政治学会編『日本の国際政治学』有斐閣、14巻、2009年		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(コメント・ペーパー、小レポートの内容等)30%、定期試験 70%		
学習上の助言/Learning Advice	この講義では主に以下の映画を利用するが、部分的にしか観賞できないため、事前に見ておくことが望ましい。『七人の侍』、『となり町戦争』、『用心棒』、『モダン・タイムス』、『チャーリーとチョコレート工場』、など。		
キーワード/Keywords	国際関係 国際政治経済 ヨーロッパ アジア 日本外交 中国外交		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ文化論/Studies in German Culture		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	K530183
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	講義では、主にドイツ連邦共和国の社会・文化を理解する上でキーとなる事項についてお話しします。型どおりの知識と いうよりも、むしろ学生として知っていて欲しい情報を大学・日常生活・歴史・文学・事件等をテーマとしてお話しします。履修者はドイツ語の知識がなくても、特に学修上支障があるということはありません。		
授業の達成目標/Course Goals	1 ヨーロッパにおけるドイツ語圏諸国と地域(ドイツ、オーストリア、スイス等)について一般的知識を得ること。 2 ドイツと日本との多様な関係について一般的知識を得ること。 3 ドイツ社会システム、人々の暮らし、思考形式等について一般的知識を得ること		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語圏地域の社会・文化・歴史等の一般的知識を獲得するとともに、それら知識を踏まえ、グローバルな観点からドイツ・ヨーロッパの将来および日本との関係を展望する。		
前提とする知識/Prerequisites	ヨーロッパに関する常識的知識(含:歴史・政治・経済・倫理)で充分です。履修ガイドも参照ください。		
関連科目/Related Courses	ヨーロッパに関する常識的知識(含:歴史・政治・経済・倫理)で充分です。履修ガイドも参照ください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	主に、ドイツ連邦共和国を中心に紹介します。その際、具体的事実・情報について、関連するビデオ(DVD)や文献、プリント等を用いて解説します。ドイツ現代社会、文化、歴史、哲学、政治、ドイツ語に関心のある方の参加を期待します。 また、授業11~15回は履修者のグループによるドイツに関する自由研究発表にあてます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1 イントロダクション:(授業概要)ヨーロッパ・ドイツ・日本 2 ドイツの教育・学校制度:アビトゥーア(大学入学資格試験) 3 ドイツ人の暮らしとドイツ人の性格:清潔と合理性 4 ドイツ再統一とEUヨーロッパの中のドイツ 5 メールヒェンの世界の複雑性と怪奇性 6 18世紀ドイツ:劇(レッシング)、文学(ゲーテ)、哲学(カント) 7 ドイツの外国人労働者と移民(国籍・共生) 8 ドイツ社会の問題:高齢化と福祉、産業と環境(原発) 9 日本とドイツ:ケンペル(17世紀の終わり)とシーボルト(19世紀)と現代 10 ドイツ人留学生の話(勉強、学生生活、就職、日本とのかかわり) 11 1回目から15回目:興味あるテーマについてのグループ発表 ○興味あるテーマについてのグループ(3名程度)発表とする。		
教科書・参考書等/Textbooks	『最新ドイツ事情を知るための50章』を基本文献とします。その他、適宜プリント等を配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	平常の授業への参加50%、発表・試験50%で評価します。ただし、知識を問う試験は行いません。		
学習上の助言/Learning Advice	ドイツ語履修者が少なくなって来ています。その原因は英語が国際語となっている現状があると思います。しかし、顔や能力が個人個人異なるように、国や社会や文化も一様ではありません、ドイツ語圏諸国(ドイツ人等)の個性を紹介できればと考えます。		
キーワード/Keywords	授業計画参照のこと。		
備考/Notes			